

平成20年度 第13回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会

日時：平成 21 年 3 月 23 日（月） 15:30～17:30
場所：厚生労働省専用第 18～20 会議室（17 階）

議事次第

- 1 調整係数の廃止に伴う新たな機能評価係数等の検討について
 - これまでに検討された項目の整理
 - 松田研究班からの報告
 - 2 その他

診療報酬調査専門組織（DPC評価分科会）座席表

(日時) 平成21年3月23日(月) 15:30~17:30

(会場) 厚生労働省専用第18~20会議室(17階)

診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会委員一覧

<委員>

氏名	所属等
相川 直樹	慶應義塾大学医学部救急医学教授
池上 直己	慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教授
伊藤 澄信	独立行政法人 国立病院機構本部医療部研究課長
木下 勝之	医療法人社団九折会 成城木下病院理事長
熊本 一朗	鹿児島大学医療情報管理学教授
小山 信彌	東邦大学医療センター大森病院心臓血管外科部長
齊藤 寿一	社会保険中央総合病院長
酒巻 哲夫	群馬大学医療情報部教授
佐藤 博	新潟大学教授・医歯学総合病院薬剤部長
嶋森 好子	慶應義塾大学看護医疗学部教授
辻村 信正	国立保健医療科学院 企画調整主幹
難波 貞夫	富士重工業健康保険組合総合太田病院病院長
西岡 清	横浜市立みなと赤十字病院院長
原 正道	横浜市病院事業管理者病院経営局長
松田 晋哉	産業医科大学医学部公衆衛生学教授
山口 俊晴	癌研究会有明病院消化器外科部長
山口 直人	東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学第二講座主任教授
吉田 英機	昭和大学医学部名誉教授

◎

○

◎ 分科会長 ○ 分科会長代理

<オブザーバー>

氏名	所属等
邊見 公雄	赤穂市民病院長

DPC 評価分科会での新たな「機能評価係数」に関する検討の経過報告②(案)

I. 概要

DPCにおける新たな「機能評価係数」に係るこれまでの議論

- ① 中医協基本問題小委員会において、「新たな「機能評価係数」に関する基本的考え方」をまとめた（平成20年12月17日）。（別紙）
- ② DPC評価分科会において、この基本的考え方沿って、新たな「機能評価係数」の候補について検討を重ねてきた。
- ③ 平成21年度より、ケアミックス型病院をはじめ、地域医療において様々な機能を担う病院がDPCの対象となることを踏まえ、DPC評価分科会において、こうした医療機関との意見交換も行った。
- ④ 中医協・基本問題小委員会（平成21年2月25日）の議論も踏まえ、以下の点を考慮して評価するべき項目の絞り込みを行った。
 - ア. 新たな「機能評価係数」に関する基本的考え方との合致
 - イ. 現行の「DPCの影響評価に関する調査」（以下、「DPCデータ」）の活用
 - ウ. 現行の機能評価係数や出来高部分と評価が重複する可能性がある項目の整理等

II. 具体的な項目の提案等

上記Iの④を踏まえて、DPC評価分科会としてこれまでに提案された具体的な項目について検討し、今後は具体的なデータ分析を行うことから、DPCデータ利用の可能性から整理を行った。

なお、新たな「機能評価係数」として直ちに評価は困難であっても、医療の質等に関して重要な項目については、病院毎に当該データを入力及び公開すること等による評価が可能かどうか検討してはどうかという提案もあった。

以下を参考に中医協基本問題小委員会において、ご検討頂くことをお願いする。

1. DPCデータを用いて分析が可能であるもの

- ① DPC病院として正確なデータを提出していることの評価
(正確なデータ提出のためのコスト、部位不明・詳細不明コードの発生頻度、様式1の非必須項目の入力割合 等)
- ② 効率化に対する評価
(効率性指数、アウトカム評価と合わせた評価 等)
- ③ 手術症例数又は手術症例割合に応じた評価
※ 一部の手術については、施設基準として一定数以上の症例数が算定条件となっており、出来高で評価されている。

- ④複雑性指標による評価
- ⑤診断群分類のカバー率による評価
- ⑥高度医療指標（診断群分類点数上位 10 % の算定割合）
- ⑦救急・小児救急医療の実施状況による評価
- ⑧患者の年齢構成による評価

2. DPCデータによって一部分析が可能なものの、又は医療機関の負担が少なく速やかにデータを把握することが可能なもの

- ①診療ガイドラインを考慮した診療体制確保の評価
- ②術後合併症の発生頻度による評価
- ③医療計画で定める事業について、地域での実施状況による評価
- ④産科医療の実施状況の評価
- ⑤医師、看護師、薬剤師等の人員配置（チーム医療）による評価

3. その他、既存の制度との整合性等を図る必要があるもの

(1) 既に機能評価係数として評価されているもの

- ①特定機能病院または大学病院の評価
- ②地域医療支援病院の評価
- ③臨床研修に対する評価
- ④医療安全の評価

(2) 既に診断群分類の分岐として評価されているもの

- ①標準レジメンによるがん化学療法の割合による評価
- ②副傷病による評価
- ③希少性指標による評価（難病や特殊な疾患等への対応状況の評価）

(3) 出来高で評価されているもの

- ①退院支援の評価
- ②地域連携（支援）に対する評価
- ③望ましい 5 基準に係る評価
 - 特定集中治療室管理料を算定していること
 - 救命救急入院料を算定していること
 - 病理診断料を算定していること
 - 麻酔管理料を算定していること
 - 画像診断管理加算を算定していること

- ア. ICU 入院患者の重症度による評価
- イ. 全身麻酔を実施した患者の割合による評価
- ウ. 病理医の数による評価

- エ. 術中迅速病理組織標本作製の算定割合による評価
- オ. 病理解剖数による評価
- ④高度な設備による評価
- ⑤がん診療連携拠点病院の評価

(4) その他

- ①後発医薬品の使用状況による評価
- ②治験、災害等の拠点病院の評価
- ③入院患者への精神科診療の対応の評価

4. 医療機関の負担が大きく速やかにデータを把握することが困難であるもの、又はDPCにおける急性期としての評価が困難であるもの

- ①重症度・看護必要度による改善率
- ②合併症予防の評価
- ③再入院の予防の評価
- ④救急医療における患者の選択機能（トリアージ）の評価
- ⑤全診療科の医師が日・当直体制をとっていることの評価
- ⑥地方の診療所や中小病院へ医師を派遣することに対する評価
- ⑦在宅医療への評価
- ⑧新規がん登録患者数による評価
- ⑨高齢患者数の割合による看護ケアの評価

新たな「機能評価係数」に関する基本的考え方

以下の事項を基本的考え方として、新たな「機能評価係数」について議論してはどうか。

- 1 DPC対象病院は「急性期入院医療」を担う医療機関である。新たな「機能評価係数」を検討する際には、「急性期」を反映する係数を前提とするべきではないか。
- 2 DPC導入により医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等、患者の利点(医療全体の質の向上)が期待できる係数を検討するべきではないか。
- 3 DPC対象病院として社会的に求められている機能・役割を重視するべきではないか。
- 4 地域医療への貢献という視点も検討する必要性があるのではないか。

- 5 DPCデータを用いて係数という連續性のある数値を用いることができるという特徴を生かして、例えば一定の基準により段階的な評価を行うばかりではなく、連続的な評価の導入についても検討してはどうか。
その場合、診療内容に過度の変容を来たさぬ様、係数には上限値を設けるなど考慮が必要ではないか。
- 6 DPC対象病院であれば、すでに急性期としてふさわしい一定の基準を満たしていることから、プラスの係数を原則としてはどうか。
- 7 その他の機能評価係数として評価することが妥当なものがあれば検討してはどうか。

具体的な項目の提案等について

1. DPCデータを用いて分析が可能であるもの

項目	委員からの意見等	基本的考え方との合致	DPCデータ等の活用	重複評価等の可能性	その他
① DPC病院として正確なデータを提出していることの評価 (正確なデータ提出のためのコスト、部位不明・詳細不明コードの発生頻度、様式1の非必須項目の入力割合 等)	<ul style="list-style-type: none"> ○正確なデータ提出のためにかなりのコストがかかっているので評価するべき。 ○調査データのうち、非必須項目への入力や情報公開を行っていること等を評価するべき。 ○医療機関に対するヒアリングの中で、データが不適切であった事例が見られている。しかし、そのような特殊な事例をもってルールを作成した場合に、適切に実施している医療機関へ弊害が生じ得ることも考慮する必要がある。 ○医療の透明化をポジティブに評価する項目があるべき。 ○DPC準備病院もデータ提出を行っているが、DPC対象病院のみを評価することになる。 ○データ提出にかかる費用を診療報酬で評価することになる。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価			
② 効率化に対する評価 (効率性指数、アウトカム評価と合わせた評価等)	<ul style="list-style-type: none"> ○病院の効率性を評価できる。 ○患者が早期転院又は退院した場合には、効率性が高まるが、患者のアウトカム評価と併せて検証が必要である。 ○平均在院日数が一定日数以下で、併せて再入院率および再転棟率が一定割合以下であることを評価することで、治療効果を担保しながら効率化を評価できる。 ○平均在院日数は、地域性による疾病構造の違いや後方医療施設の有無等の影響を受けることから、評価は慎重にするべき。 ○地方では交通機関の悪さや後方病院が無いなど、都会の視点だけで評価するべきではない。 ○在院日数は既に大幅に短縮しており、さらに短縮することを評価すれば、医療の質が低下することが懸念される。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価			

項目	委員からの意見等	基本的考え方との合致	DPCデータ等の活用	重複評価等の可能性	その他
③手術症例数又は手術症例割合に応じた評価	<ul style="list-style-type: none"> ○標準的・効率的な医療を評価できる。 ○症例数が少なくても標準的・効率的な医療を提供している場合の評価についてはどのように考えるのか不明である。 ○症例数とアウトカムの関係についての検証が必要である。 ○評価することにより、不必要的医療(手術)を助長する恐れがある。 ○手術症例数の割合で評価する場合、医療の質が高まるというエビデンスがあるものだけを評価するべき。 ○疾患によって内科的治療と外科的治療のどちらが有効かという評価が定まっていない場合もあり、手術で評価した場合に、医療内容に過度の変容を来す恐れがある。 ○症例数で評価すると、症例数が少ない地域では評価されにくい。 ○医療の質の観点からは、病院全体の手術症例数ではなく、医師が経験した症例数の方が重要である。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価			一部の手術については、施設基準として一定数以上の症例数が算定条件となっており、出来高で評価されている。
④複雑性指数による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○病院の総合的な能力を評価できる。 ○この指標は平均在院日数が相対的に長いことに影響されるため、点数の高い診断群分類を多く算定していることを評価する方が直接的に高度な医療を評価できる。 	社会的に求められている機能・役割の評価			
⑤診断群分類のカバー率による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○診断群分類のカバー率によって、病院機能を評価できるか検証が必要である。 ○専門病院は評価されにくいが、他の評価項目で、専門病院の機能が評価されなければならない。 	社会的に求められている機能・役割の評価			
⑥高度医療指数(診断群分類点数上位10%の算定割合)	<ul style="list-style-type: none"> ○高度な医療を提供している医療機関を評価できる。 ○診断群分類点数が高い割合をもって、高度な医療の評価となるのか。 	社会的に求められている機能・役割の評価			

項目	委員からの意見等	基本的考え方との合致 地域医療への貢献の評価	DPCデータ等の活用 救急車による搬送の有無、予定・緊急入院区分、手術等の時間外加算等の状況のデータはある。	重複評価等の可能性 A300救命救急入院料、A205 救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算で評価されている。	その他
⑦ 救急・小児救急医療の実施状況による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○重症度、受入率(受入要請数に対する受入数)、診療科に応じた評価も検討する必要がある。 ○救急車による搬入数や救急入院患者数(即日入院患者数含)により評価するべき。 ○軽症から重症患者まで、全ての患者を受け入れる体制(空床確保、手術室確保)を評価するべき。 ○単に受け入れた救急患者に対して評価することとは異なり、常に受入要請に対応できる病院機能(救急応需機能)を評価することができる。 ○同一疾患でも、救急入院では、予定入院(検査は外来で実施可能)と異なり、確定診断等を目的として入院初期に検査等を多く必要とし、DPCでは不採算となりやすいことも考慮すべき。 ○DPC対象病院以外の病院と公平性を図る必要がある。 ○他の診療報酬の項目や補助金等と、二重評価となる可能性も指摘されているが、症例数や重症度等による詳細な評価は行われておらず、これらによる評価は、二重評価には当たらない。 ○地域の実情により2次・3次救急や高度な専門医療に特化することが難しい場合もあり、1次から3次まですべての救急医療に対応していることを評価するべき。 ○救急は確定診断が付くまでの間、最初の2日間等は出来高扱いするなど検討が必要である。 ○他の診療報酬の項目や補助金等と、二重評価となる可能性がある。 				救急医療対策事業により評価されている。
⑧ 患者の年齢構成による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○単に年齢による評価ではなく、例えばせん妄の有無やADLの程度に応じて評価するべき。 ○都会に比べて、地方では高齢者が多く、コストが掛かる医療が行われている。また、データには現れないが、看護必要度が高齢者で高くなることから、年齢に応じて評価すべき。 ○高齢者をどのように定義るべきか、単純に年齢だけで評価してよいのか議論が必要である。 ○バーセルインデックスや要介護度を用いた評価を今後検討するべき。 	地域医療への貢献の評価	せん妄の有無は、入院時併存・入院後発症傷病名に記載があれば把握可能 ADLに係るデータはない。		

2. DPCデータによって一部分析が可能なものの、又は医療機関の負担が少なく速やかにデータを把握することが可能なものの

項目	委員からの意見等	基本的考え方との合致	DPCデータ等の活用	重複評価等の可能性	その他
① 診療ガイドラインを考慮した診療体制確保の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○治療効果等の裏付けのある標準的治療の促進が期待される。 ○診療ガイドラインと異なる診療であっても、一概に不適切であるとは言えないが、少なくとも診療ガイドラインを利用できる環境にあることなど何らかの評価があつても良い。 ○評価の対象とすべき質が担保された診療ガイドラインを特定することが困難である。また、診療ガイドラインでも患者の病態に応じた治療を行うことが前提であることから、単に診療ガイドラインの適用割合で評価することは、必ずしも質の高い医療を反映しない。 ○診療ガイドラインに当てはまらない高度な医療を実施した場合に、評価されない恐れがある。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価			
② 術後合併症の発生頻度による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○高度な医療を実施した場合には、合併症が増える確率が高い。評価を導入することにより、合併症を避けるためにあえて積極的な治療を実施しないことになりかねない。 ○併存症を有する患者を多く受け入れれば、術後合併症の発生率も高くなるため、術後合併症が少ない病院を評価すれば逆のインセンティブとなる。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価	入院後発症傷病名は最大4つまでしか記載できず、傷病名の発症日は入力されていない。		
③ 医療計画で定める事業について、地域での実施状況による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療への貢献度を評価することができる。 ○医療計画に定める事業のうち、どの分野をどの様な指標で評価できるのか検討が必要である。 ○医療圏におけるシェアで評価する場合、医療圏やシェアの定義をどのようにすべきか検討が必要である。また、医療圏によっては症例数が少なくとも高い評価を得ることとなることについて、検討が必要である。 ○医療機能は、一つの医療機関だけで完結するものではないため、医療機関間及び病診の連携状況についても勘案すべき。 ○地域の実情に応じた評価を希望する医療機関は多く、そういった評価もあり得る。 ○地域での役割を評価するためには、症例数だけではなく、地域内のシェア等を総合的に評価することも考えるべき。 ○地域単位での貢献度は、その地域内で判断すべき事項であり、全国一律の診療報酬体系で評価することは困難である。 ○医療計画で位置付けられている事業の中でも、どこに重点を置いて評価するのか検討すべき。 	地域医療への貢献の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・症例数:評価可能 ・シェア:DPC対象病院のデータに限って評価するのであれば可能 ・医療計画での位置づけ:不可 		

項目	委員からの意見等	基本的考え方との合致	DPCデータ等の活用	重複評価等の可能性	その他
④産科医療の実施状況の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○産科医療の不足が社会問題となっており、産科医療を積極的に提供している病院を評価するべき。 ○DPC対象病院だけではなく、全ての病院で評価すべき事項ではないか。 	地域医療への貢献の評価について	保険診療の対象に限られる。		病院全体の機能として評価することについて、どう考えるか。
⑤医師、看護師、薬剤師等の人員配置(チーム医療)による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○手厚い人員配置を行うことで、短い入院期間で提供される密度の高い医療を評価することができる。 ○コメディカルを評価することでチーム医療の評価につながる。 ○麻酔科、放射線科、病理の医師は、医療の質を上げるために必要である。 ○医師や看護師以外のコメディカル及び事務職員の配置を評価するべき。 ○単に病院に配置しているだけではなく、病棟に配置されていることを評価するべき。 ○病床規模に比した一定数以上のコメディカルスタッフ(薬剤師 リハビリ栄養士 MSW)の配置を評価することで、効率化や医療密度の充足、直接看護時間の増加等の医療の質の向上が期待できる。 ○NST(栄養サポートチーム)は合併症を予防し、労働生産性を向上することから、NSTを構成するコメディカルの病棟配属や介入患者数、コメディカルが作成する紹介状を評価するべき。 ○転院や退院後支援のためMSW(医療ソーシャルワーカー)の役割は重要である。 ○人員配置ではなく、服薬指導や栄養指導等の行為毎に出来高で評価するべき。 ○薬剤部における薬剤師の役割を評価するべき。 ○急性期病院の多くはチーム医療を実施しているので、ここから更に何を評価するのか検討が必要である。 ○既に出来高で評価されている項目と、二重評価となる可能性がある。 ○DPC対象病院だけではなく、全ての病院で評価すべき事項ではないか。 ○現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難である。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価 その他	医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士等は、病院報告の項目であり、各病院では把握しているが追加調査が必要 A233栄養管理実施加算、B008薬剤管理指導料等で評価されている。	入院基本料において、看護配置に応じて評価されている。	

3. その他、既存の制度との整合性等を図る必要があるもの

(1) 既に機能評価係数として評価されているもの

項目	委員からの意見等	基本的考え方との合致	DPCデータ等の活用	重複評価等の可能性	その他
① 特定機能病院または大学病院の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○特定機能病院は医療法で定める承認条件を満たしており、地域の最終的な病院として機能していることから、特定機能病院を一律に評価するべき。 ○医師や看護師の卒後教育を充実することで質の高い医療を提供することは、患者の恩恵にもなり、評価するべき。 ○特定機能病院の中でも調整係数に差があり、医療内容や地域での役割も多様であると考えられるため、一律に評価すべきではない。 ○研究や教育に係る財源は、保険財源ではなく別途の財源で対応するべき。 ○小児入院医療管理料や医師事務作業補助体制加算等の算定が認められておらず、特定機能病院入院基本料で、特定機能病院が高く評価しているとは言えず、二重評価には当たらないのではないか。 ○民間医療機関が特定機能病院と同等或いはそれ以上の機能を有している場合には、同等に評価するべき。 	社会的に求められている機能・役割の評価		特定機能病院入院基本料で、機能評価係数として評価されている。	
② 地域医療支援病院の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療支援病院について、紹介率、逆紹介率を用いて、よりきめ細かく評価するべき。 ○すでに、機能評価係数で評価されている。 ○他の診療報酬の項目や補助金等と、二重評価となる可能性がある。 	地域医療への貢献の評価	A204地域医療支援病院入院診療加算の算定状況のデータはある。	A204地域医療支援病院入院診療加算で、既に機能評価係数として評価されている。 共同利用施設整備事業により評価されている。	
③ 臨床研修に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ○研修医数や研修プログラムの完成度等に応じて評価するべき。 ○研修にかかる費用を、診療報酬で評価することになる。 ○他の診療報酬の項目や補助金等と、二重評価となる可能性がある。 	その他		A204-2臨床研修病院入院診療加算で、既に機能評価係数として評価されている。 医師臨床研修費補助事業で評価されている。	
④ 医療安全の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○医療の安全に対する取組みが進み、医療の質の向上が図られる。 ○既に診療報酬の中で評価している加算との整合性が問題となる。 ○DPC対象病院だけではなく、全ての病院で評価すべき。 ○現行の医療安全対策加算では評価が低いので、二重になつても評価するべき。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価	A234医療安全対策加算の算定状況のデータはある。	入院基本料の施設基準では、医療安全管理体制の整備を要件としている。 A234医療安全対策加算で、既に機能評価係数として評価されている。	

(2)既に診断群分類の分岐として評価されているもの

項目	委員からの意見等	基本的考え方との合致	DPCデータ等の活用	重複評価等の可能性	その他
①標準レジメンによるがん化学療法の割合による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○治療効果等のエビデンスのある標準的治療の促進が期待される。 ○標準化を進めるという点では大変重要であるが、既に一定の標準化が進んでいる医療機関において、まだ標準レジメンとはなっていない高度な医療を実施した場合に評価されない。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価		平成20年度改定よりレジメン別分岐の評価を導入。	病院全体の機能として評価することについて、どう考えるか。
②副傷病による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○重症の患者を多く受け入れている医療機関をより評価できる。 ○診断群分類の分岐を行うことにより、既に副傷病に応じて評価している。 ○副傷病に応じた重症度の重み付けをどのように行うのか、評価が複雑になる恐れがある。 ○副傷病に応じた重症度の重み付けの方法論については、諸外国での事例を参考に今後の検討が必要である。 	社会的に求められている機能・役割の評価		現行の診断群分類で副傷病による分岐として評価されている。	術後合併症等も含まれることについて、どう考えるか。
③希少性指数による評価(難病や特殊な疾患等への対応状況の評価)	<ul style="list-style-type: none"> ○難病や特殊な疾患等に対応できる専門的医療が行われていることを評価できる。 ○いわゆる専門病院が評価されにくい。 ○難病や特殊な疾患が必ずしも高度な医療を必要とするものではない。 ○既に診断群分類の中で評価されおり、改めて評価の必要はない。 ○神経難病等に対応するにはスタッフの確保や医療施設の整備が必要であり、診療にコストがかかることから、希少性に着目するには意味がある。 	社会的に求められている機能・役割の評価		現行の診断群分類で傷病名による分岐として評価されている。	病院全体の機能として評価することについて、どう考えるか。

(3)出来高制度で評価されているもの

項目	委員からの意見等	基本的考え方との合致	DPCデータ等の活用	重複評価等の可能性	その他
① 退院支援の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅復帰率等を指標とすることで、質の高い医療を評価できる。 ○既に診療報酬の中で評価している項目との整合性の問題や及び二重評価の可能性がある。 ○DPC対象病院だけではなく、全ての病院で評価すべき事項ではないか。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価 地域医療への貢献の評価		A241後期高齢者退院調整加算で評価している。	
② 地域連携(支援)に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ○地域連携は複雑・多様化しており、現行の紹介率だけではなく、よりきめ細やかな評価を行うべき。 ○小児・周産期医療について評価するべき。 ○在宅医療、家庭医療を評価するべき。 ○登録医による検査・治療件数や在宅復帰率を用いることで、地域医療連携を評価するべき ○電子カルテによる専用回線を用いた情報提供や情報共有、電子地域連携パスの利用等を行い、ITを活用して地域医療連携を行うことについて評価するべき。 ○MSWについて、在宅復帰率等の指標で質を担保しながら、評価するべき。 ○在宅医療については、当該医療機関の入院医療と直接は関係がない。 ○地域連携の状況などは、現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難い場合もある。 	地域医療への貢献の評価	B005-2 地域医療連携計画管理料の算定状況のデータはある。	B005-2 地域医療連携計画管理料で評価されている。	
③ 望ましい5基準に係る評価 (特定集中治療室管理料を算定していること 救命救急入院料を算定していること 病理診断料を算定していること 麻酔管理料を算定していること 画像診断管理加算を算定していること ア. ICU入院患者の重症度による評価 イ. 全身麻酔を実施した患者の割合による評価 ヲ. 病理医の数による評価 ヲ. 術中迅速病理組織標本作製の算定割合による評価 オ. 病理解剖数による評価)	<ul style="list-style-type: none"> ○連續的評価が可能か検討が必要である。 ○既に出来高で評価されている項目であることから、二重評価とならないように留意すべき。 ○全身麻酔の割合により評価するべきとの意見もある一方、医療内容の変容につながる可能性もあるとの意見もあった。 ○病理解剖、剖検は、医師の教育上も重要であり、医療の質の向上にも資するものであり、評価するべき。 ○病理解剖、剖検は、疾病の治療とは直接は関係しないことを診療報酬で評価することになる。 	その他	各診療報酬の算定状況のデータはある。 ○全身麻酔の割合等のデータはある。	A301特定集中治療室管理料、L009麻酔管理料等で評価されている。	病院全体の機能として評価することについて、どう考えるか。 出来高で評価されている項目であり、重複評価について、どう考えるか。

項目	委員からの意見等	基本的考え方との合致	DPCデータ等の活用	重複評価等の可能性	その他
④高度な設備による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○高度な設備を有し、高度な医療を提供している病院を評価できる。 ○病院が過剰な設備投資を行いうんセンティブとなる可能性がある。 ○高度な機器の有無のみで評価するべきではない。 	<p>社会的に求められている機能・役割の評価</p> <p>医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価</p>	<p>マルチスライスCTや高磁场MRIの有無等は、医療施設調査の項目にあり、各病院では把握しているが、追加調査が必要</p>	E202磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影) 1、1.5テスラ以上の機器による場合で評価されている。	
⑤がん診療連携拠点病院の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○がん患者であっても、がん診療連携拠点病院加算の対象とならない患者が多く、がん患者全体について評価するべき。 ○他の診療報酬の項目や補助金等と、二重評価となる可能性がある。 	<p>社会的に求められている機能・役割の評価</p> <p>地域医療への貢献の評価</p>	<p>がん対策推進基本計画等により、各病院が指定を受けており、病院名の確認は可能</p>	<p>A232がん診療連携拠点病院加算で評価されている。</p> <p>がん対策推進基本計画等で評価されている。</p>	

(4)その他

項目	委員からの意見等	基本的考え方との合致	DPCデータ等の活用	重複評価等の可能性	その他
①後発医薬品の使用状況による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○特定機能病院等で後発医薬品の使用が普及していないことを考えると、DPCで評価するべき。 ○DPCでは薬剤費は包括されるので、制度の趣旨からすると後発医薬品の使用が促進されるはずであり、これを評価すれば二重評価となる。 ○後発医薬品の使用が進めば、さらに医療費削減が可能で、医療資源の有効活用という観点からも、評価るべき。 ○後発医薬品が普及するまでの経過措置として評価するべき。 ○後発医薬品の使用状況等のデータを公開することを評価するべき。 ○後発医薬品の使用状況を公開することによって患者の受診行動に影響を及ぼす可能性がある。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価		DPC制度では後発医薬品の使用が促進される。	後発医薬品の使用状況を評価すれば、患者の負担が増えることになり、「患者の利点」という観点からどのように考えるか。
②治験、災害等の拠点病院の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○治験を実施していることについて評価するべき。 ○他の診療報酬の項目や補助金等と、二重評価となる可能性がある。 	社会的に求められている機能・役割の評価		臨床研究基盤整備推進研究事業、「災害発生時における初期救急医療体制の充実強化について」等で評価されている。	
③入院患者への精神科診療の対応の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○精神科診療の対応を評価することができる。 ○精神疾患を合併し、急性期医療を必要とする患者は増加傾向にあり、その様な医療に対応することは社会的に必要である。 ○DPC病院の精神病棟については、DPCの対象とすることについて検討するべき。 ○精神科による診療は、例えば精神疾患と身体疾患の治療計画について既に出来高(例:A230-2精神科身体合併症管理加算)で評価されており、二重評価となる可能性がある。 	その他	A230-3精神科身体合併症管理加算等の算定状況のデータはある。	A230-3精神科身体合併症管理加算で評価されている。	病院全体の機能として評価することについて、どう考えるか。

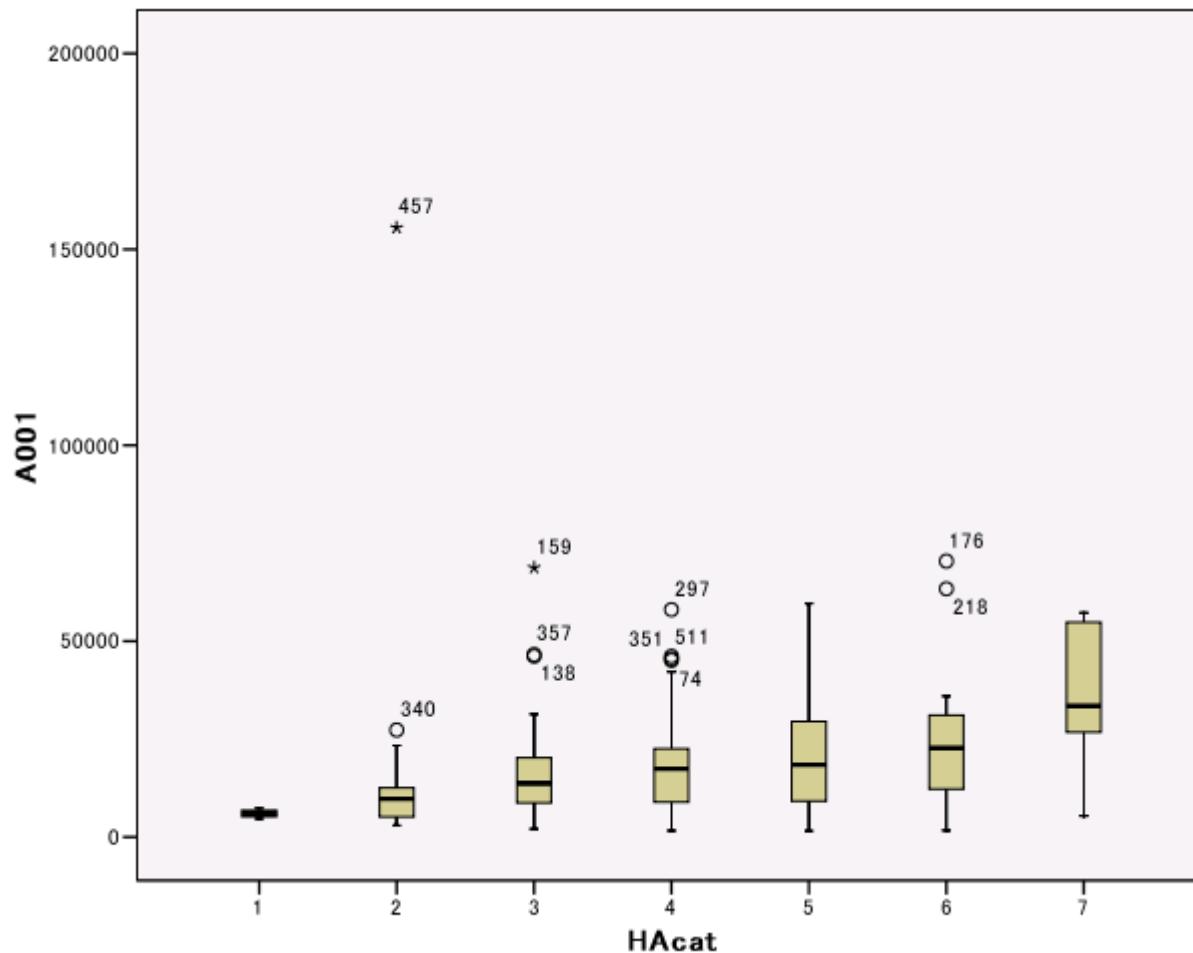
4. 医療機関の負担が大きく速やかにデータを把握することが困難であるもの、又はDPC(急性期入院医療)としての評価が困難であるもの

項目	委員からの意見等	基本的考え方との合致	DPCデータ等の活用	重複評価等の可能性	その他
①重症度・看護必要度による改善率	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的な治療・ケアの評価が可能である。 ○看護必要度を用いて1入院単位で評価する方法について検討する必要がある。 ○看護必要度は毎日測定するものであり、1入院単位での評価方法が確立していない。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価	7対1入院基本料を算定する病棟では、重症度・看護必要度に係る評価表が作成されており、各病院では把握しているが、10対1入院基本料を算定する病棟等では作成されていない。	7対1入院基本料の施設基準では、一定割合の重症患者数を要件としている。	
②合併症予防の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○合併症の予防が進み、医療の質の向上が図られる。 ○DPC対象病院だけではなく、全ての病院で評価すべき。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価	合併症予防の状況のデータはない。		
③再入院の予防の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○再入院の予防について評価すべき。 	医療の透明化・効率化・標準化・質の向上等の評価	退院先や、再入院率のデータはあるが、再入院予防の取り組みについてのデータはない。		
④救急医療における患者の選択機能(トリアージ)の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○トリアージ体制等を評価することで、患者に適切な医療を提供されることを評価できる。 ○現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難である。 ○DPC対象病院だけではなく、全ての病院で評価すべき事項ではないか。 	地域医療への貢献の評価について			
⑤全診療科の医師が日・当直体制をとっていることの評価	<ul style="list-style-type: none"> ○患者の有無に関わらず、常に受け入れ体制を整備していることを評価すべき。 	地域医療への貢献の評価			
⑥地方の診療所や中小病院へ医師を派遣することに対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療を守るために、近隣医療機関へ医師を派遣していることを評価すべき。 ○当該医療機関の入院医療と直接は関係がない。 ○現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難である。 	地域医療への貢献の評価			当該病院で提供される入院医療とは、直接関係はない機能で評価することについて、どう考えるか。
⑦在宅医療への評価	<ul style="list-style-type: none"> ○地方では必要にせまられて病院で在宅医療を担う必要があり、在宅医療への取組みを更に評価すべき。 ○当該医療機関の入院医療と直接は関係がない。 ○現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難である。 	地域医療への貢献の評価			当該病院で提供される入院医療とは、直接関係はない機能で評価することについて、どう考えるか。
⑧新規がん登録患者数による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○院内がん登録体制を整備していることを評価すべき ○新規がん患者の診療に応じた評価ができる。 ○現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難である。 	その他			病院全体の機能として評価することについて、どう考えるか。
⑨高齢患者数の割合による看護ケアの評価	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢患者に対するケアを評価することができる。 ○要介護度により評価することを検討するべき。 ○現行のDPCデータの調査に項目がないため、評価が困難である。 	その他			病院全体の機能として評価することについて、どう考えるか。

病院機能係数の考え方について⑦

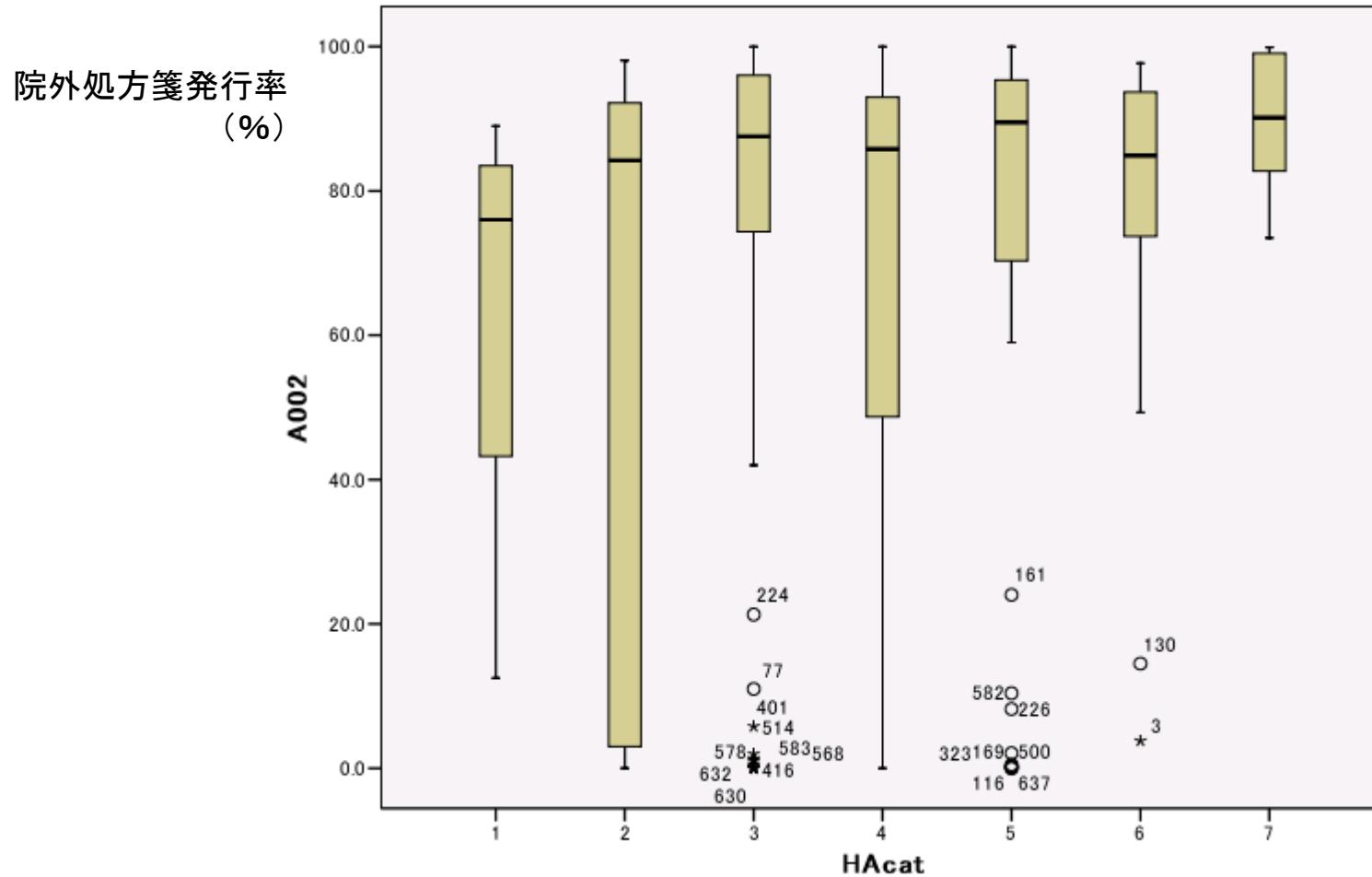
「包括払い方式が医療経済及び医療提供体制に及ぼす影響に関する研究」班
(H19-政策-指定-001)

外来患者数
(H20年9月)



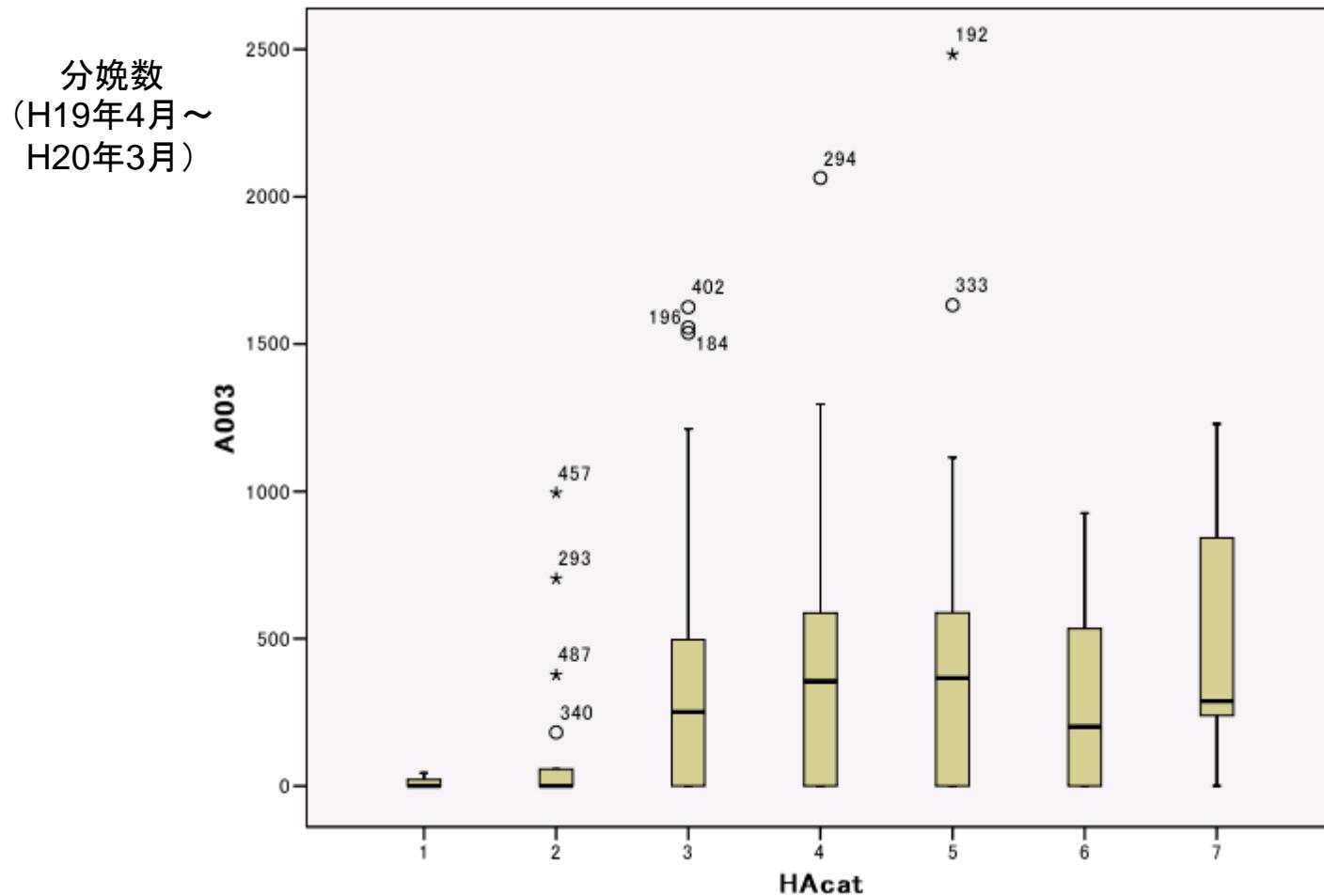
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



調整係数のカテゴリー

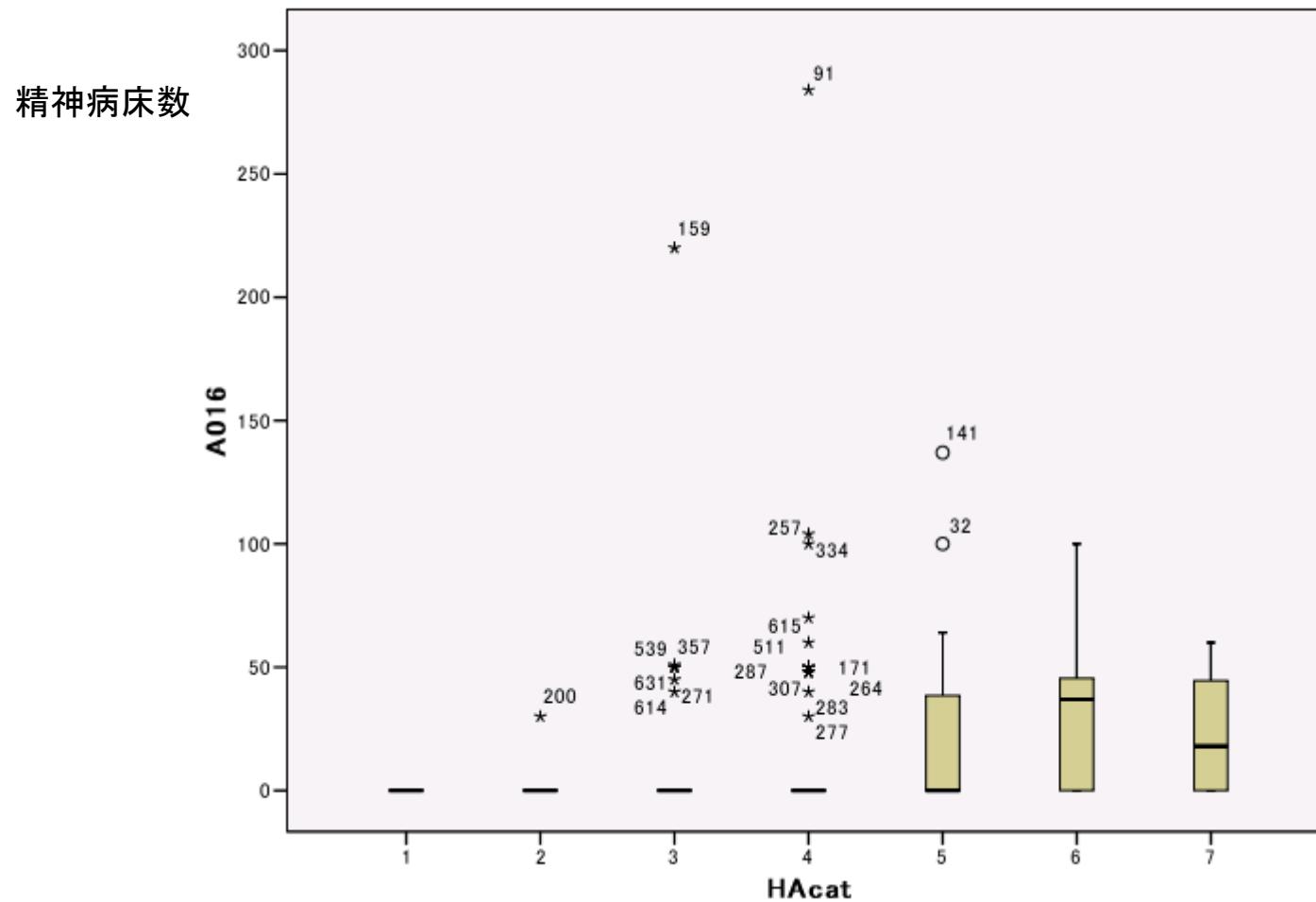
1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

	調整係数のカテゴリー								
	1	2	3	4	5	6	7	合計	
地域医療支援病院	N	1	3	29	27	14	8	4	86
	% 1	1.2	3.5	33.7	31.4	16.3	9.3	4.7	100.0
	% 2	25.0	13.6	28.2	30.3	23.3	26.7	20.0	26.2
災害拠点病院	N	1	6	36	31	25	13	10	122
	% 1	0.8	4.9	29.5	25.4	20.5	10.7	8.2	100.0
	% 2	25.0	27.3	35.0	34.8	41.7	43.3	50.0	37.2
がん診療連携拠点病院	N	1	4	31	34	22	14	8	114
	% 1	0.9	3.5	27.2	29.8	19.3	12.3	7.0	100.0
	% 2	25.0	18.2	30.1	38.2	36.7	46.7	40.0	34.8
開放型病院	N	1	6	52	43	24	5	5	136
	% 1	0.7	4.4	38.2	31.6	17.6	3.7	3.7	100.0
	% 2	25.0	27.3	50.5	48.3	40.0	16.7	25.0	41.5
特定承認保険医療機関	N	0	0	4	8	15	11	9	47
	% 1	0.0	0.0	8.5	17.0	31.9	23.4	19.1	100.0
	% 2	0.0	0.0	3.9	9.0	25.0	36.7	45.0	14.3
特定疾患入院施設または特殊疾患療養病棟有り	N	0	1	2	1	0	0	0	4
	% 1	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	% 2	0.0	4.5	1.9	1.1	0.0	0.0	0.0	1.2
老人性痴呆疾患療養病棟有り	N	0	0	0	1	0	0	2	3
	% 1	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	100.0
	% 2	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	10.0	0.9
緩和ケア病棟有り	N	1	6	11	9	5	1	1	34
	% 1	2.9	17.6	32.4	26.5	14.7	2.9	2.9	100.0
	% 2	25.0	27.3	10.7	10.1	8.3	3.3	5.0	10.4
救急告示有り	N	4	20	99	83	54	27	19	306
	% 1	1.3	6.5	32.4	27.1	17.6	8.8	6.2	100.0
	% 2	100.0	90.9	96.1	93.3	90.0	90.0	95.0	93.3
初期救急	N	3	8	54	38	27	14	10	154
	% 1	1.9	5.2	35.1	24.7	17.5	9.1	6.5	100.0
	% 2	75.0	36.4	52.4	42.7	45.0	46.7	50.0	47.0
二次救急	N	4	20	93	76	46	23	16	278
	% 1	1.4	7.2	33.5	27.3	16.5	8.3	5.8	100.0
	% 2	100.0	90.9	90.3	85.4	76.7	76.7	80.0	84.8
三次救急(救命センター)	N	0	2	19	17	21	9	11	79
	% 1	0.0	2.5	24.1	21.5	26.6	11.4	13.9	100.0
	% 2	0.0	9.1	18.4	19.1	35.0	30.0	55.0	24.1
合計	N	4	22	103	89	60	30	20	328
	% 1	1.2	6.7	31.4	27.1	18.3	9.1	6.1	100.0
	% 2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

調整係数カテゴリー

- 1 : < 0.95
- 2 : < 1.00
- 3 : < 1.05
- 4 : < 1.10
- 5 : < 1.15
- 6 : < 1.20
- 7 : >=1.20

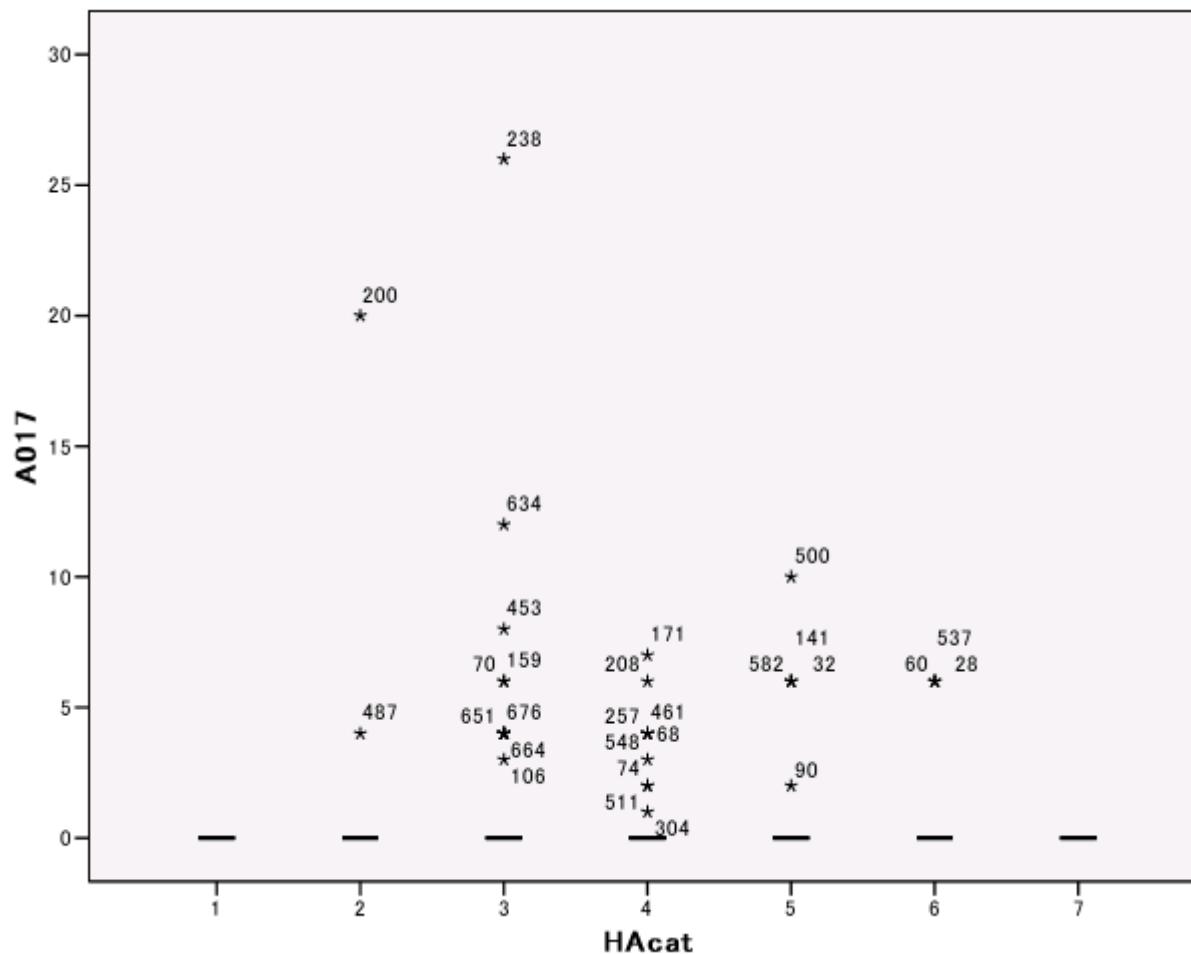
% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、% 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合



調整係数のカテゴリー

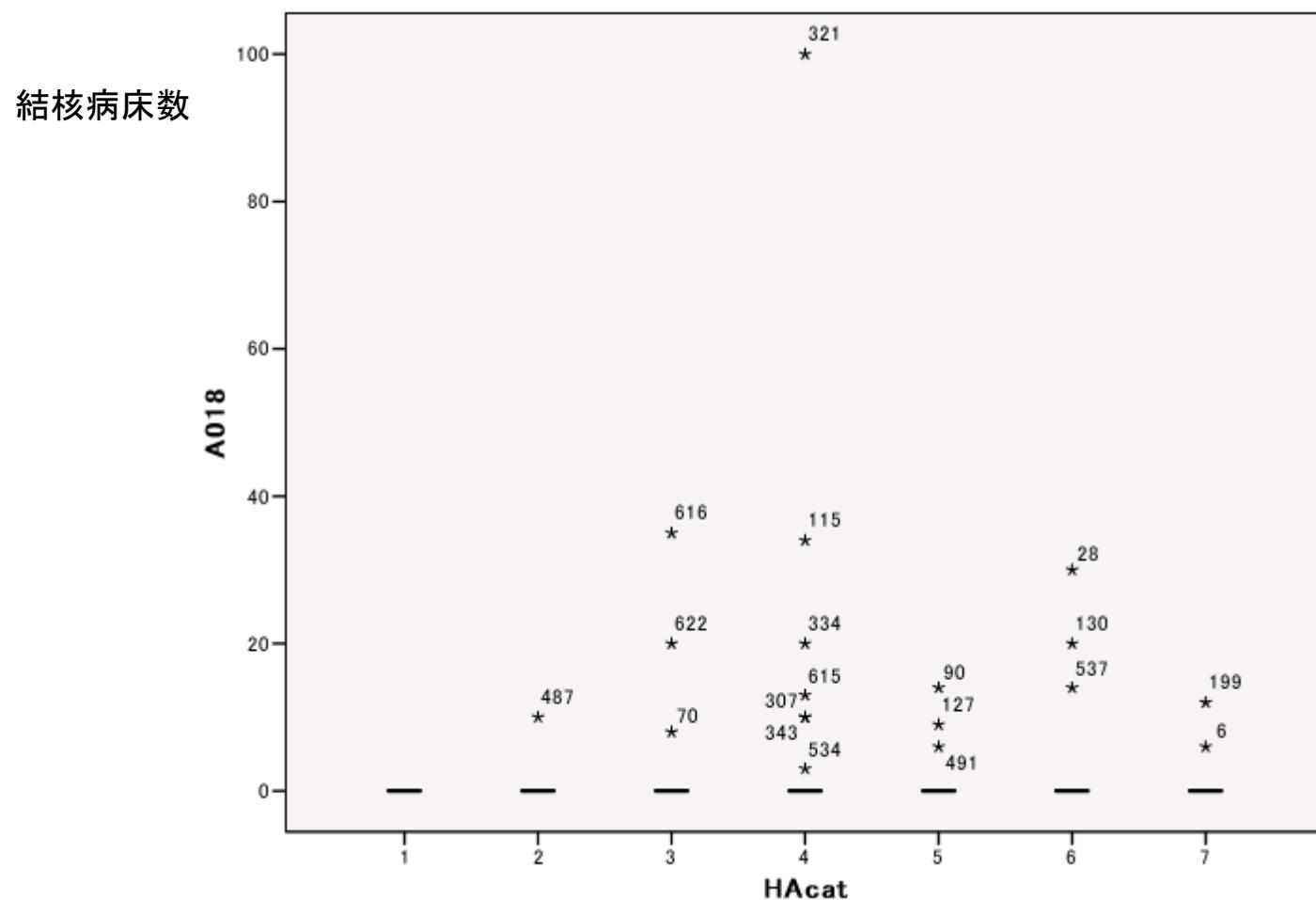
1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

感染病床数



調整係数のカテゴリー

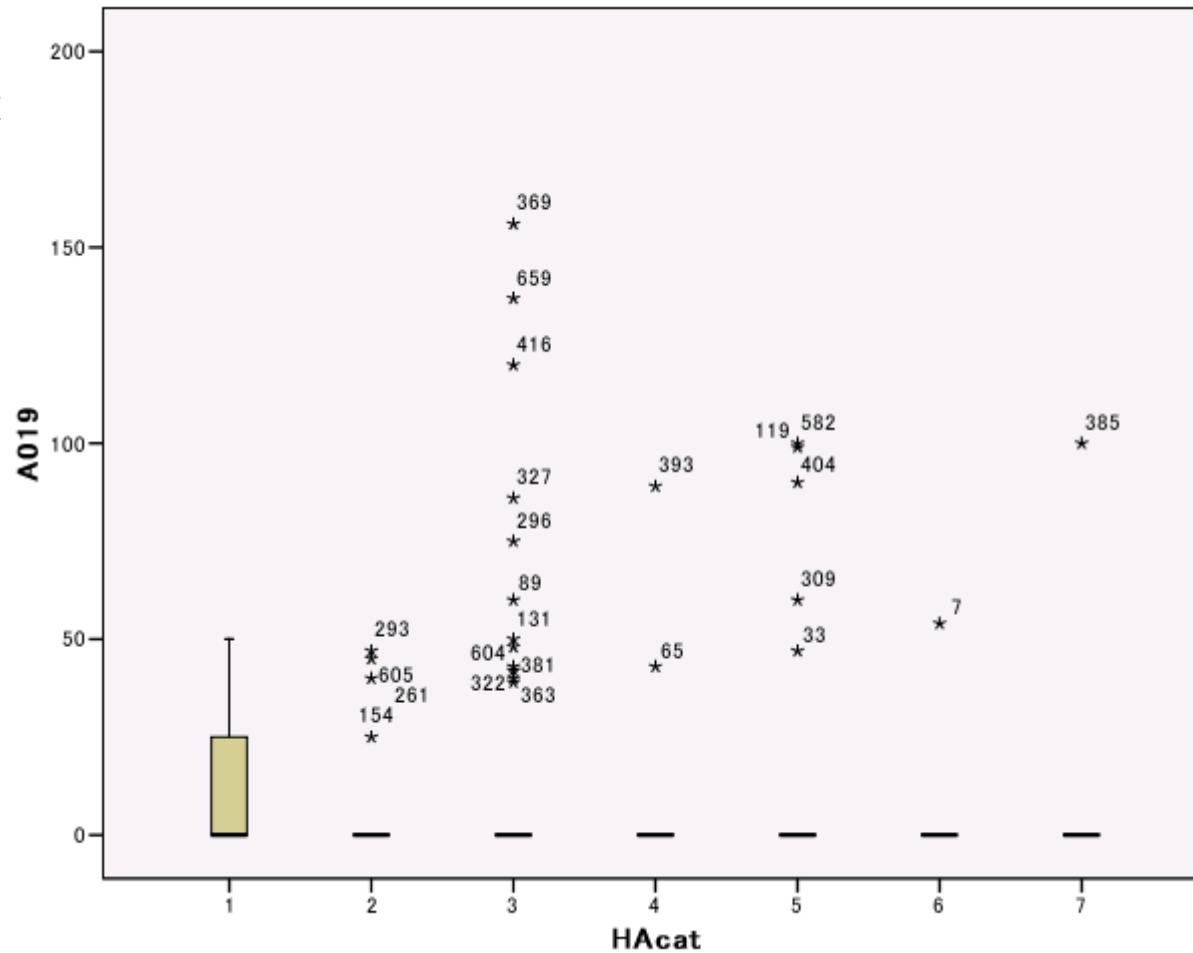
1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



調整係数のカテゴリー

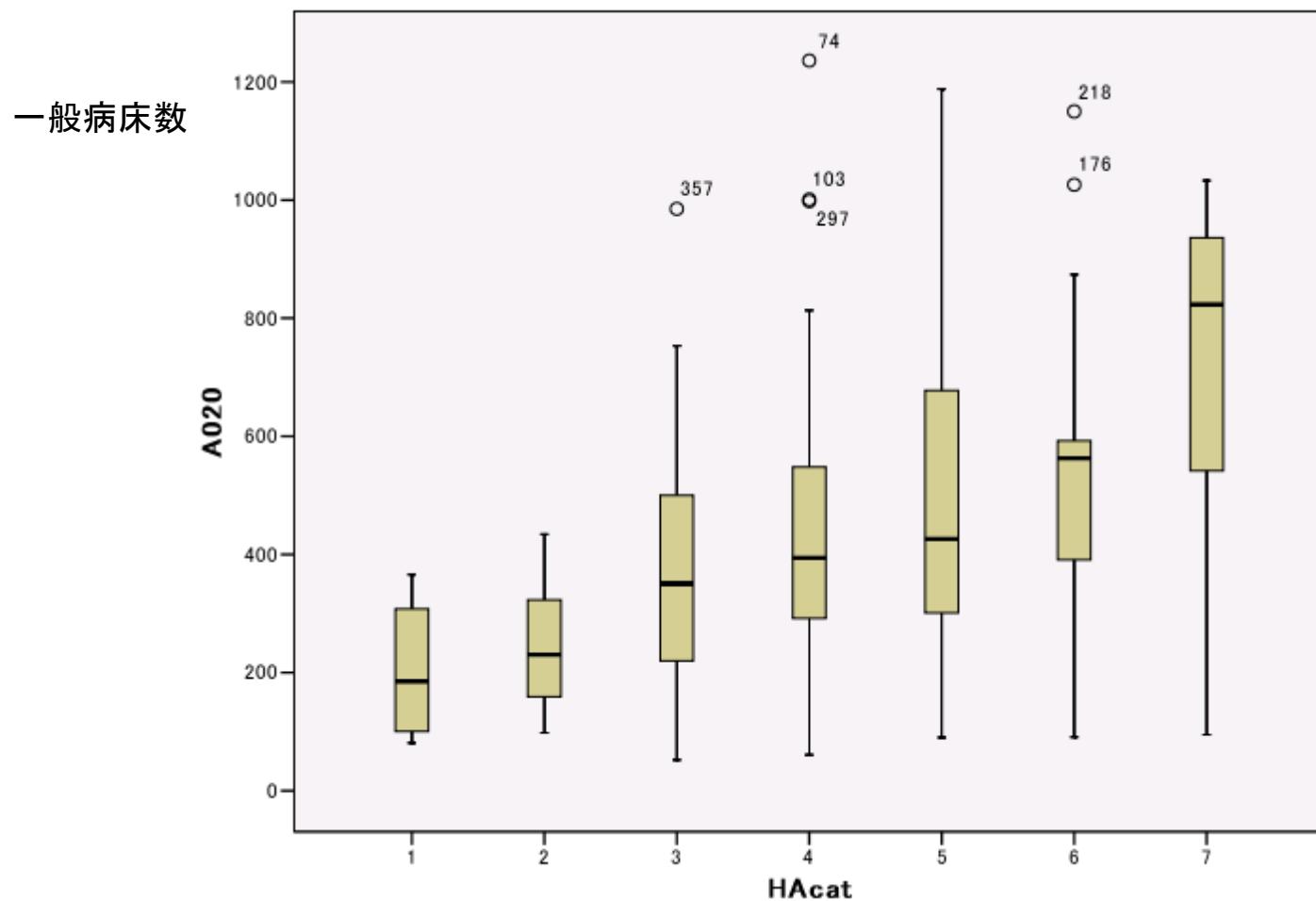
1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

療養病床数



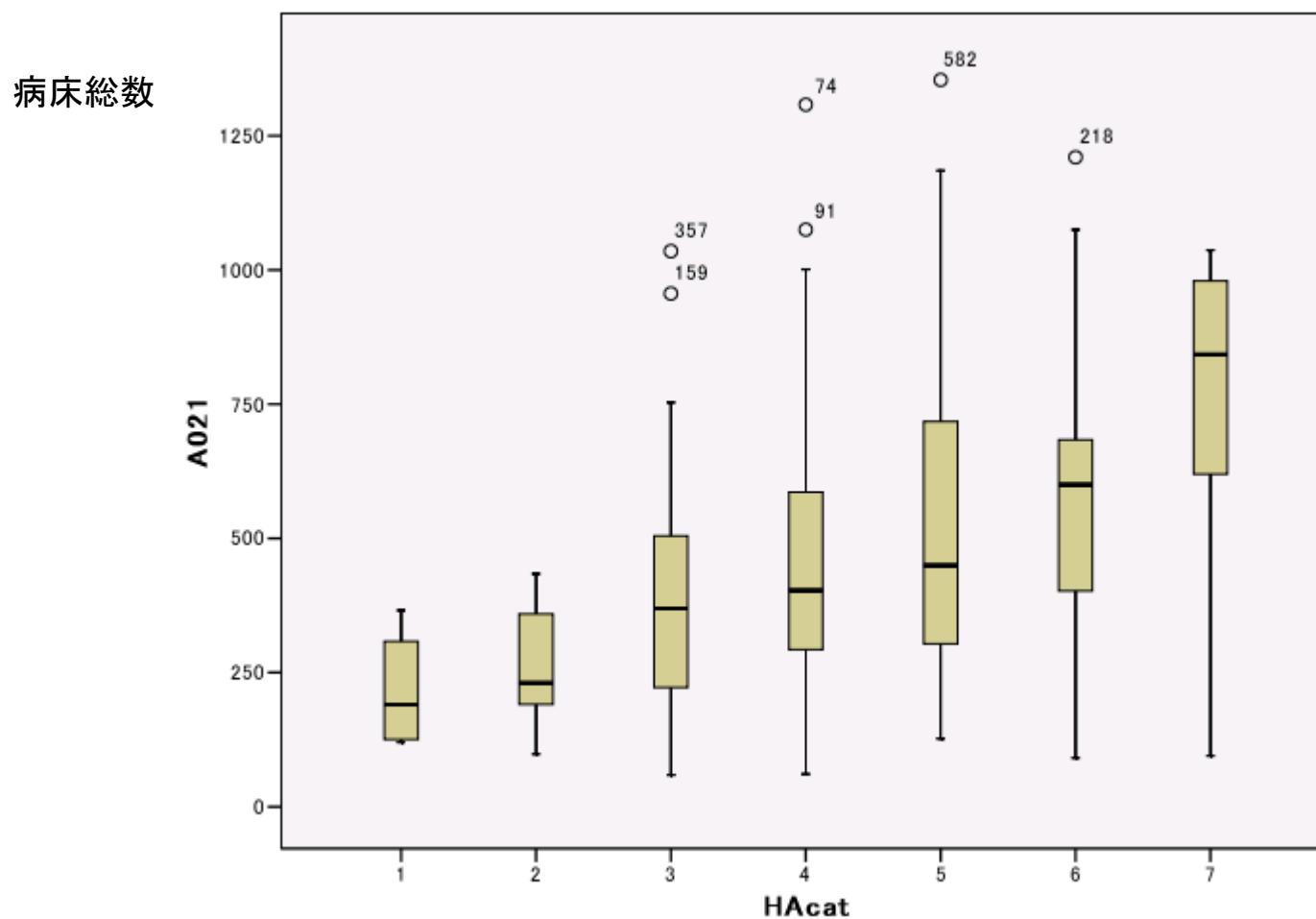
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



調整係数のカテゴリー

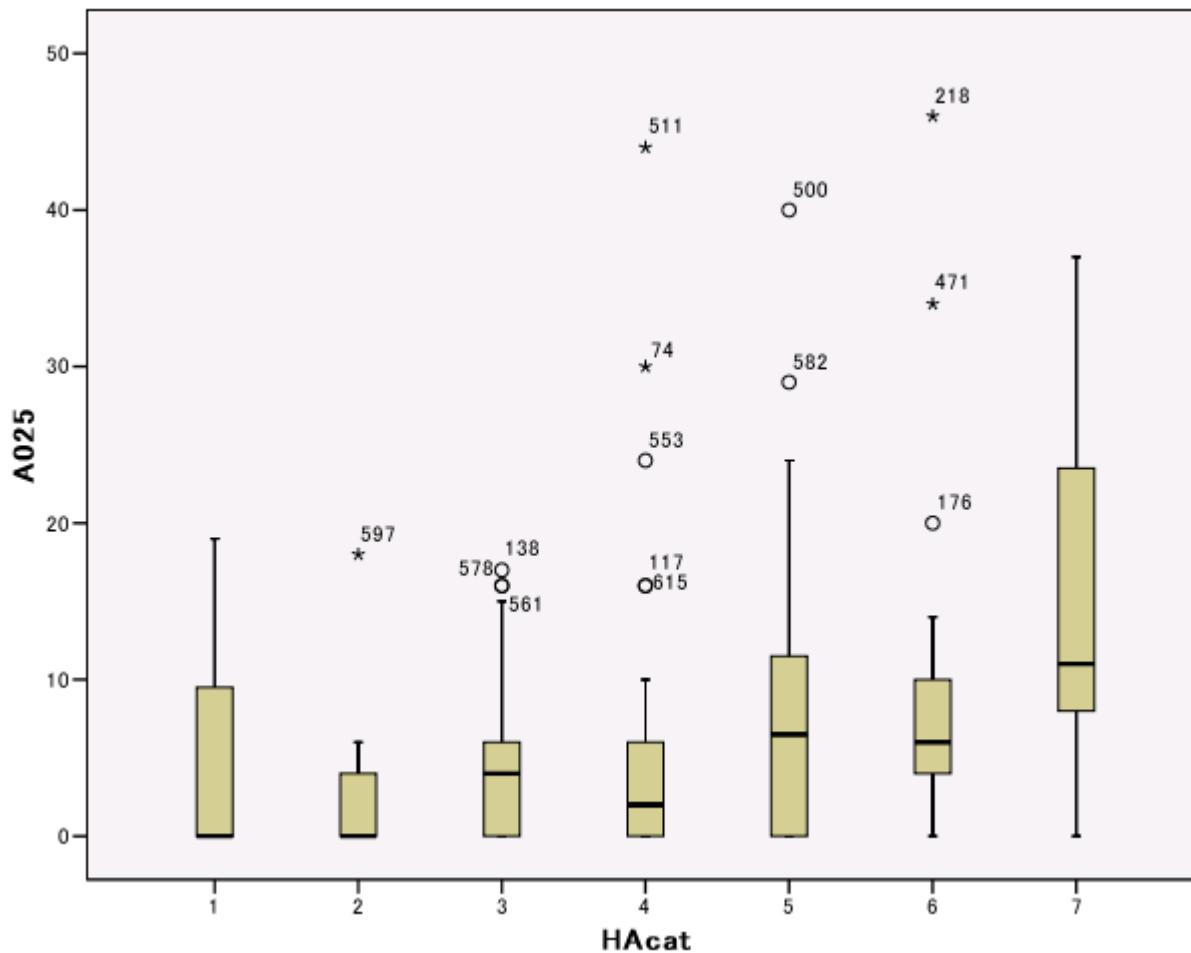
1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

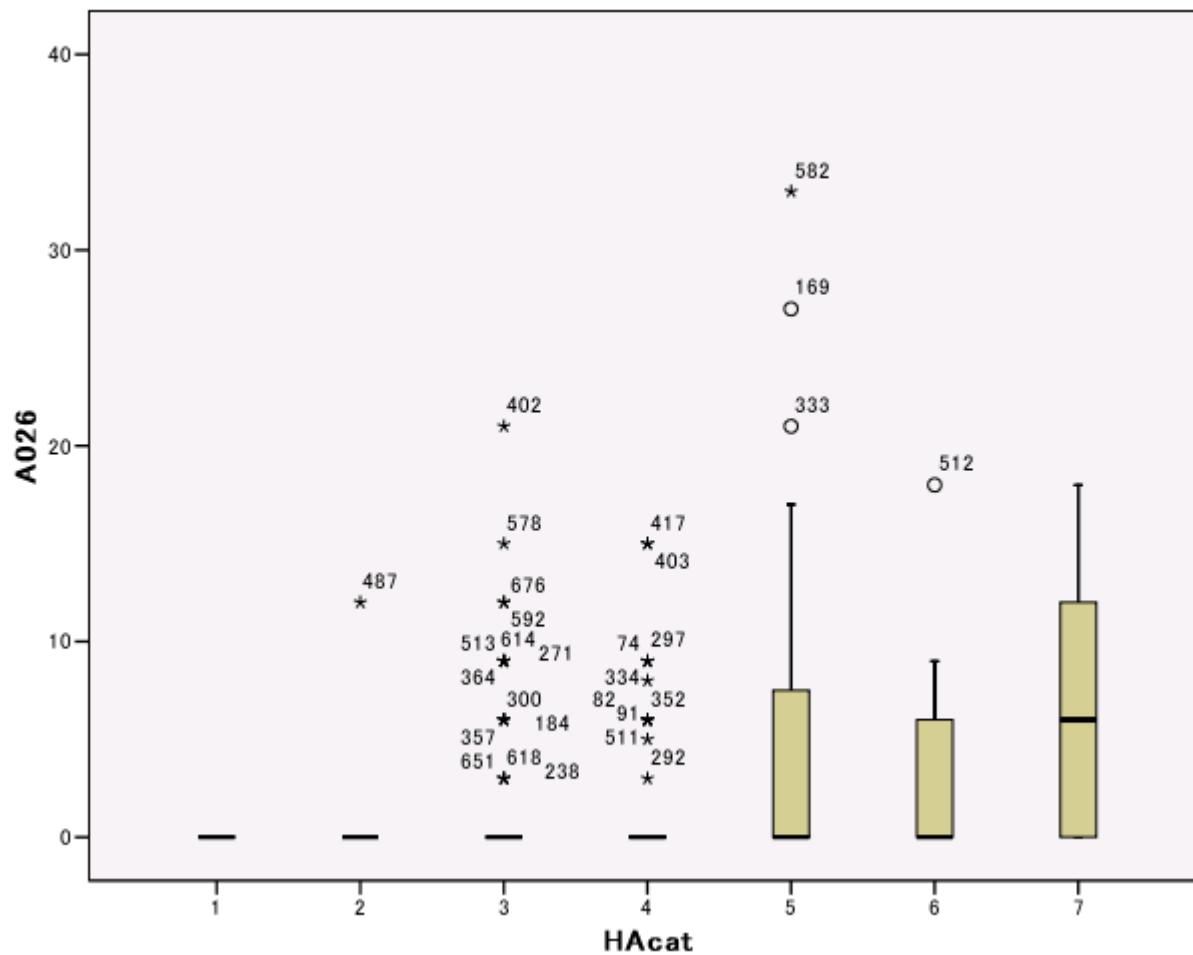
特定集中治療室
病床数



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

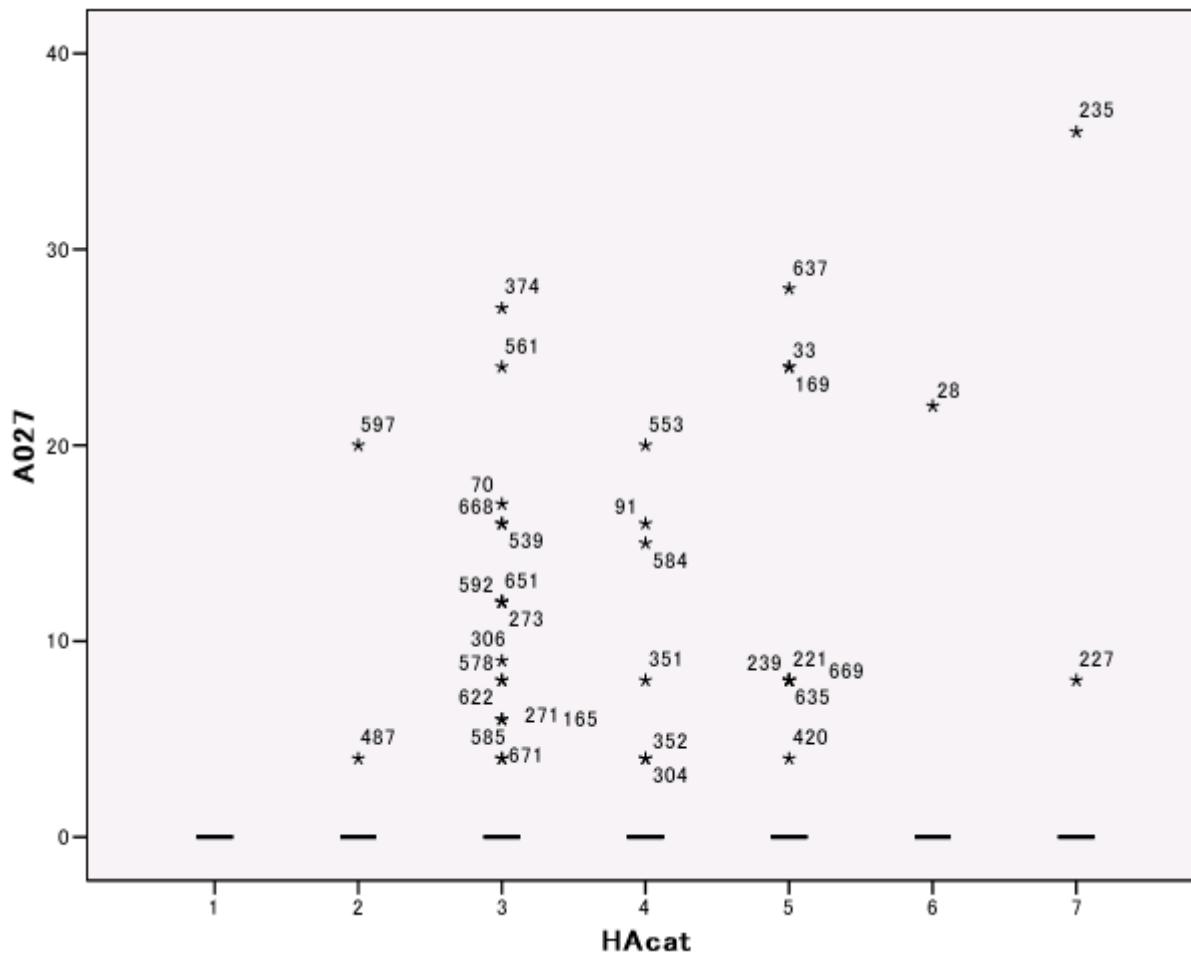
新生児
特定集中治療室
病床数



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

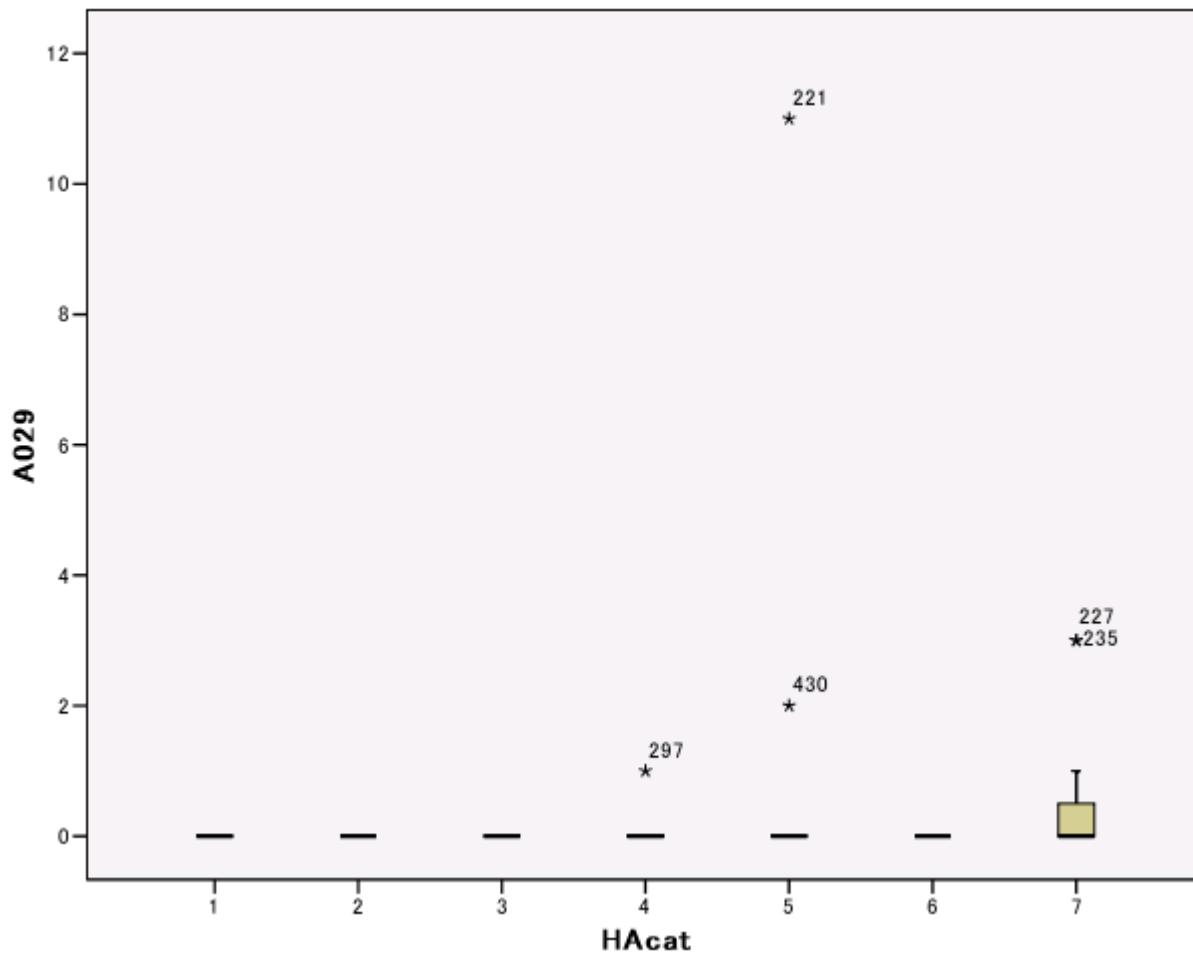
ハイケアユニット
病床数



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

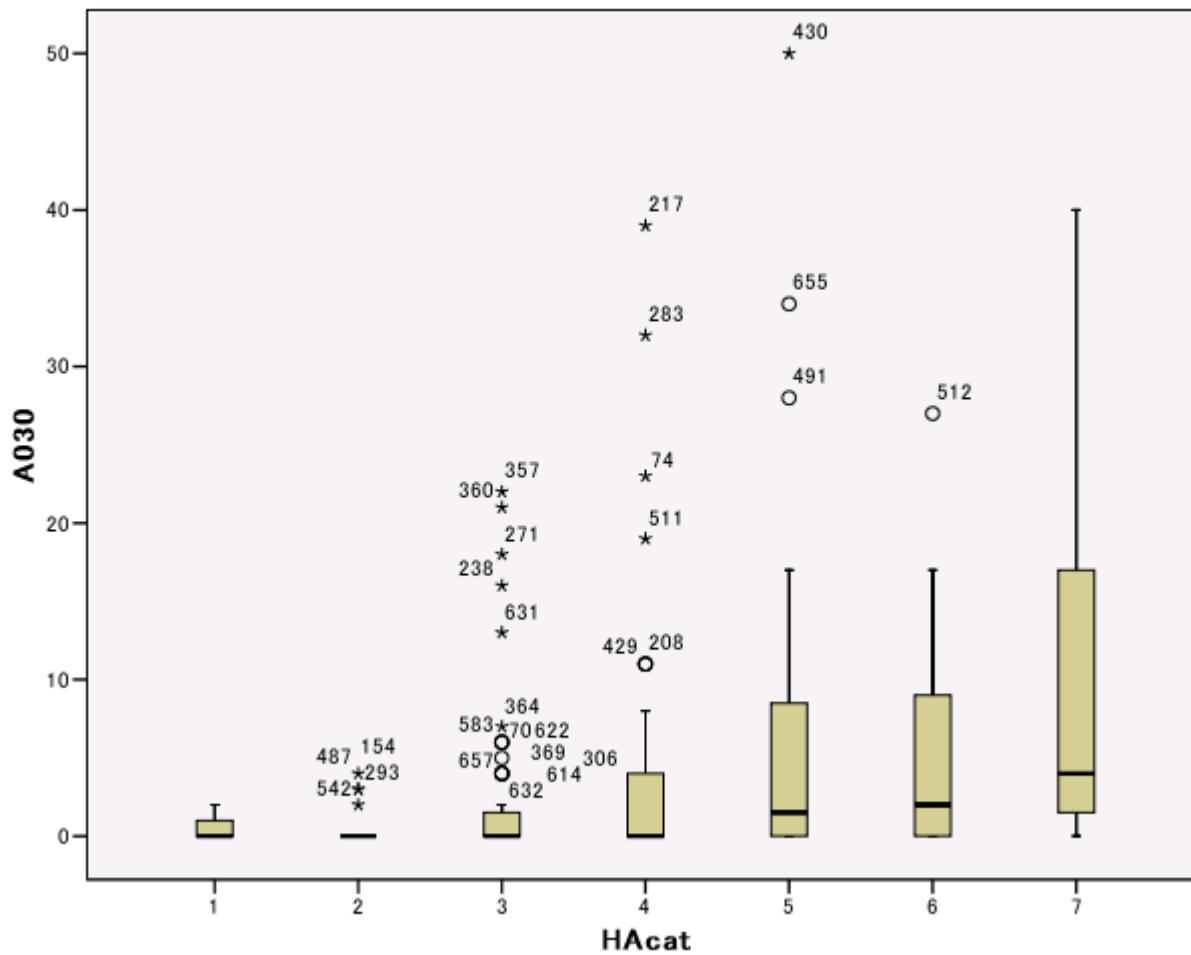
広範囲熱傷
特定集中治療室
病床数



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

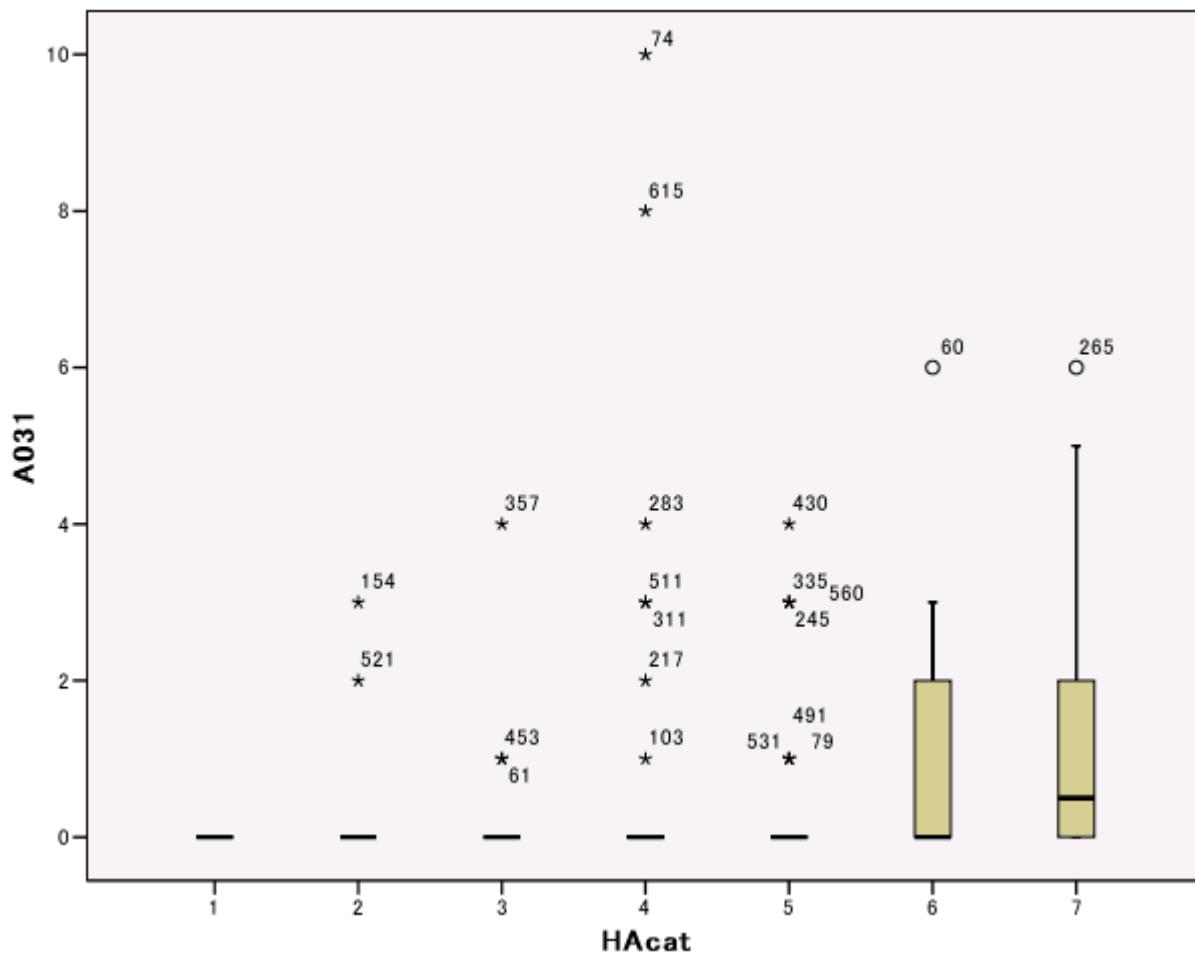
無菌治療室
病床数



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

放射線治療室
病床数



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

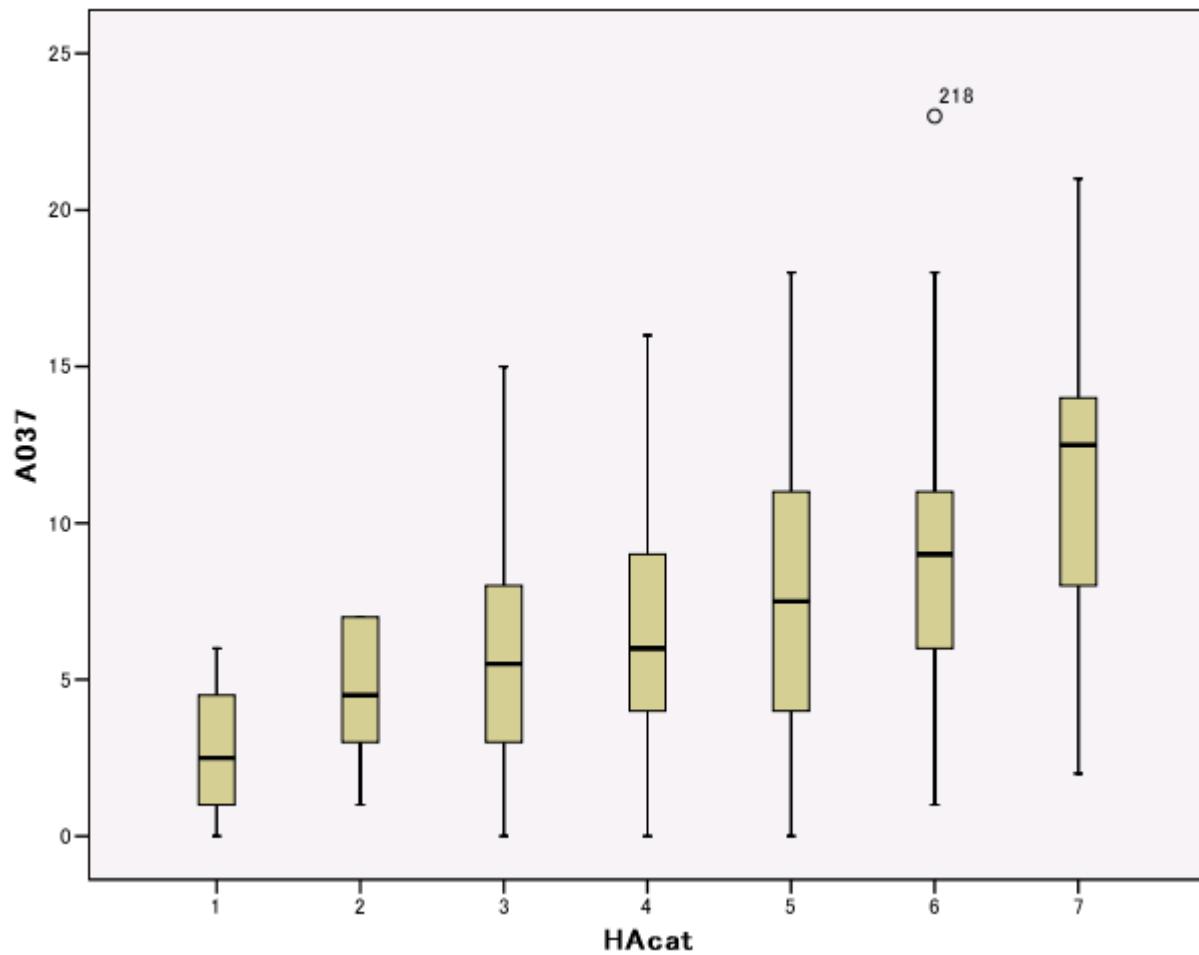
		調整係数のカテゴリー								
		1	2	3	4	5	6	7	合計	
理学療法室	記載なし	N	0	2	0	0	0	1	0	3
		% 1	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0
		% 2	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	9.9
	1. 専用	N	2	15	72	67	48	20	12	236
		% 1	0.8	6.4	30.5	28.4	20.3	8.5	5.1	100.0
		% 2	50.0	68.2	69.9	75.3	80.0	66.7	60.0	72.0
	2. 共用	N	1	5	28	18	11	9	7	79
		% 1	1.3	6.3	35.4	22.8	13.9	11.4	8.9	100.0
		% 2	25.0	22.7	27.2	20.2	18.3	30.0	35.0	24.1
作業療法室	記載なし	N	1	0	3	4	1	0	1	10
		% 1	10.0	0.0	30.0	40.0	10.0	0.0	10.0	100.0
		% 2	25.0	0.0	2.9	4.5	1.7	0.0	5.0	3.0
	1. 専用	N	0	2	1	0	0	1	0	4
		% 1	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	100.0
		% 2	0.0	9.1	1.0	0.0	0.0	3.3	0.0	1.2
	2. 共用	N	0	12	52	50	39	15	10	178
		% 1	0.0	6.7	29.2	28.1	21.9	8.4	5.6	100.0
		% 2	0.0	54.5	50.5	56.2	65.0	50.0	50.0	54.3
精神科作業療法室	記載なし	N	1	5	28	19	11	9	6	79
		% 1	1.3	6.3	35.4	24.1	13.9	11.4	7.6	100.0
		% 2	25.0	22.7	27.2	21.3	18.3	30.0	30.0	24.1
	3. 無し	N	3	3	22	20	10	5	4	67
		% 1	4.5	4.5	32.8	29.9	14.9	7.5	6.0	100.0
		% 2	75.0	13.6	21.4	22.5	16.7	16.7	20.0	20.4
	1. 専用	N	0	4	3	0	0	2	0	9
		% 1	0.0	44.4	33.3	0.0	0.0	22.2	0.0	100.0
		% 2	0.0	18.2	2.9	0.0	0.0	6.7	0.0	2.7
精神科デイケア室 または 精神科ナイトケア室	記載なし	N	0	0	3	6	4	7	5	25
		% 1	0.0	0.0	12.0	24.0	16.0	28.0	20.0	100.0
		% 2	0.0	0.0	2.9	6.7	6.7	23.3	25.0	7.6
	2. 共用	N	0	0	2	0	1	0	0	3
		% 1	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	100.0
		% 2	0.0	0.0	1.9	0.0	1.7	0.0	0.0	0.9
	3. 無し	N	4	18	95	83	55	21	15	291
		% 1	1.4	6.2	32.6	28.5	18.9	7.2	5.2	100.0
		% 2	100.0	81.8	92.2	93.3	91.7	70.0	75.0	88.7
合計	記載なし	N	0	4	3	0	0	2	0	9
		% 1	0.0	44.4	33.3	0.0	0.0	22.2	0.0	100.0
		% 2	0.0	18.2	2.9	0.0	0.0	6.7	0.0	2.7
	1. 専用	N	0	1	4	7	1	3	3	19
		% 1	0.0	5.3	21.1	36.8	5.3	15.8	15.8	100.0
		% 2	0.0	4.5	3.9	7.9	1.7	10.0	15.0	5.8
	2. 共用	N	0	0	0	1	3	0	1	5
		% 1	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0	20.0	100.0
		% 2	0.0	0.0	0.0	1.1	5.0	0.0	5.0	1.5
	3. 無し	N	4	17	96	81	56	25	16	295
		% 1	1.4	5.8	32.5	27.5	19.0	8.5	5.4	100.0
		% 2	100.0	77.3	93.2	91.0	93.3	83.3	80.0	89.9

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、% 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数カテゴリー

- 1: < 0.95
- 2: < 1.00
- 3: < 1.05
- 4: < 1.10
- 5: < 1.15
- 6: < 1.20
- 7: >=1.20

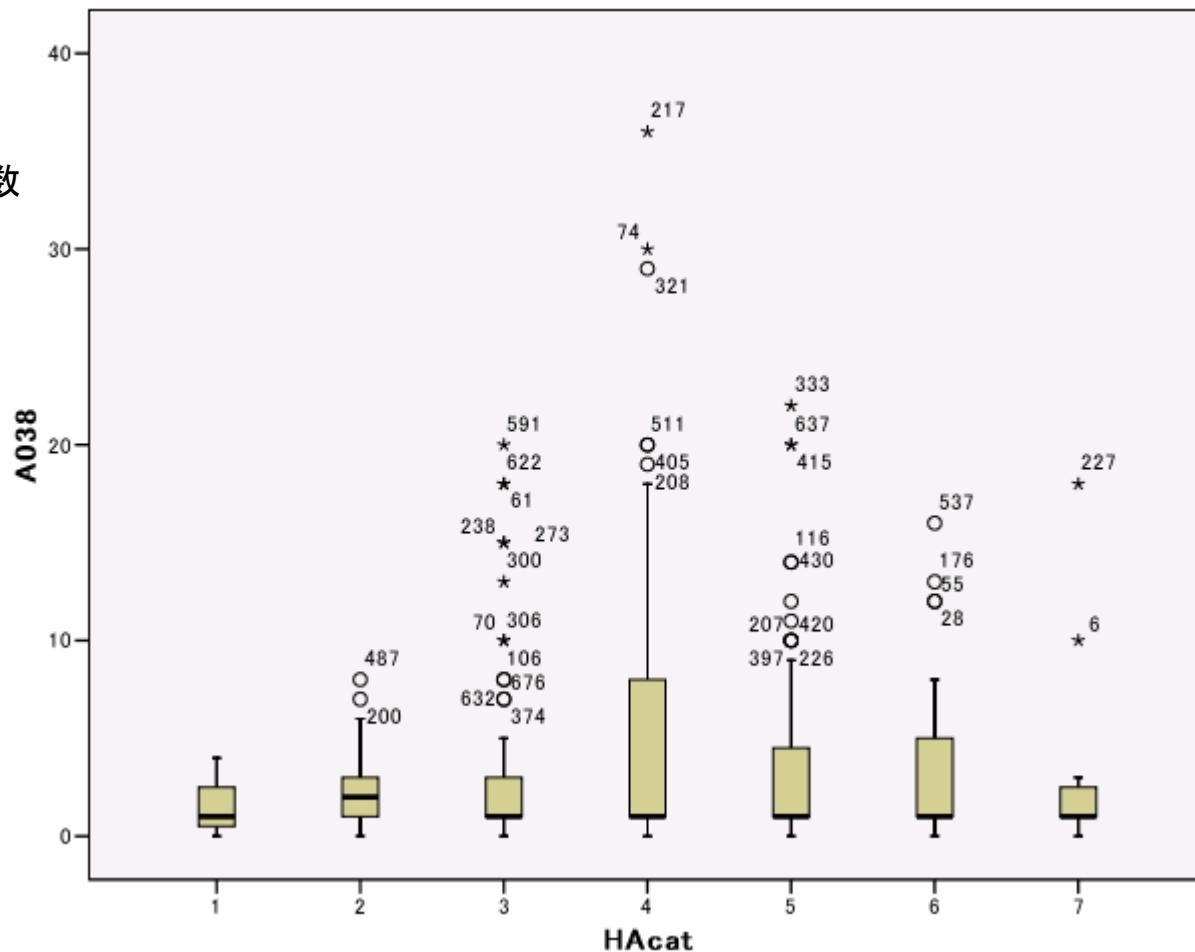
全身麻酔可能な
手術室数



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

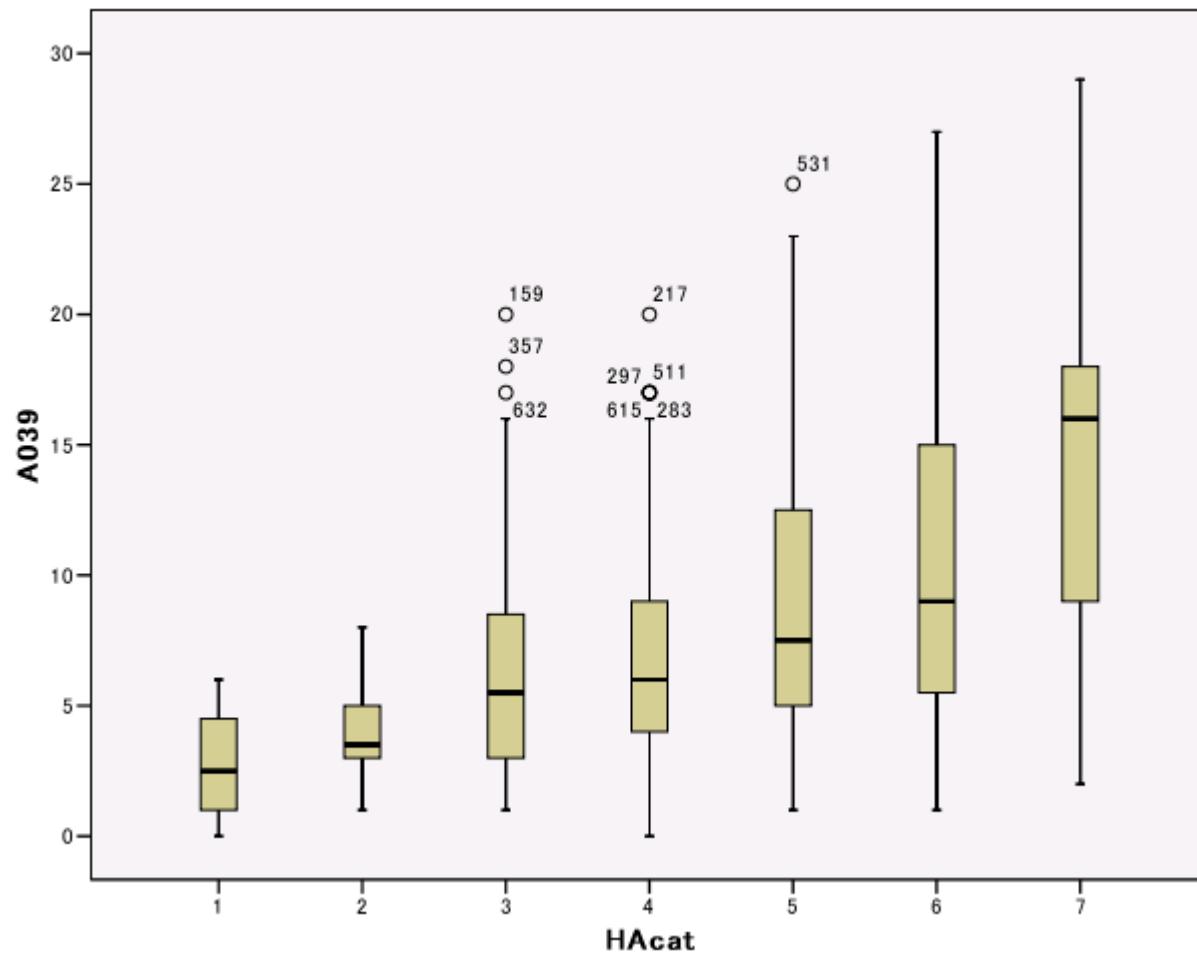
外来化学療法
加算のある
外来化学療法室数



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

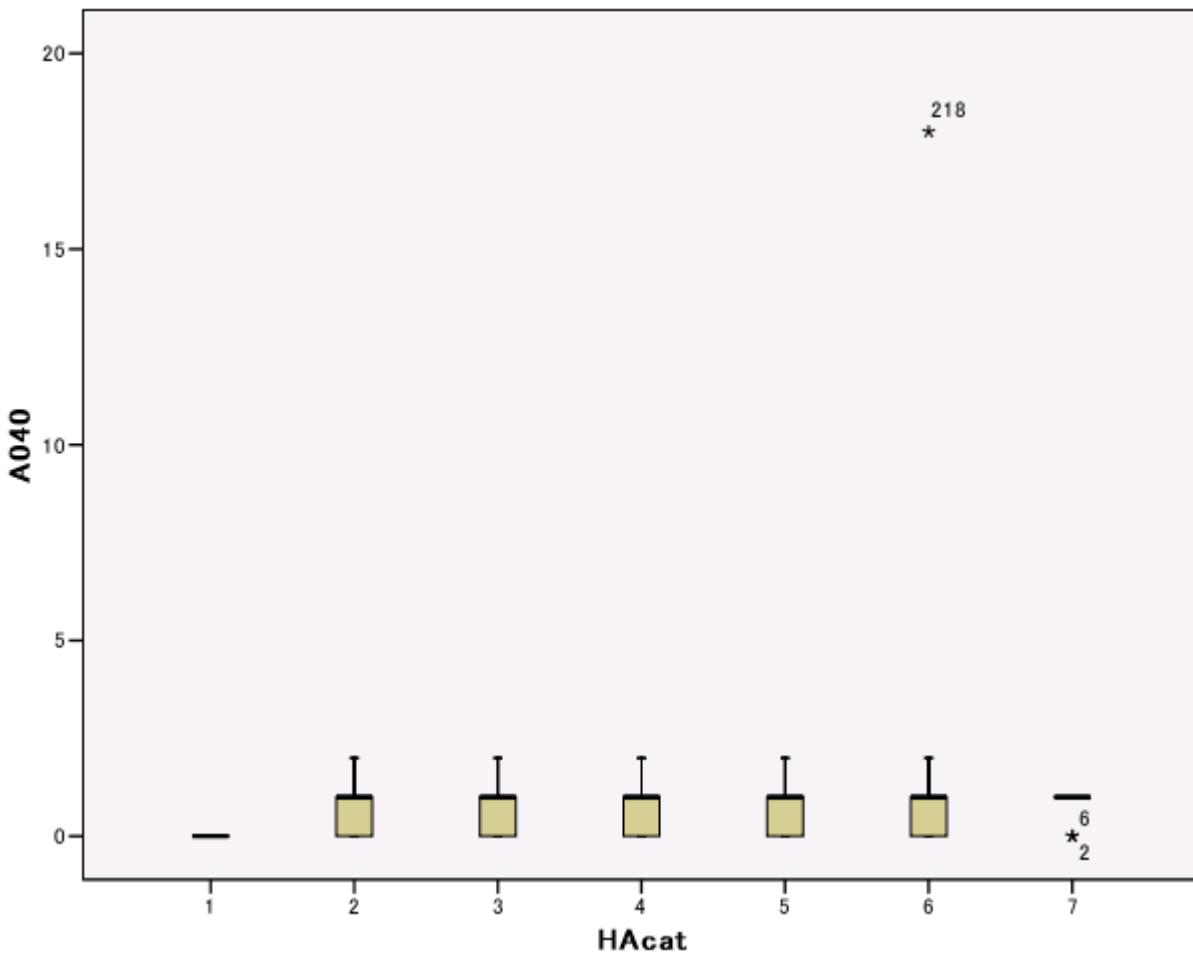
全身麻酔
管理機器数



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

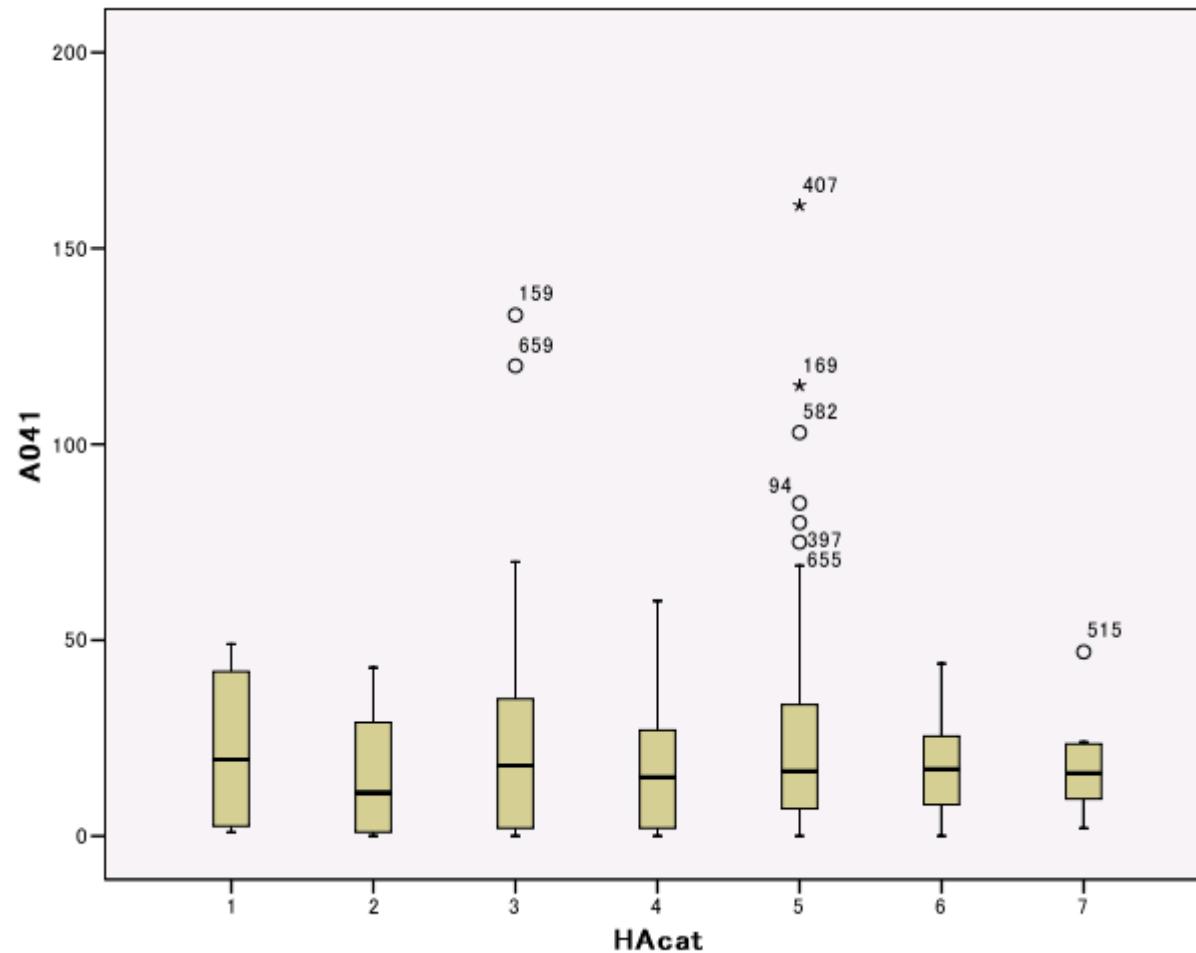
体外衝撃波
結石破碎装置数



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

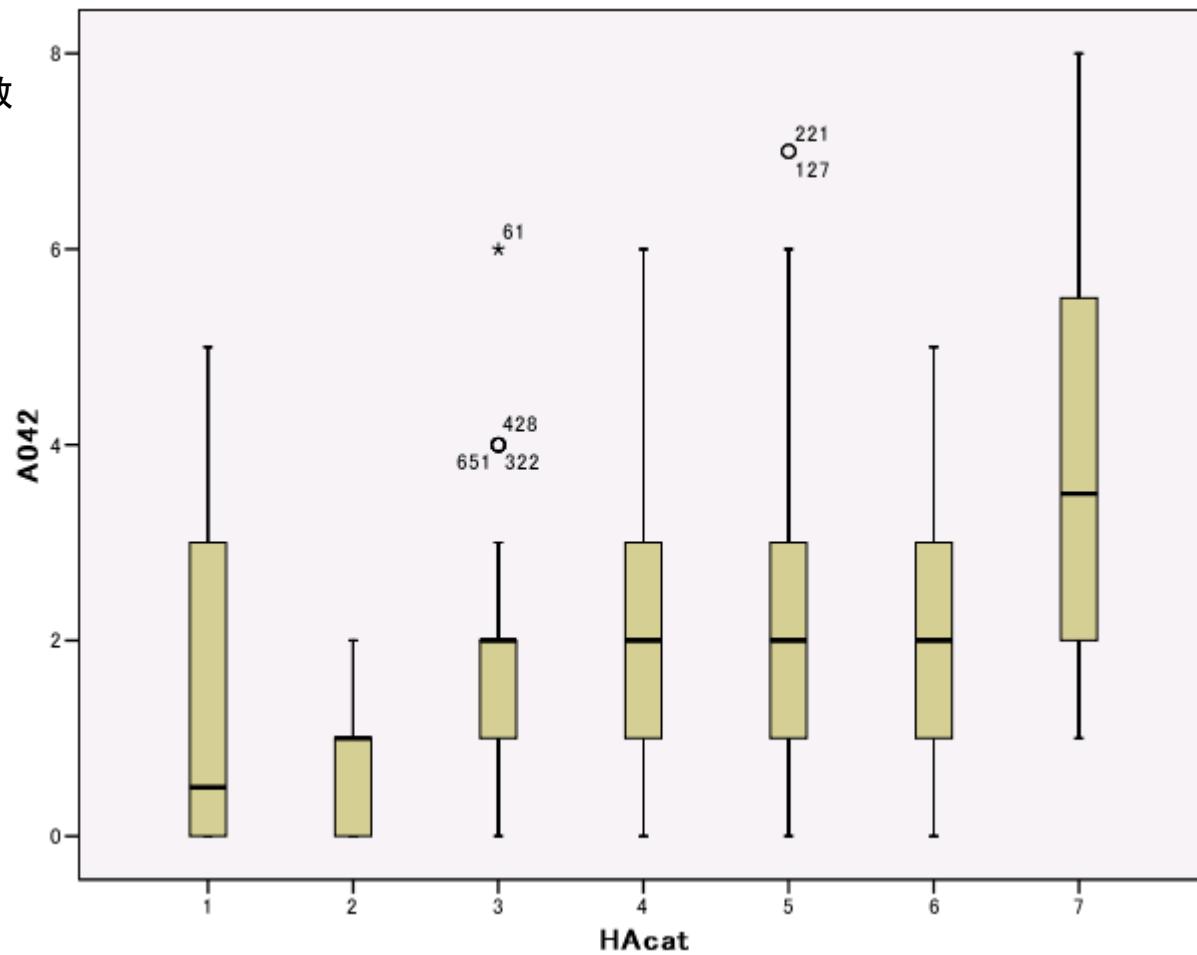
人工透析装置数



調整係数のカテゴリー

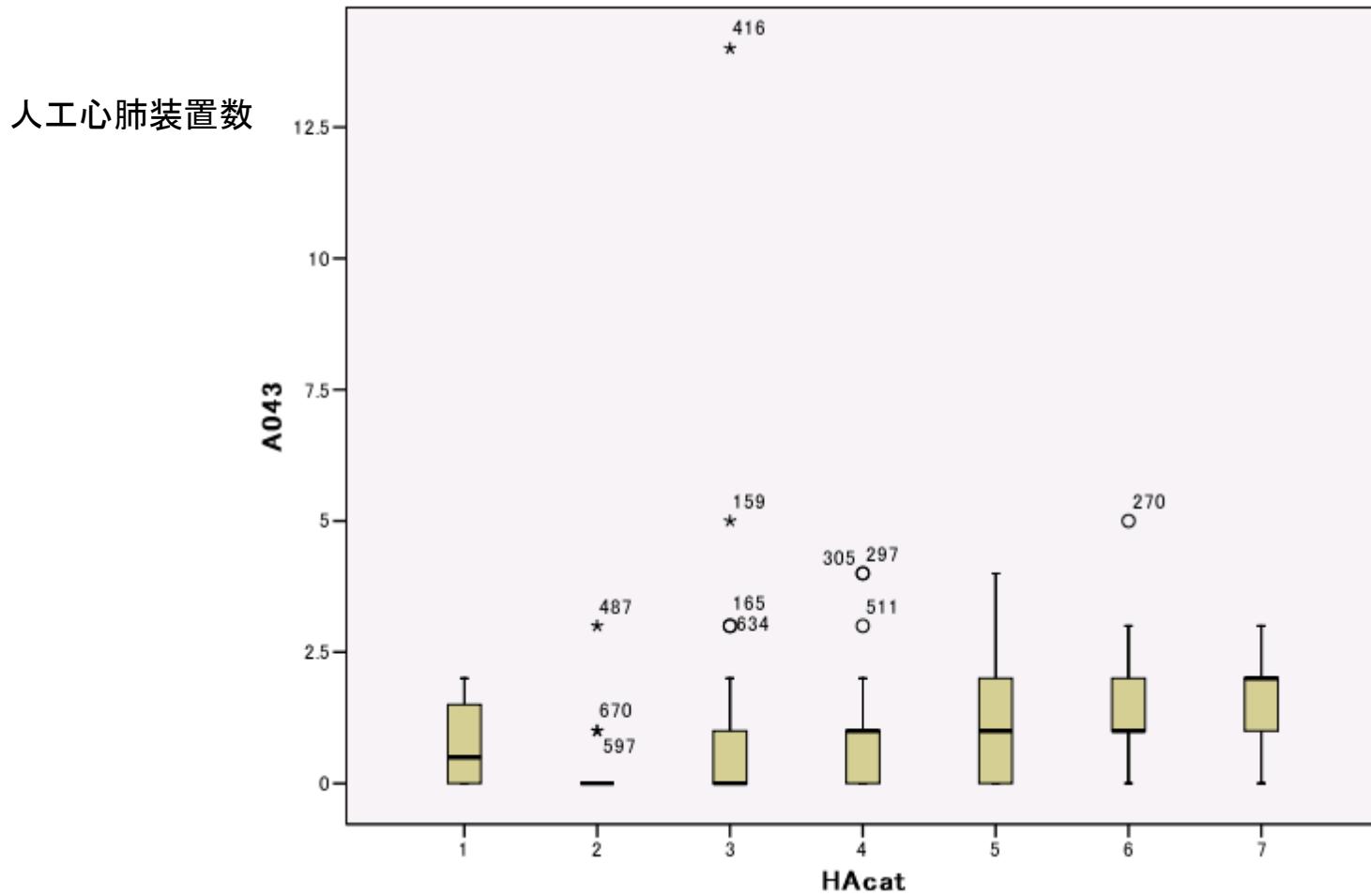
1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

IABP駆動装置数



調整係数のカテゴリー

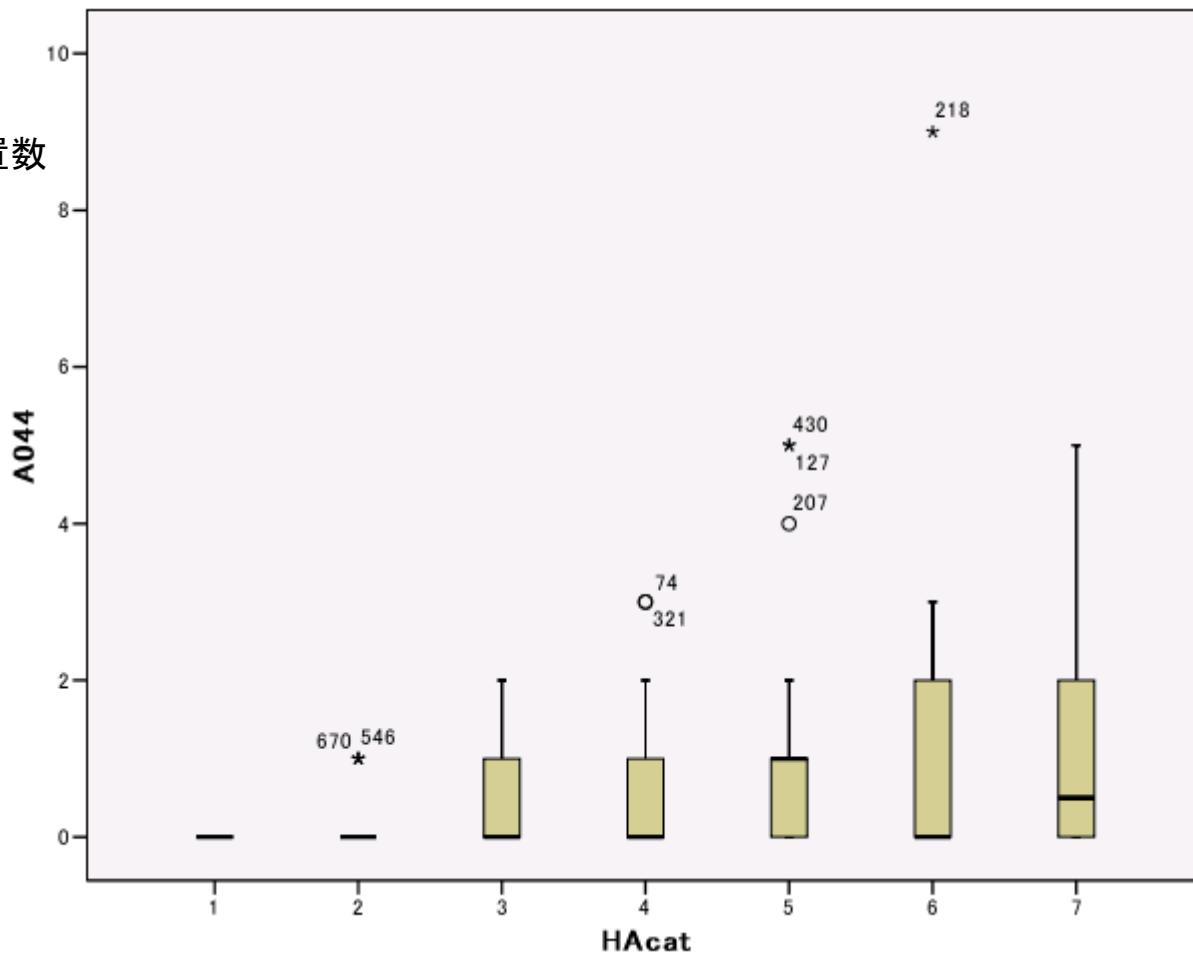
1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: ≥ 1.20

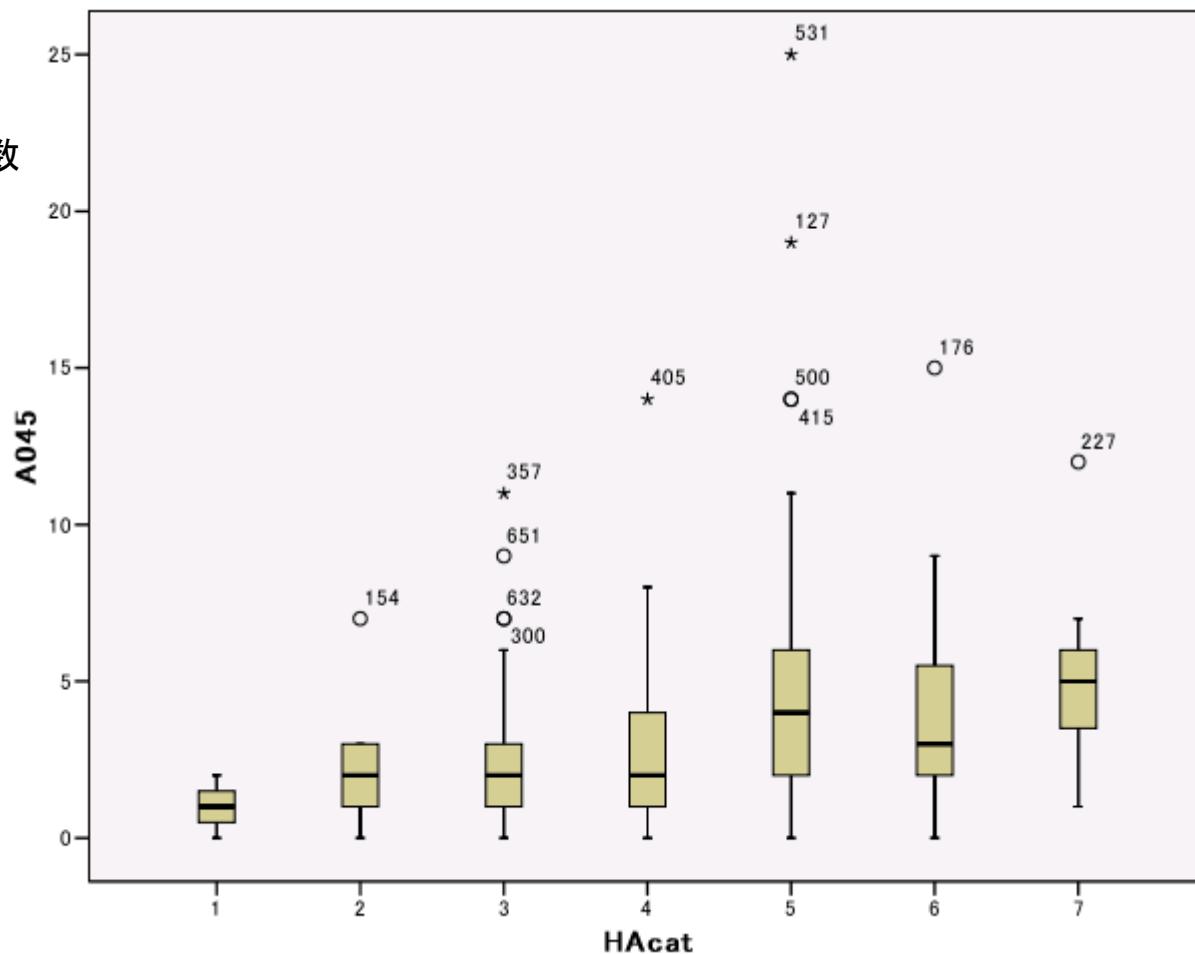
補助人工心臓・
左室補助循環装置数



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: ≥ 1.20

胸腔・腹腔鏡
手術用モニター数



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

		調整係数のカテゴリー								
レセ電の提出状況		1	2	3	4	5	6	7	合計	
外来	1. 実施(オンライン・媒体)	N	4	19	94	82	57	28	19	303
		% 1	1.3	6.3	31.0	27.1	18.8	9.2	6.3	100.0
		% 2	100.0	86.4	91.3	92.1	95.0	93.3	95.0	92.4
	2. 1年以内実施予定	N	0	3	6	7	3	2	1	22
		% 1	0.0	13.6	27.3	31.8	13.6	9.1	4.5	100.0
		% 2	0.0	13.6	5.8	7.9	5.0	6.7	5.0	6.7
	3. その他	N	0	0	3	0	0	0	0	3
		% 1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		% 2	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
DPC入院	1. 実施(オンライン・媒体)	N	4	18	93	79	55	26	19	294
		% 1	1.4	6.1	31.6	26.9	18.7	8.8	6.5	100.0
		% 2	100.0	81.8	90.3	88.8	91.7	86.7	95.0	89.6
	2. 1年以内実施予定	N	0	4	7	9	5	4	1	30
		% 1	0.0	13.3	23.3	30.0	16.7	13.3	3.3	100.0
		% 2	0.0	18.2	6.8	10.1	8.3	13.3	5.0	9.1
	3. その他	N	0	0	3	1	0	0	0	4
		% 1	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		% 2	0.0	0.0	2.9	1.1	0.0	0.0	0.0	1.2
一般入院	記載なし	N	0	0	0	0	0	0	1	1
		% 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
		% 2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.3
	1. 実施(オンライン・媒体)	N	4	19	94	79	56	26	18	296
		% 1	1.4	6.4	31.8	26.7	18.9	8.8	6.1	100.0
		% 2	100.0	86.4	91.3	88.8	93.3	86.7	90.0	90.2
	2. 1年以内実施予定	N	0	3	6	9	4	4	1	27
		% 1	0.0	11.1	22.2	33.3	14.8	14.8	3.7	100.0
		% 2	0.0	13.6	5.8	10.1	6.7	13.3	5.0	8.2
	3. その他	N	0	0	3	1	0	0	0	4
		% 1	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		% 2	0.0	0.0	2.9	1.1	0.0	0.0	0.0	1.2
合計		N	4	22	103	89	60	30	20	328
		% 1	1.2	6.7	31.4	27.1	18.3	9.1	6.1	100.0
		% 2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

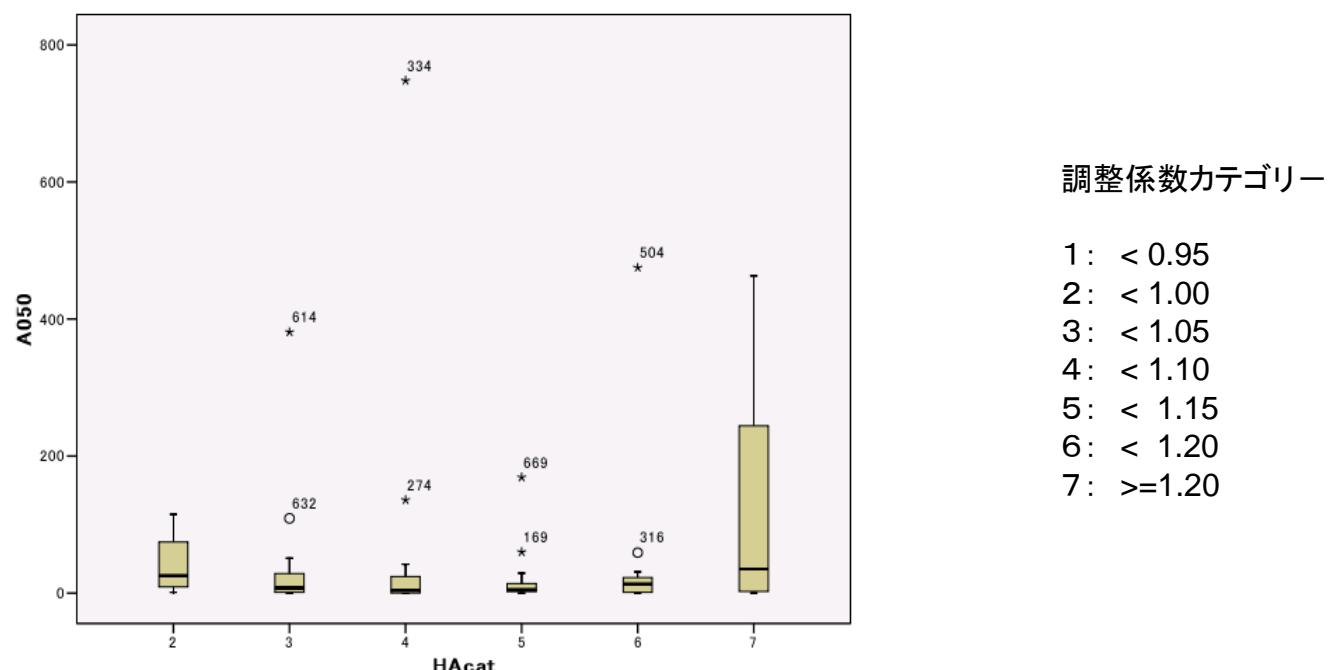
% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、% 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

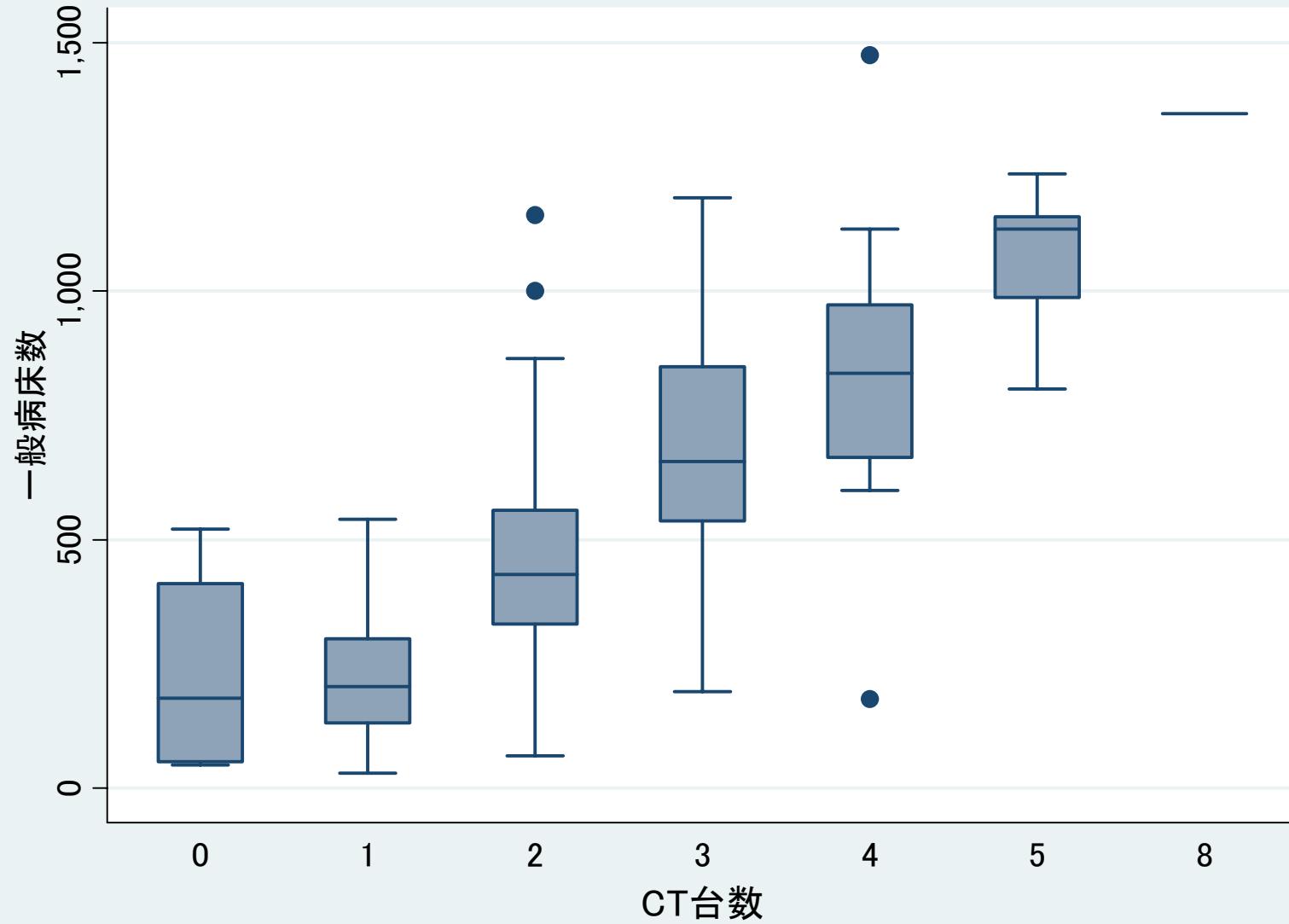
調整係数のカテゴリー

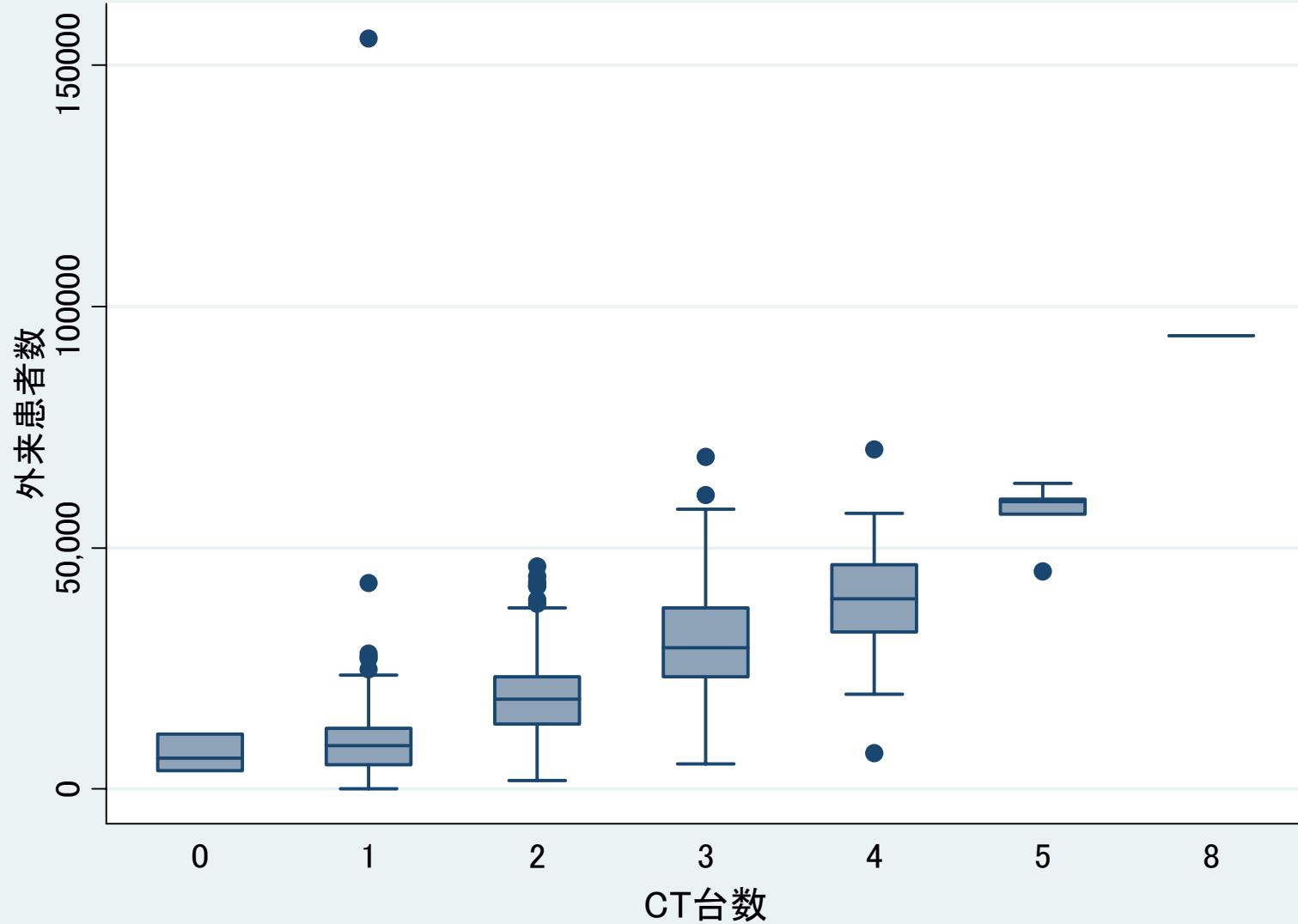
1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

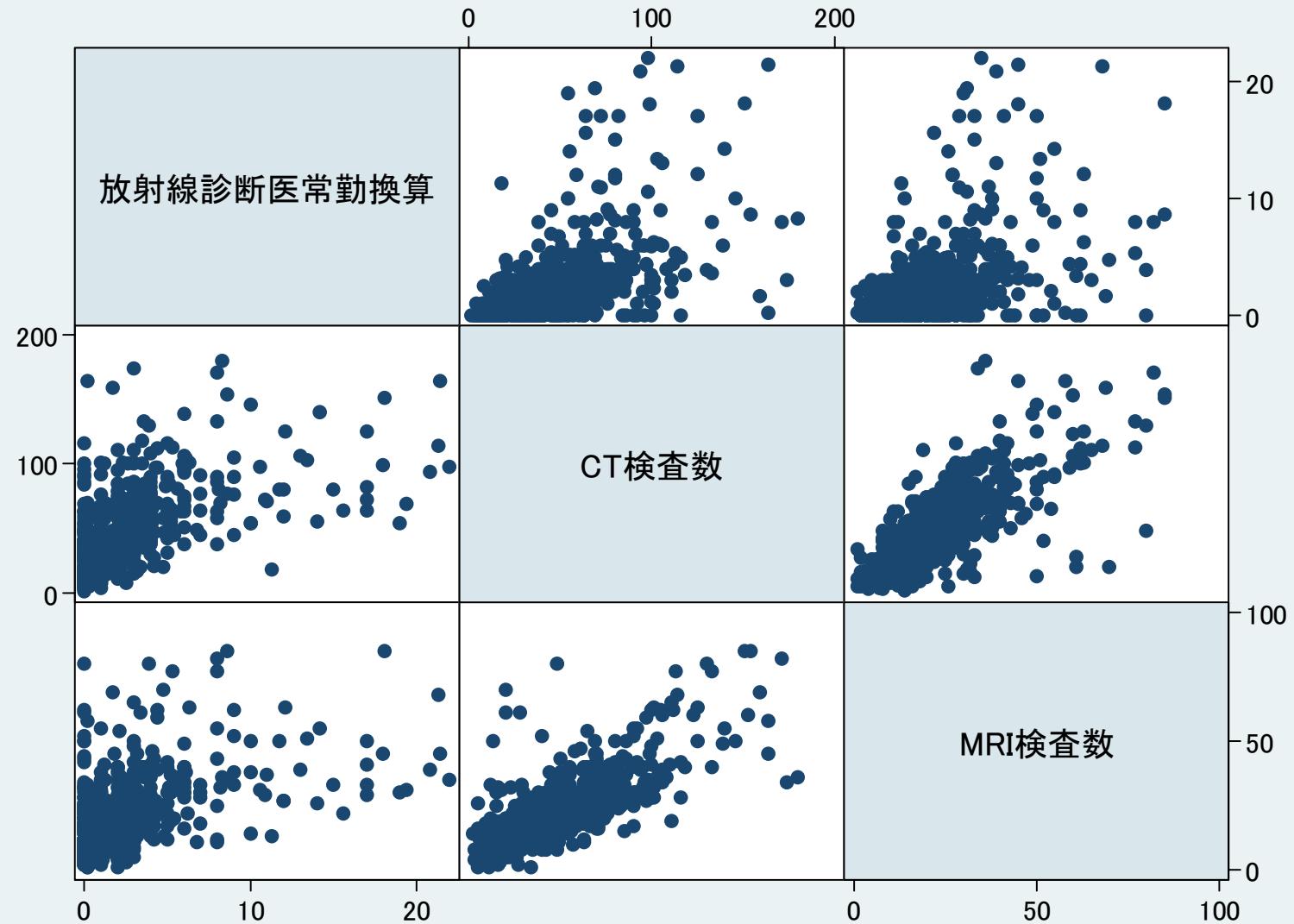
調整係数のカテゴリー									
救急搬送用ヘリポート	1	2	3	4	5	6	7	合計	
記載なし	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	2 7.7 9.1	8 30.8 7.8	6 23.1 6.7	8 30.8 13.3	2 7.7 6.7	0 0.0 0.0	26 100.0 7.9
設置あり	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	4 4.4 18.2	25 27.5 24.3	22 24.2 24.7	22 24.2 36.7	11 12.1 36.7	7 7.7 35.0	91 100.0 27.7
設置なし	N % 1 % 2	4 1.9 100.0	16 7.6 72.7	70 33.2 68.0	61 28.9 68.5	30 14.2 50.0	17 8.1 56.7	13 6.2 65.0	211 100.0 64.3
合計	N % 1 % 2	4 1.2 100.0	22 6.7 100.0	103 31.4 100.0	89 27.1 100.0	60 18.3 100.0	30 9.1 100.0	20 6.1 100.0	328 100.0 100.0

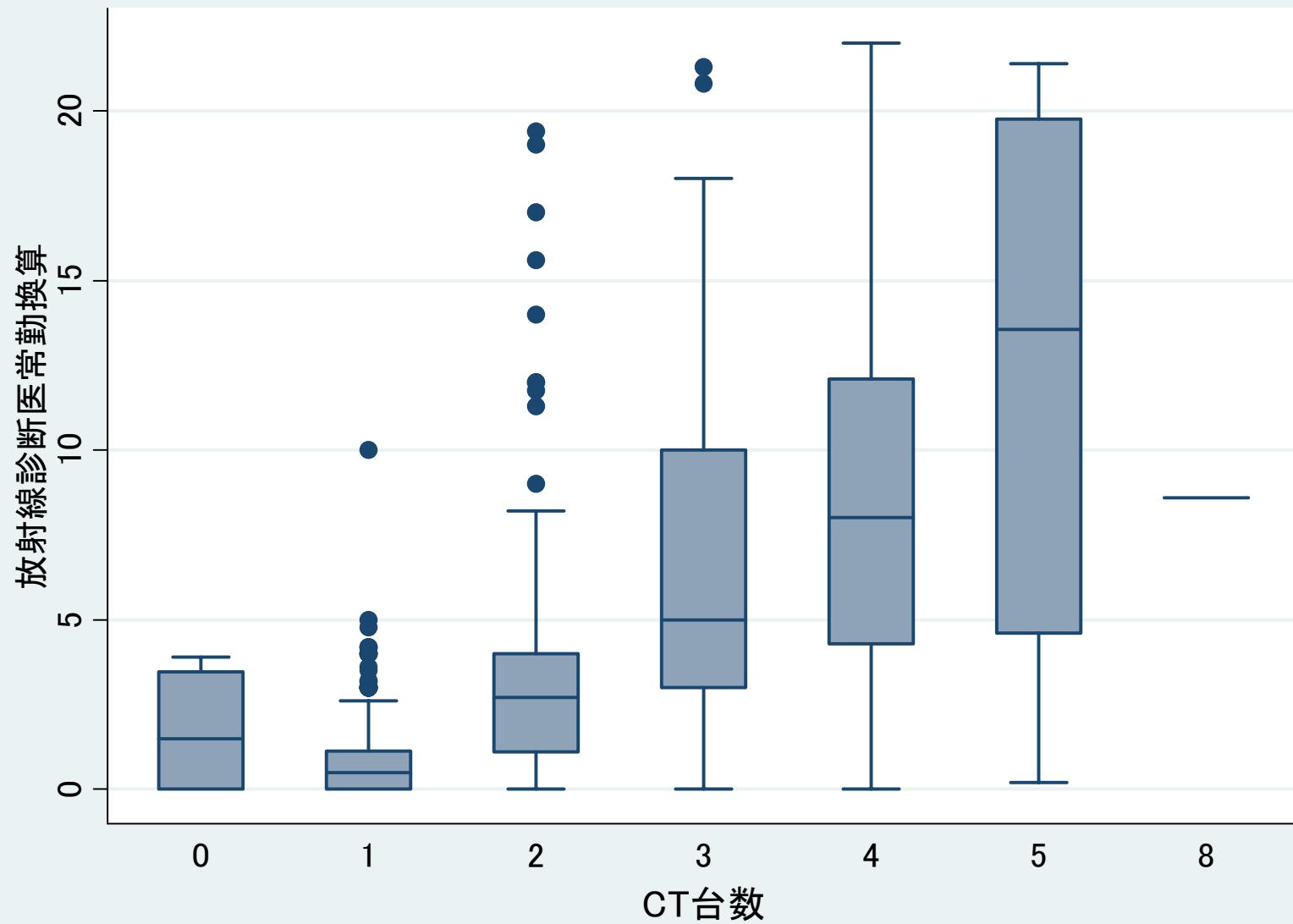
% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、 % 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

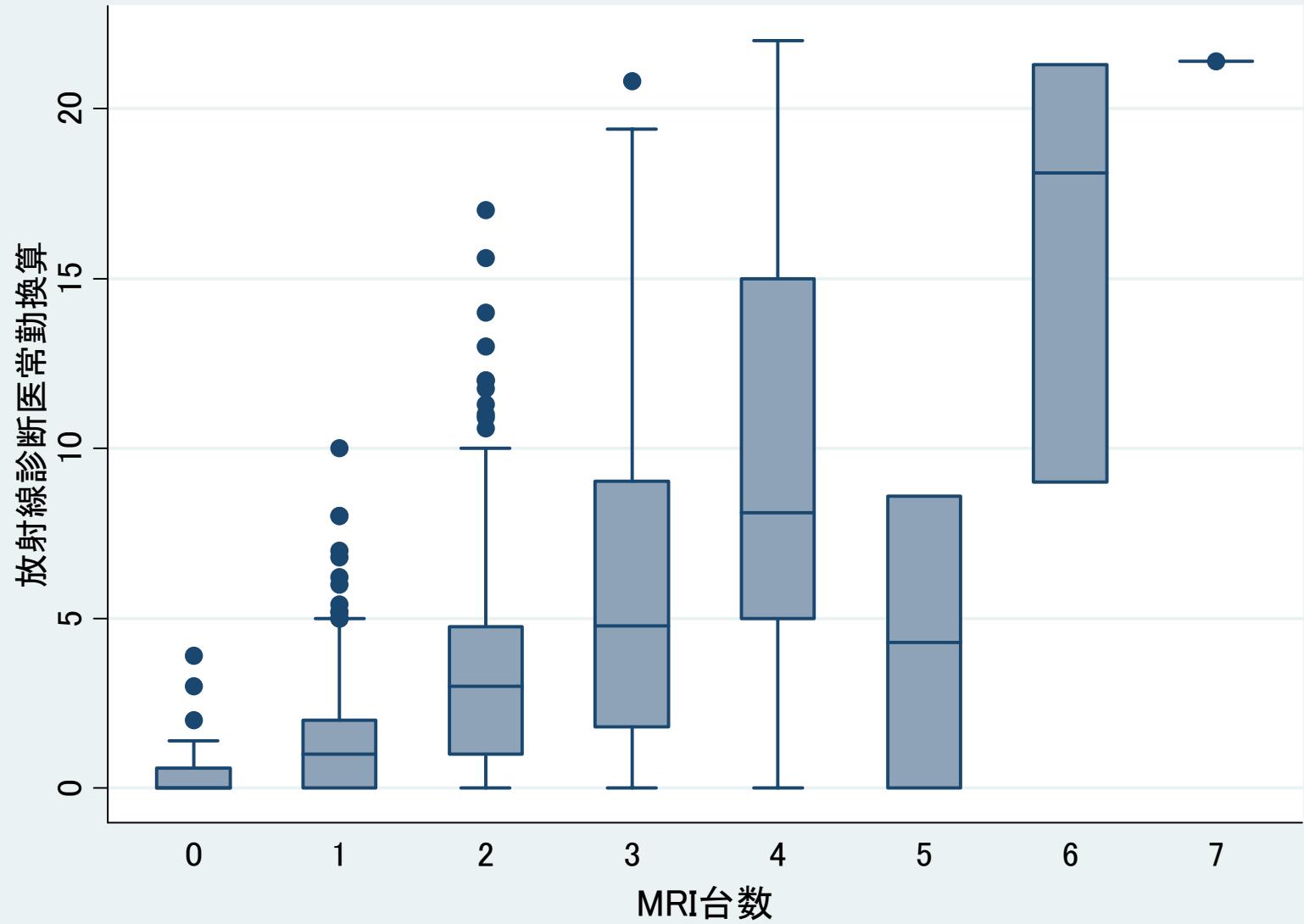


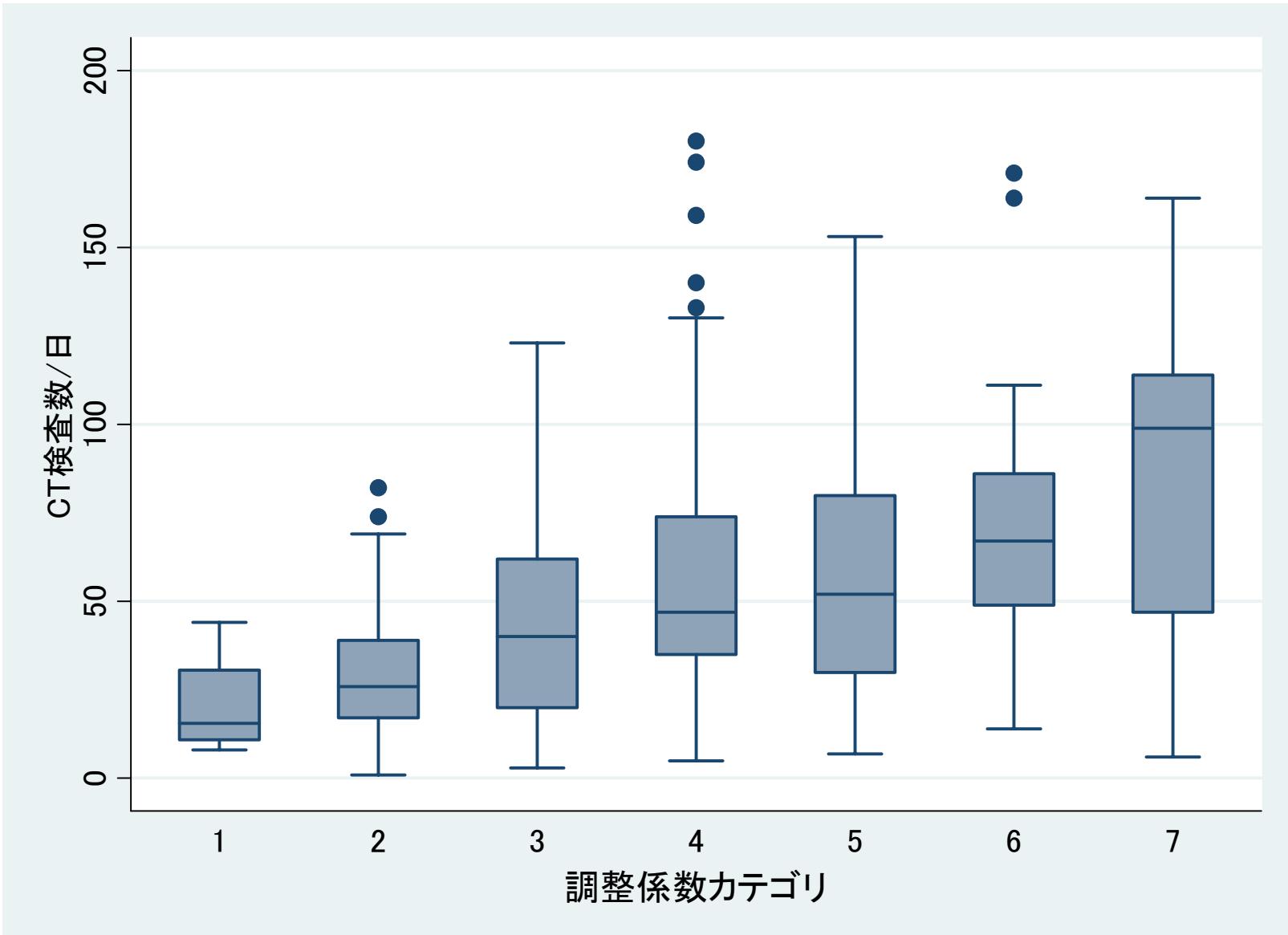






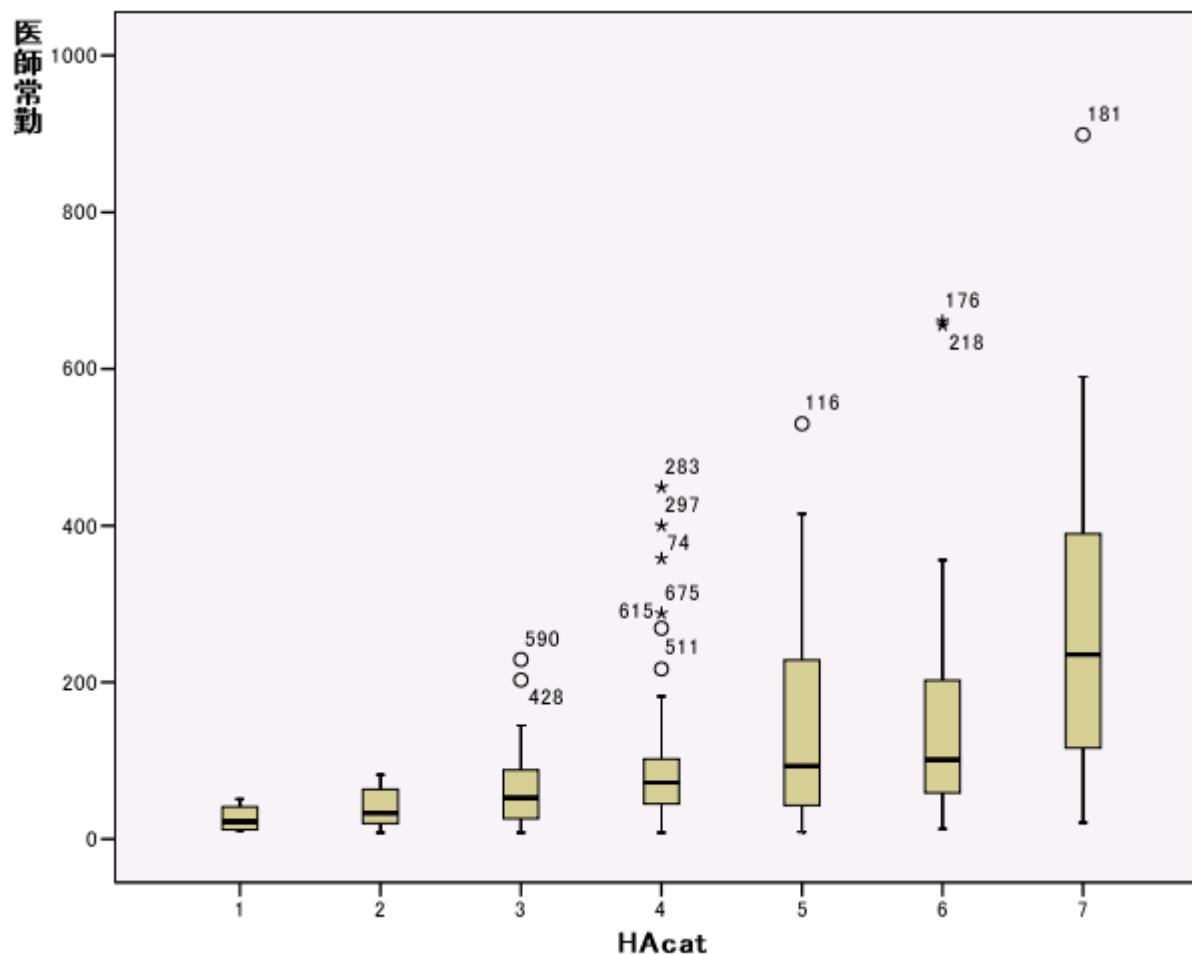






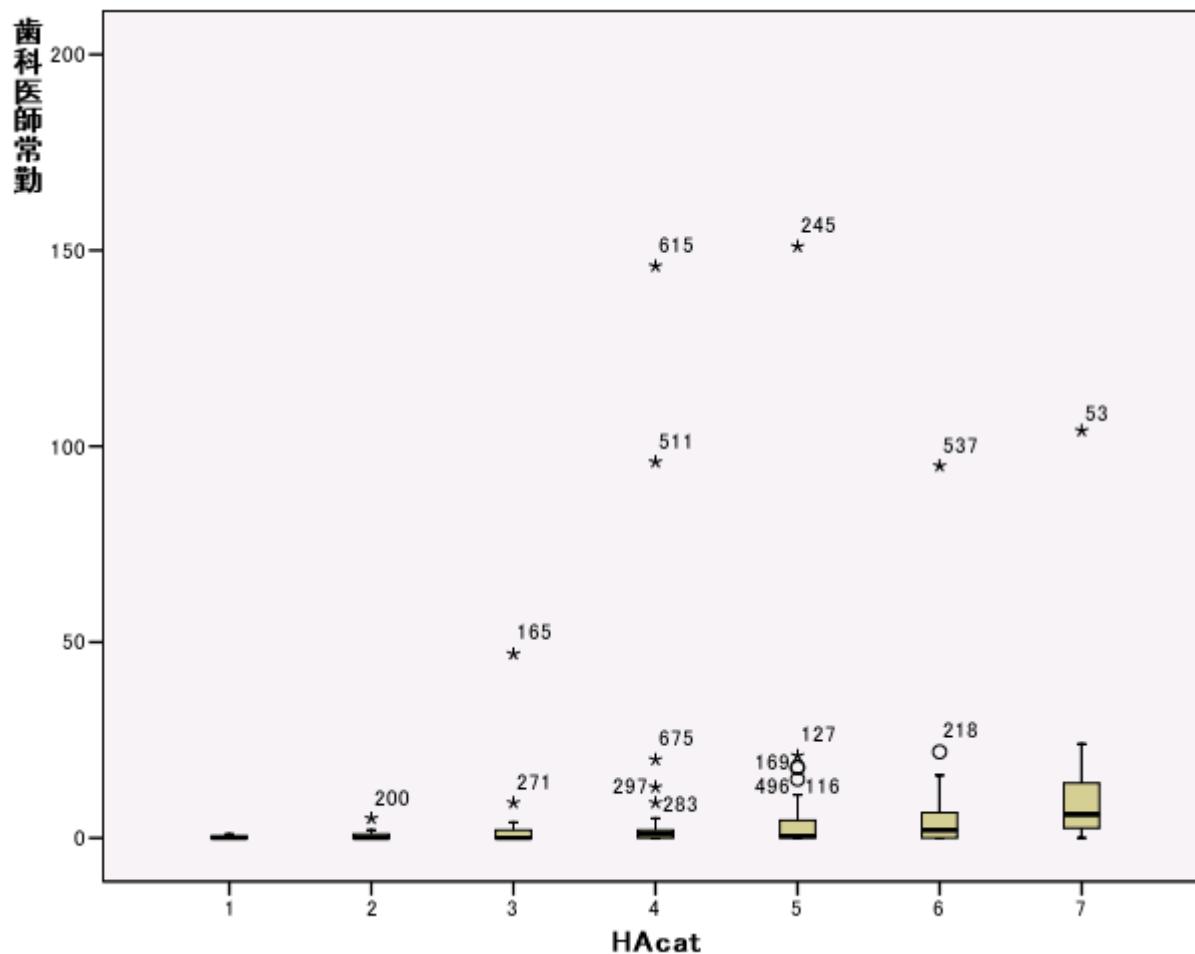
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



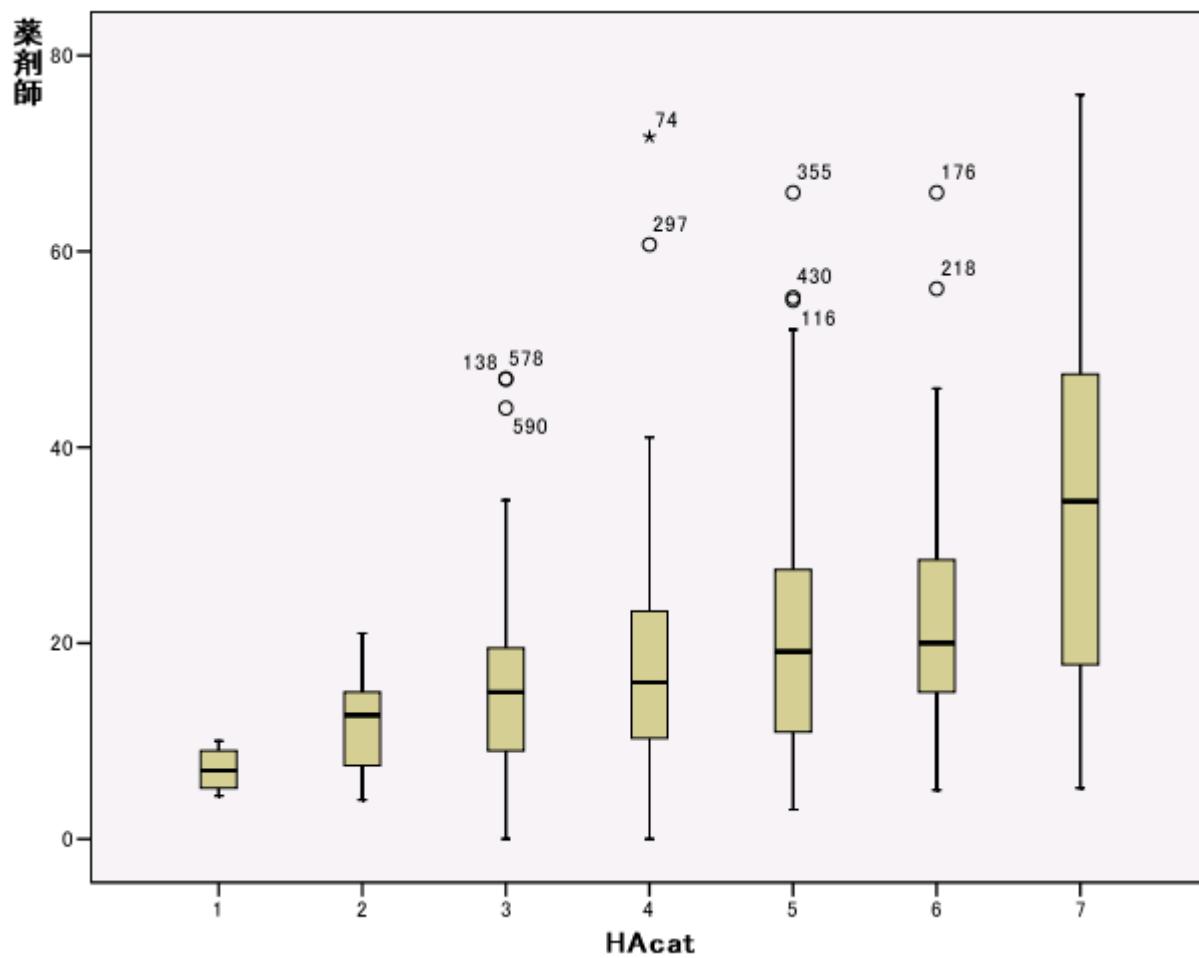
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



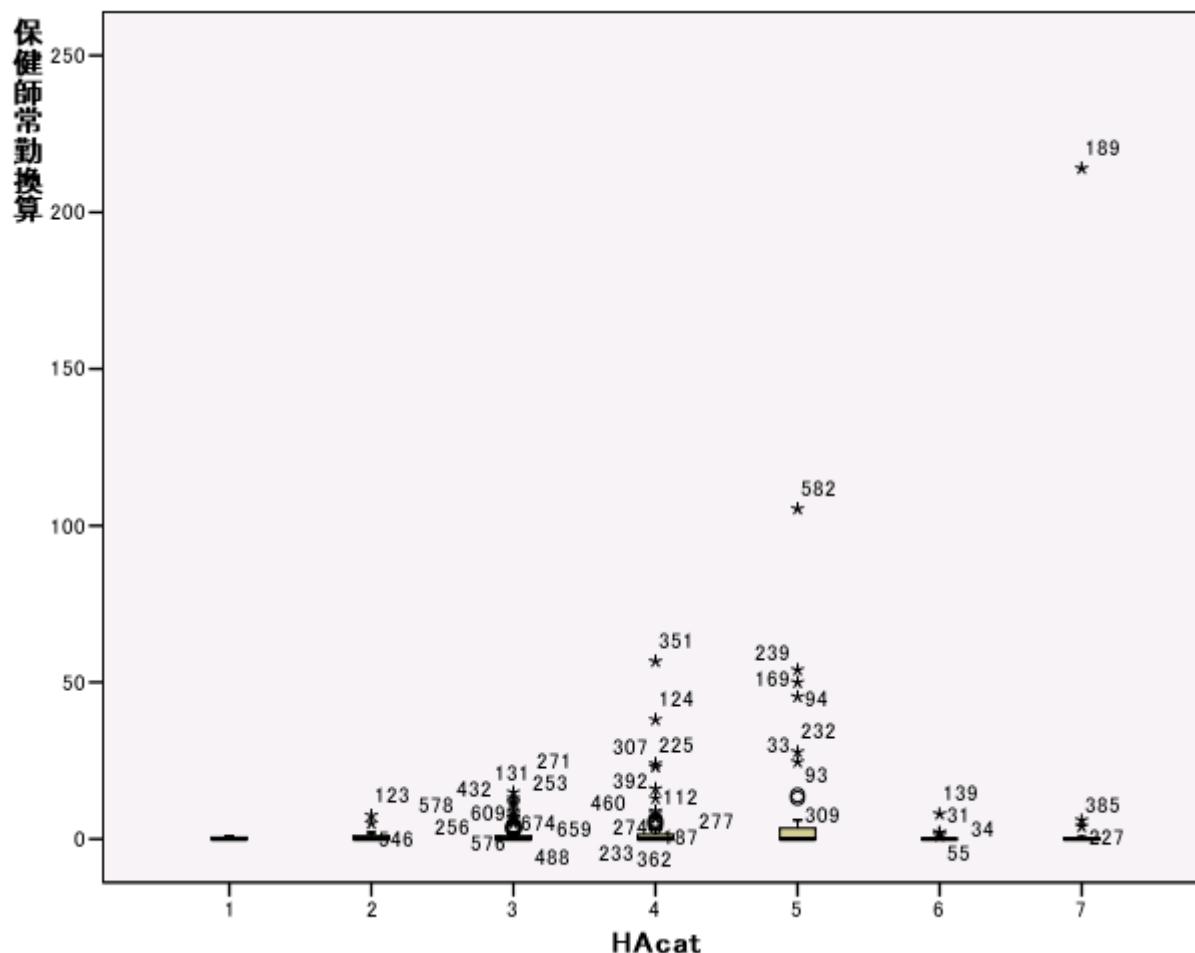
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



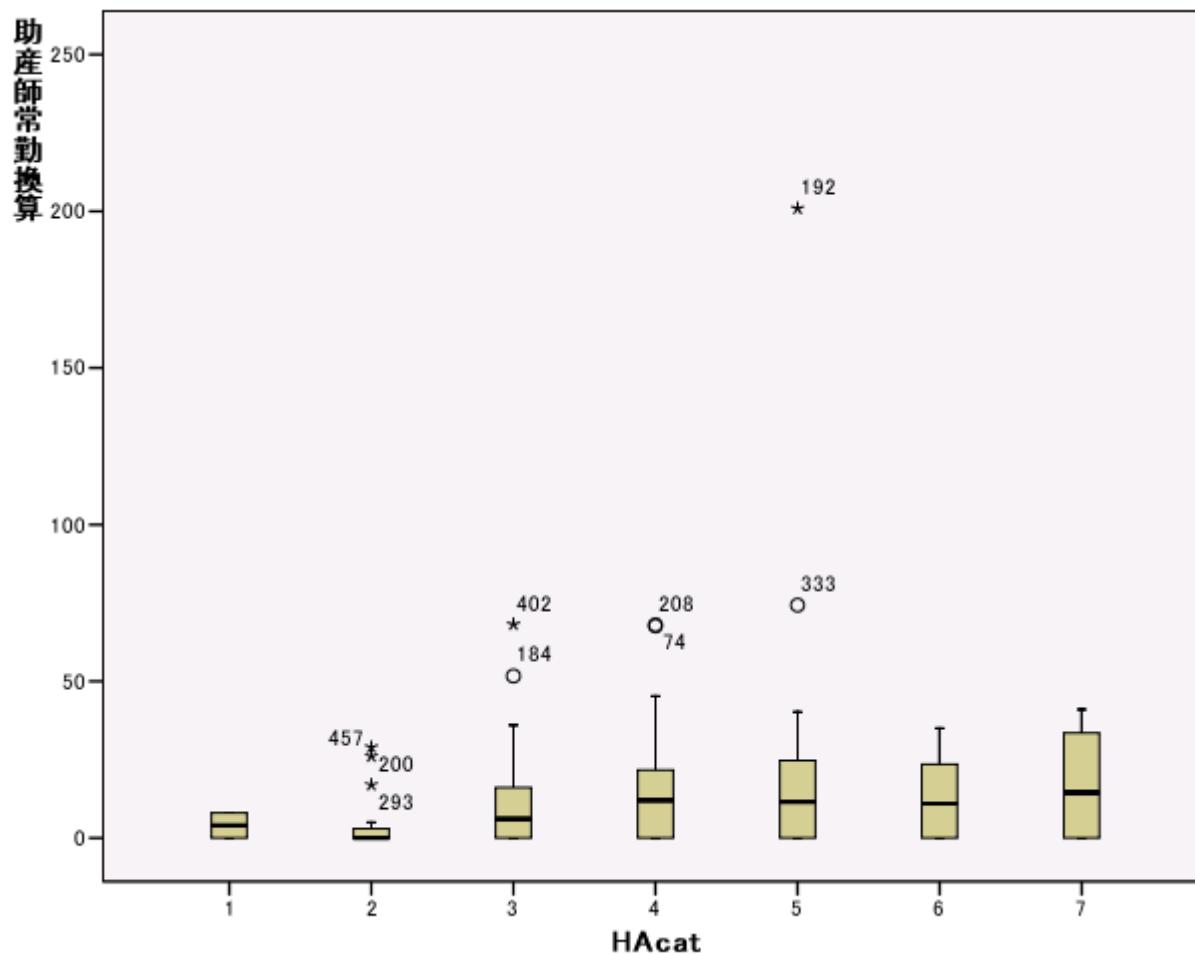
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



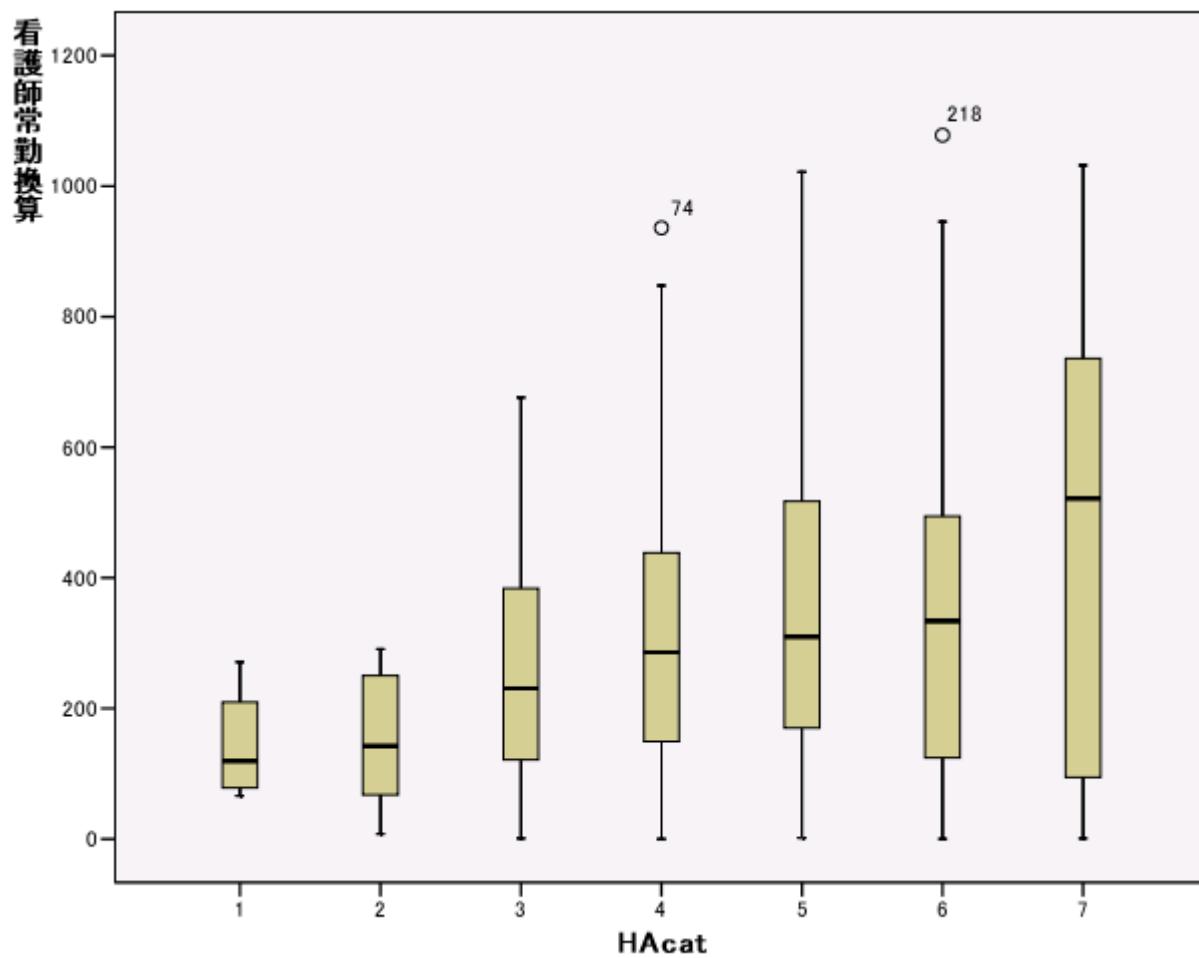
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



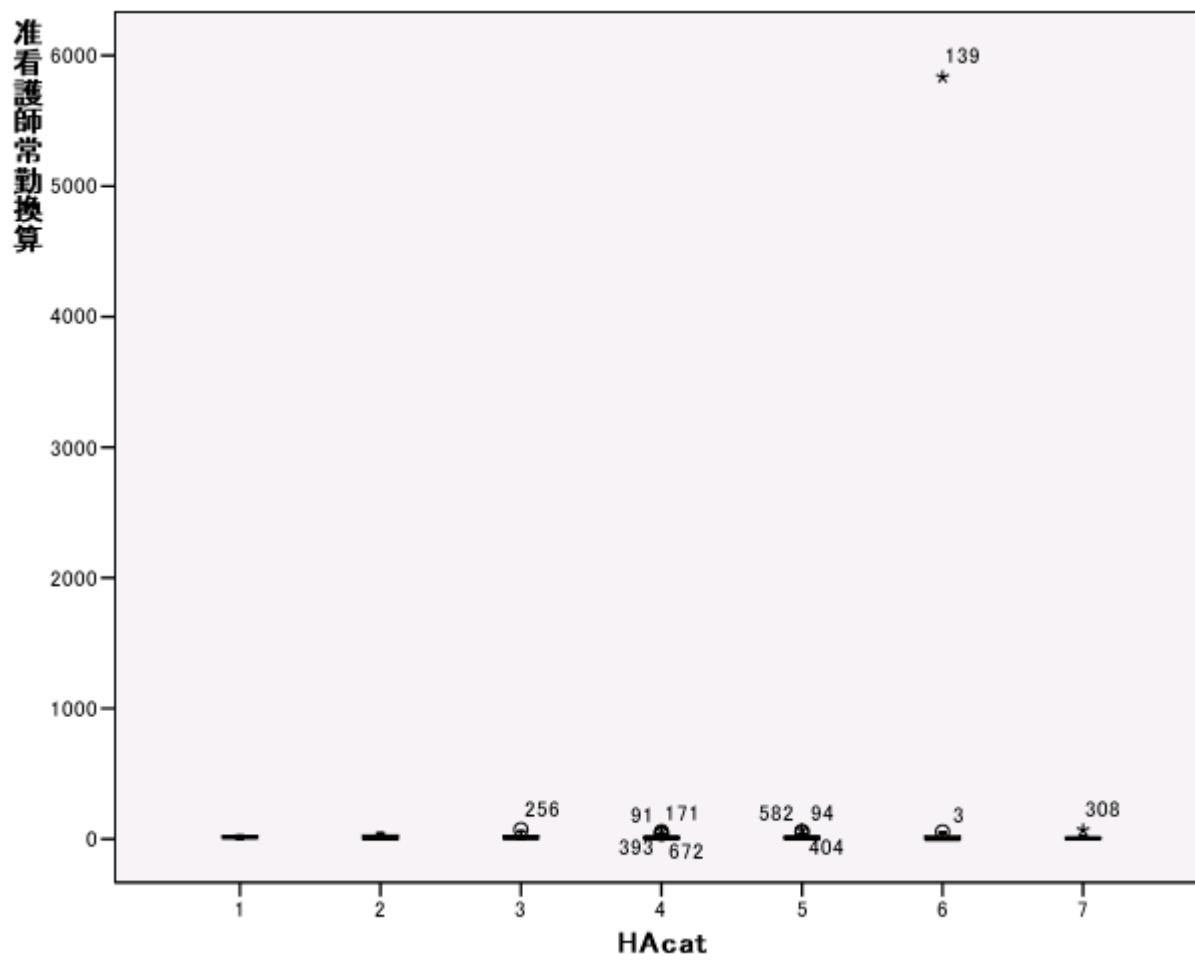
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



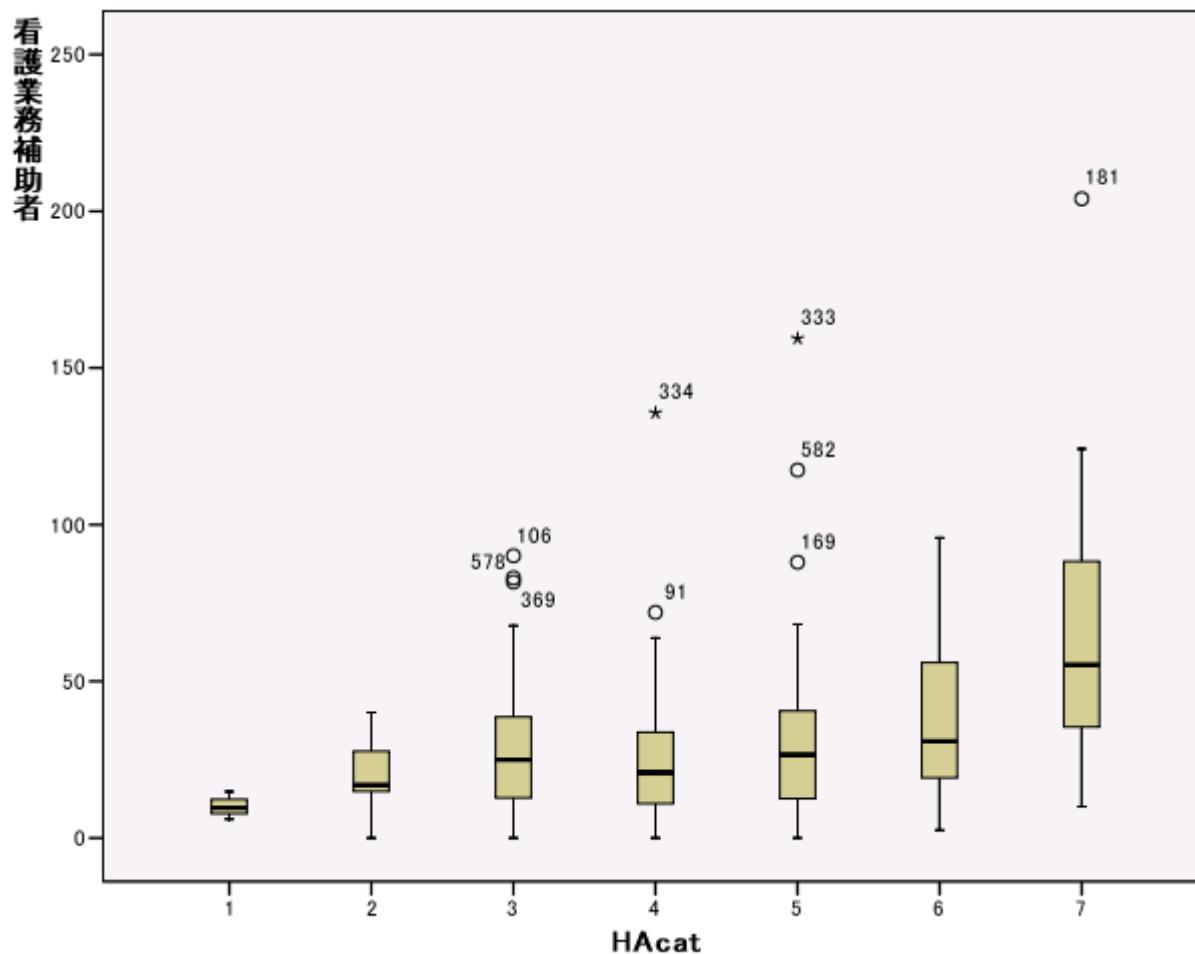
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



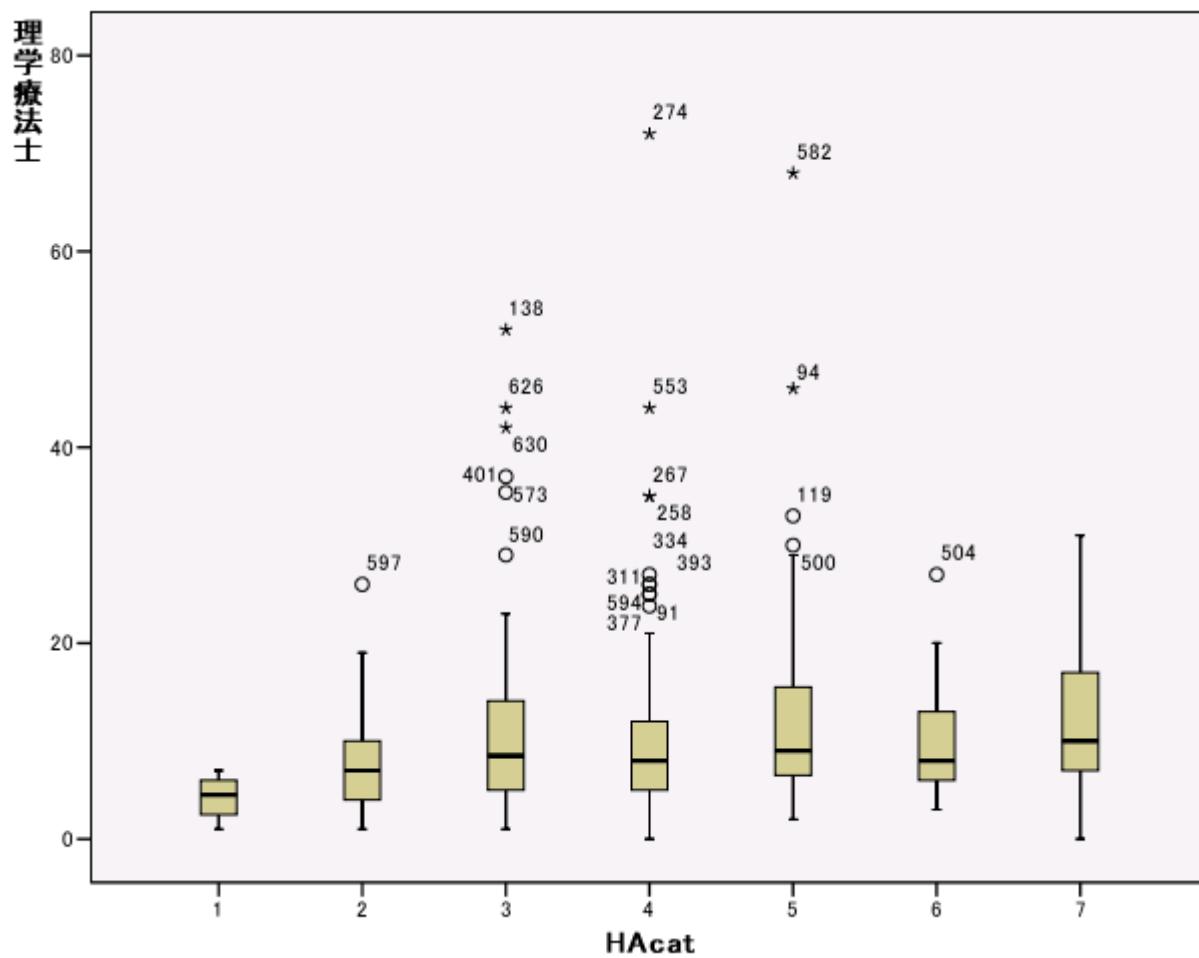
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



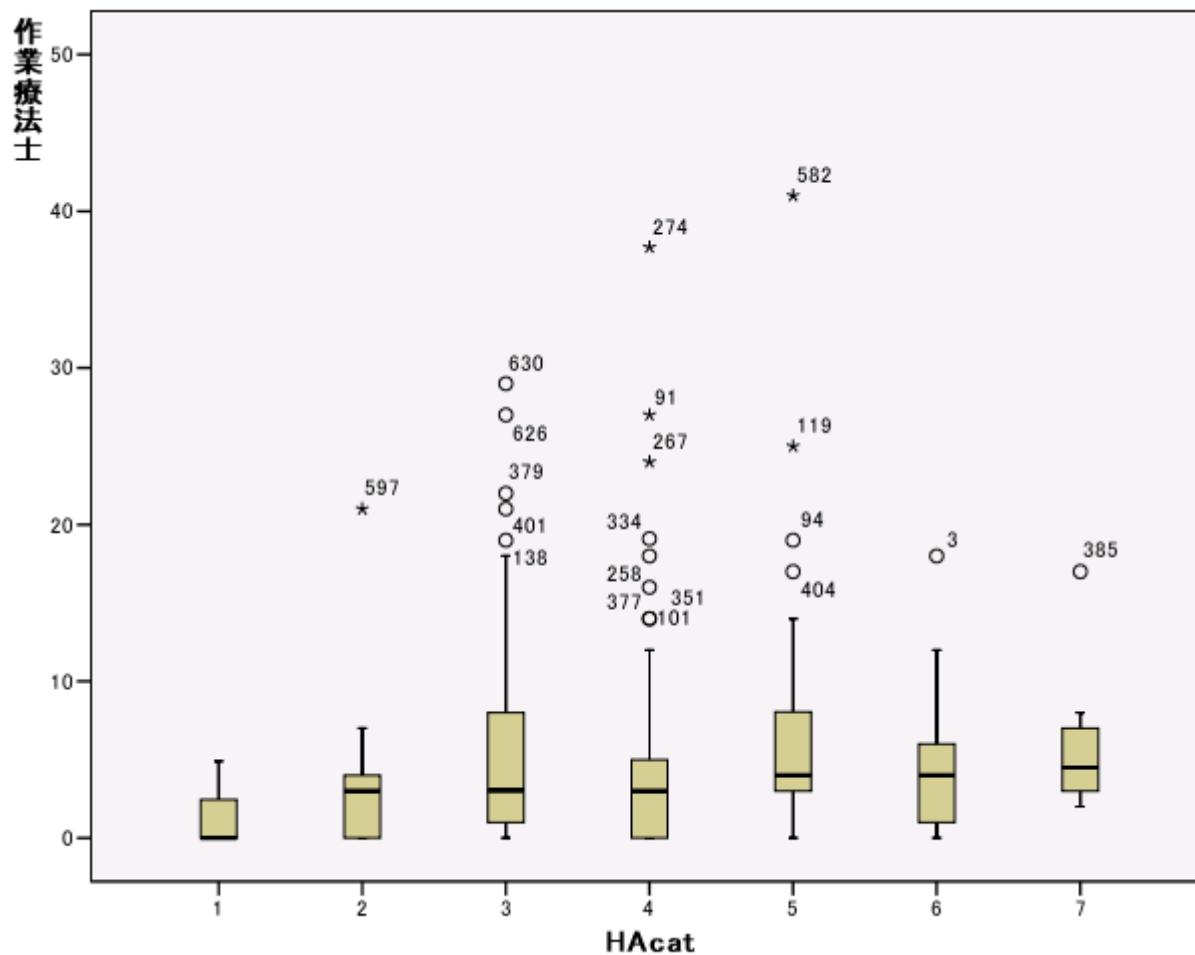
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



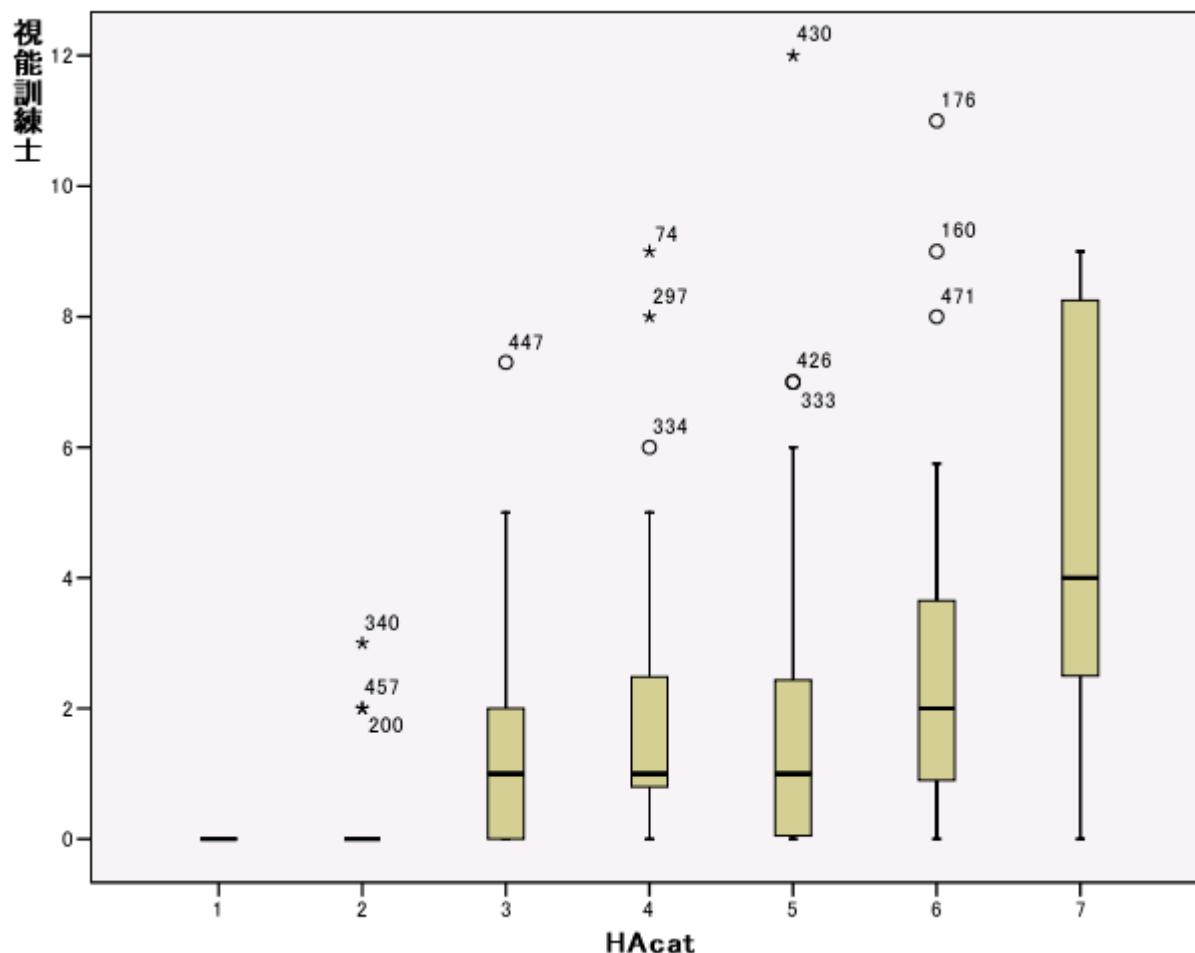
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



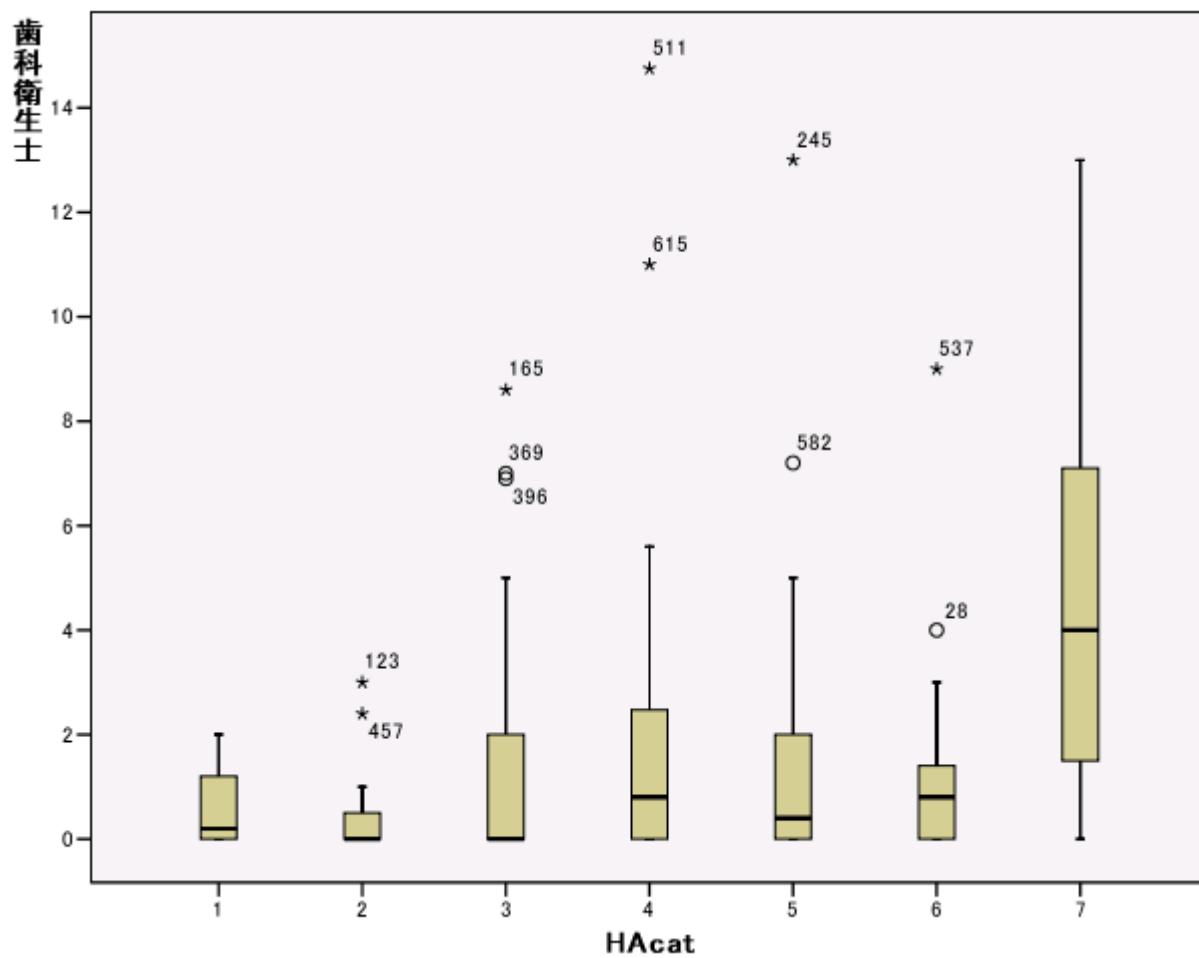
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



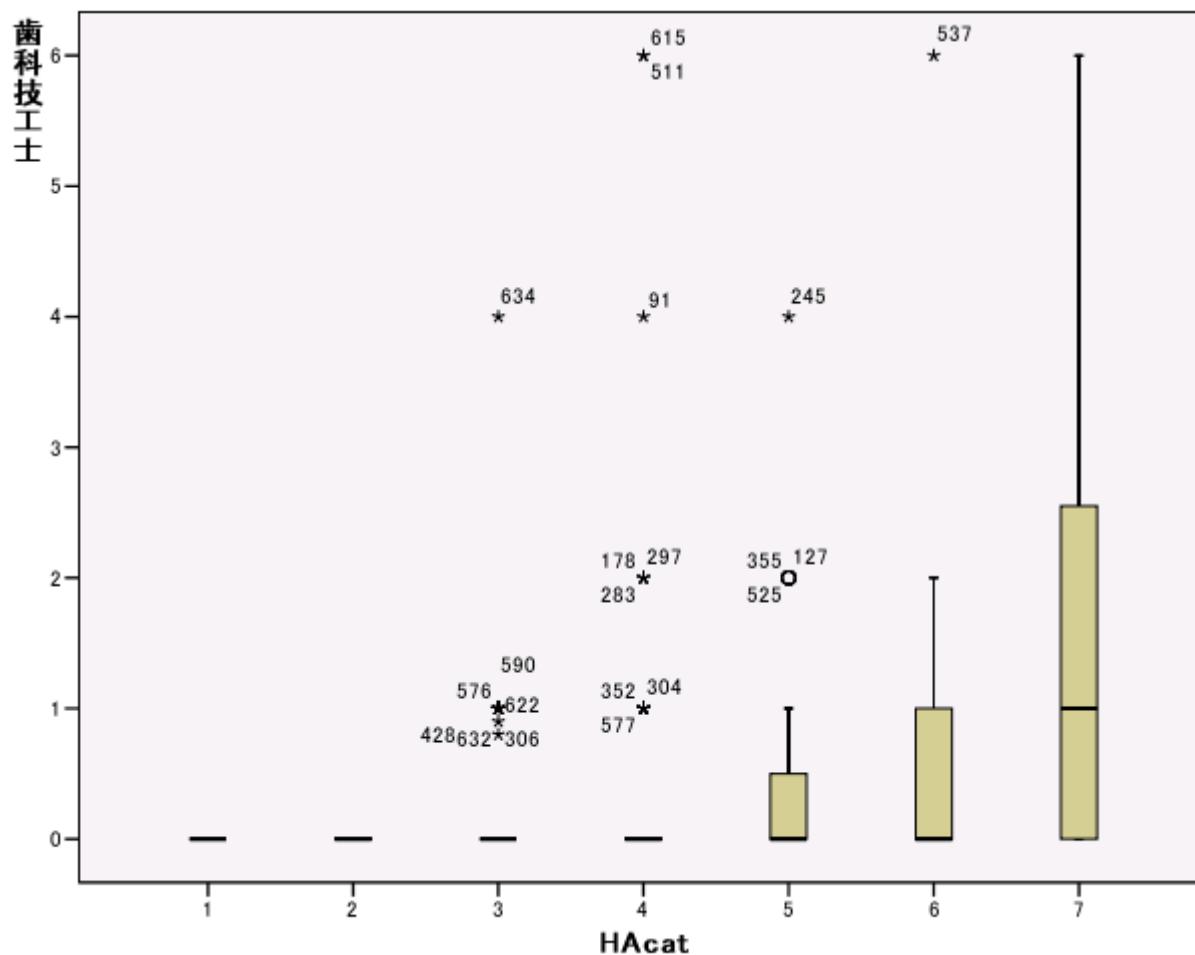
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



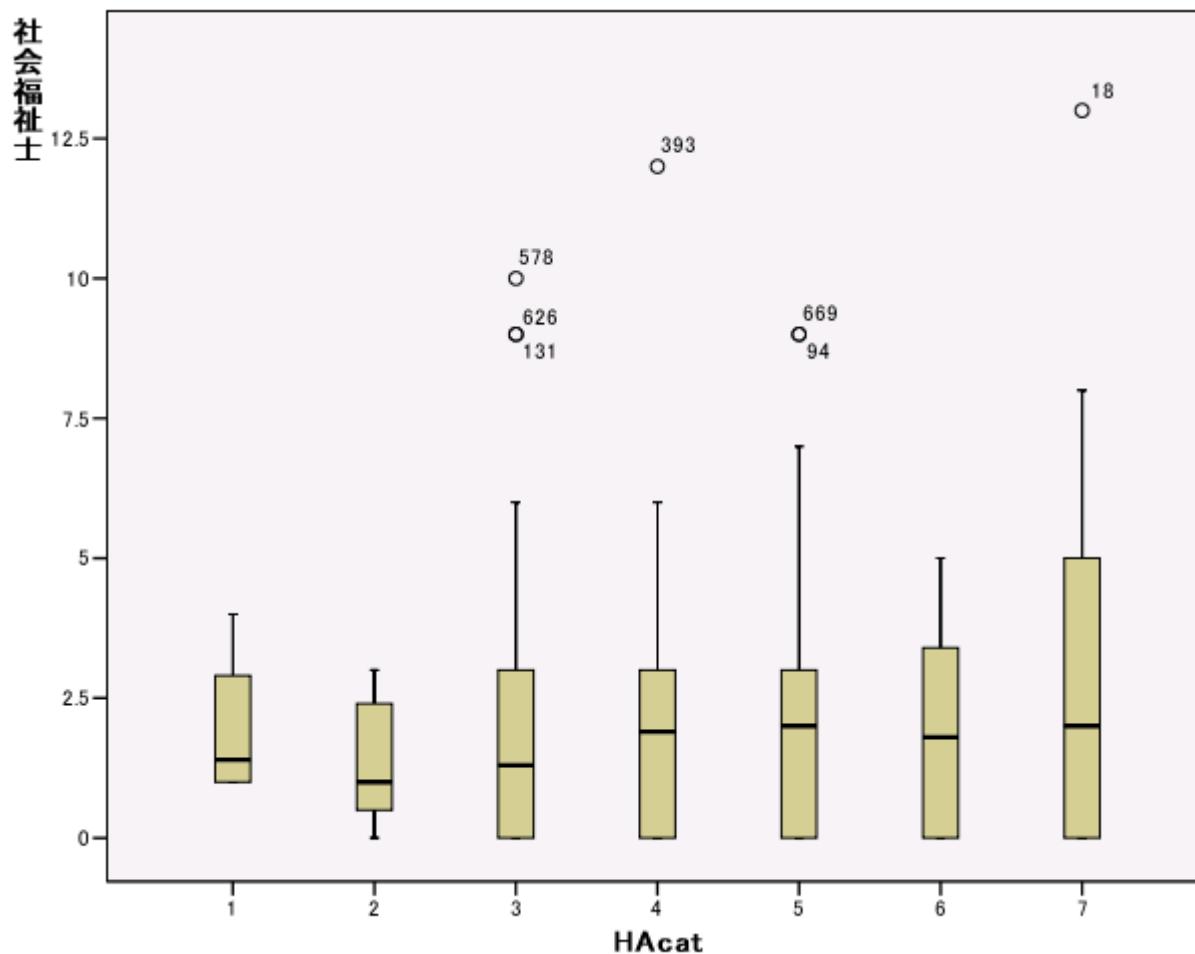
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



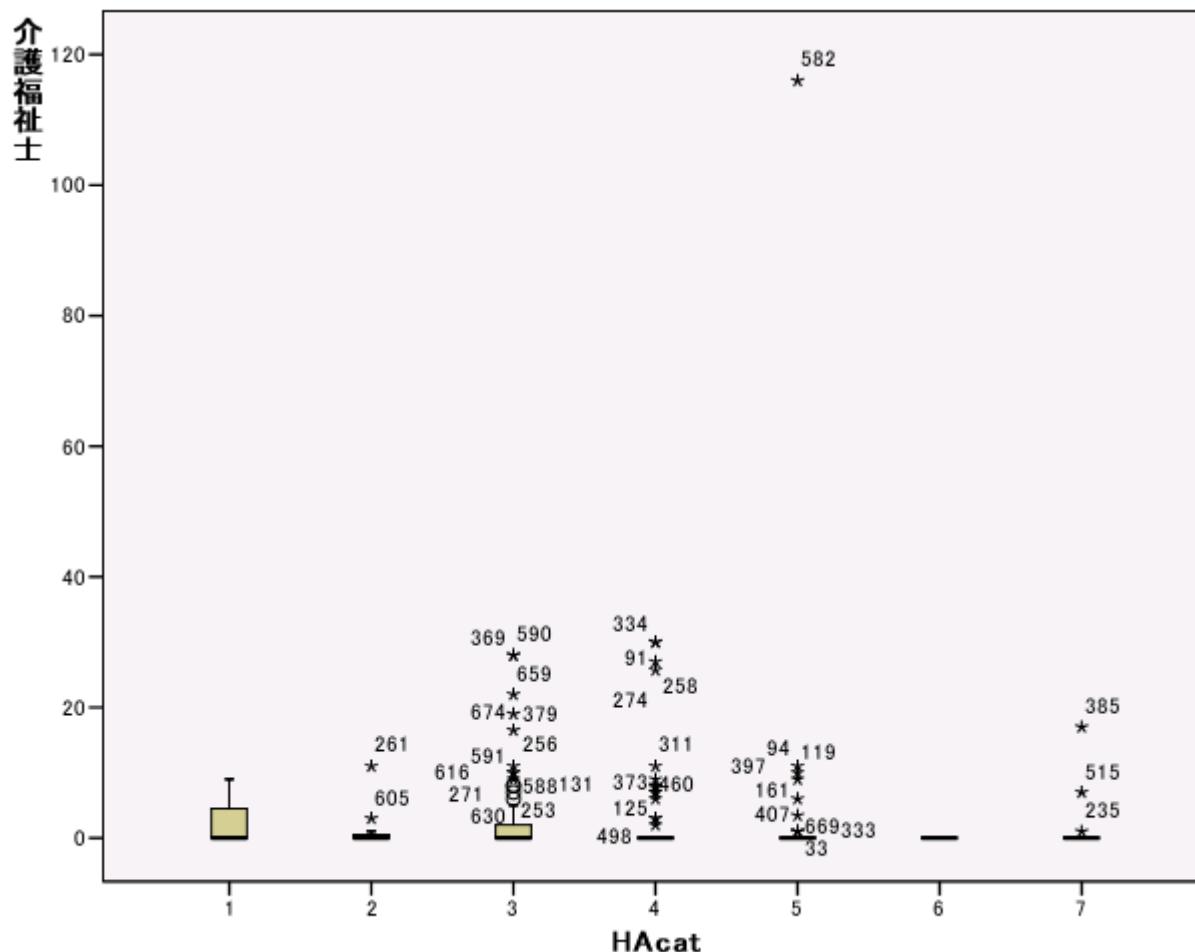
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



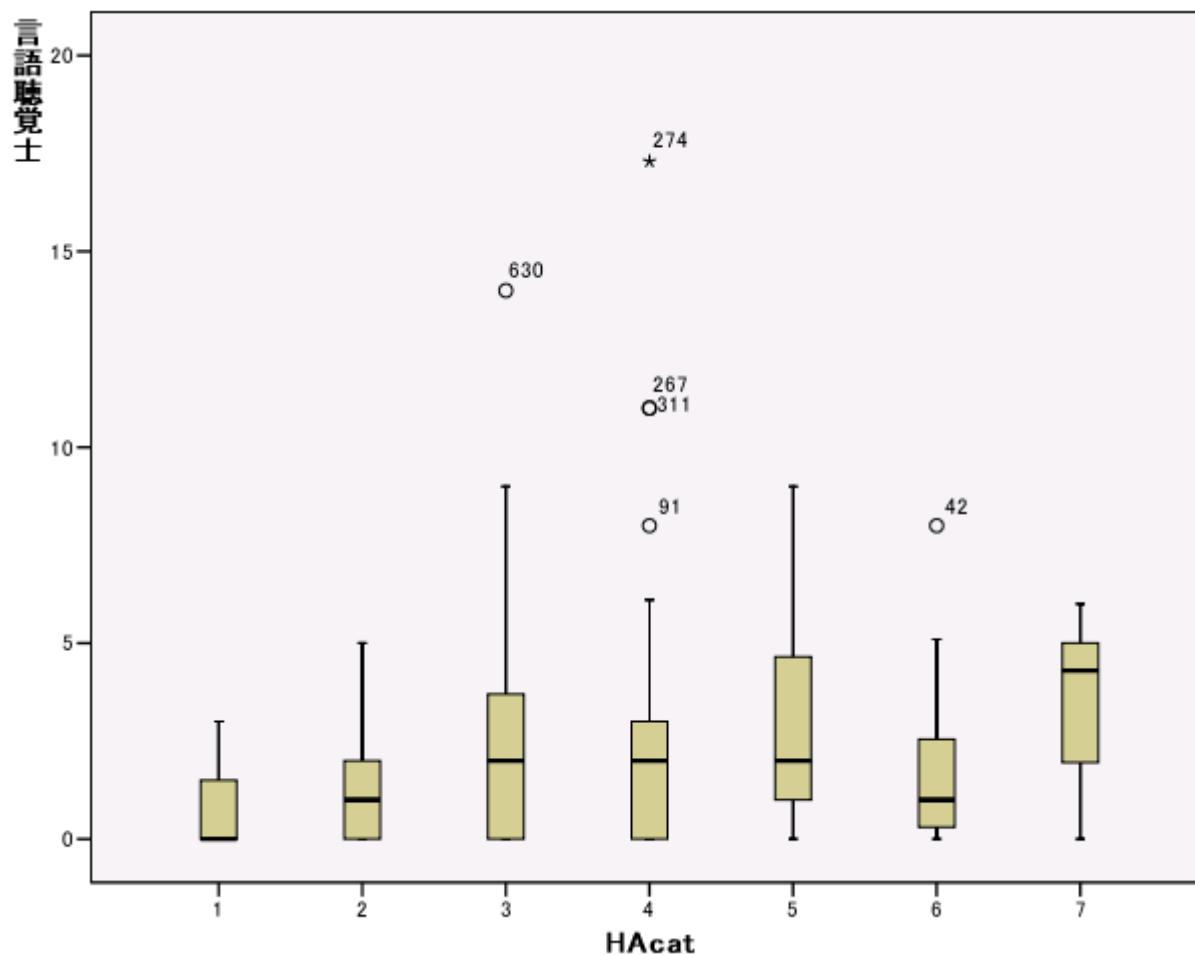
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



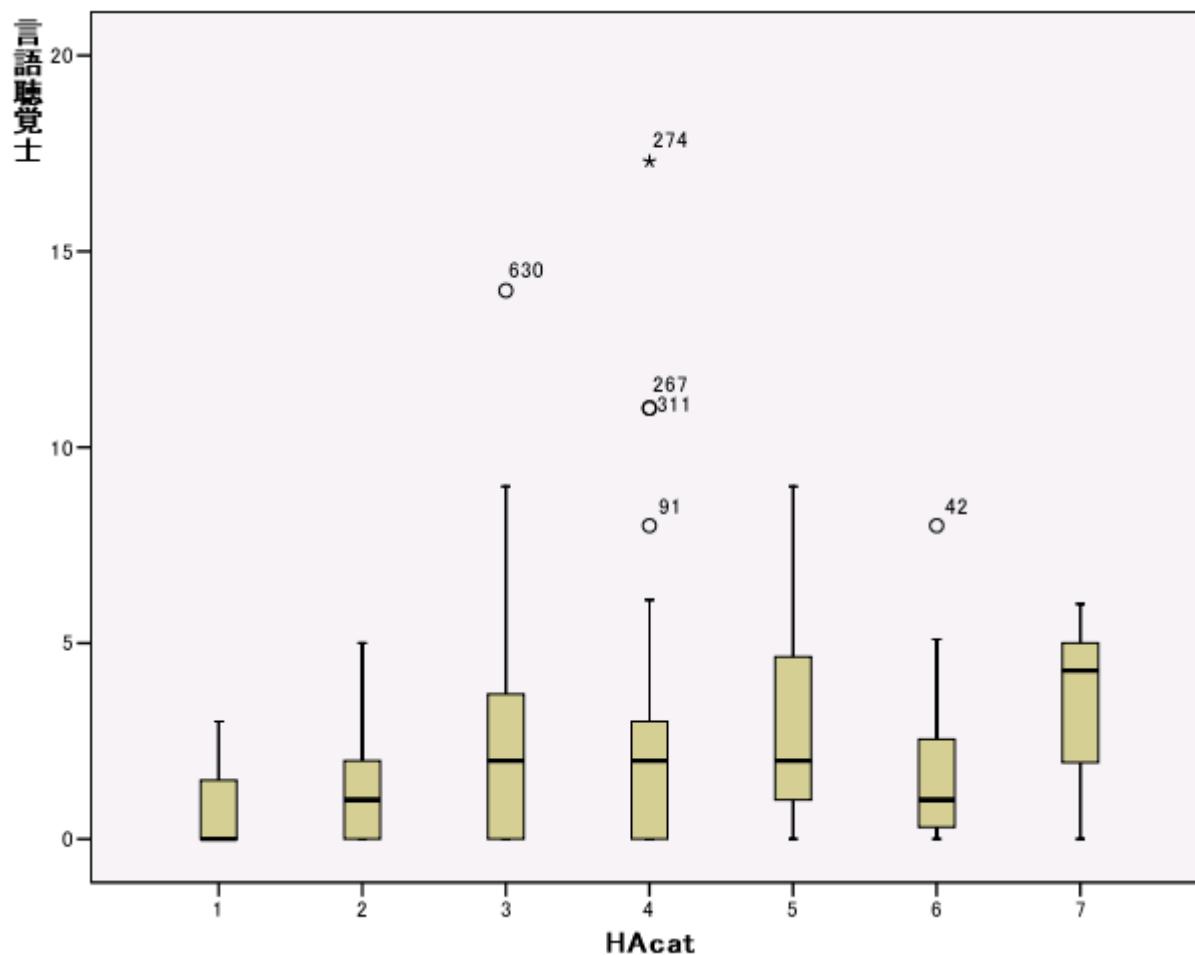
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



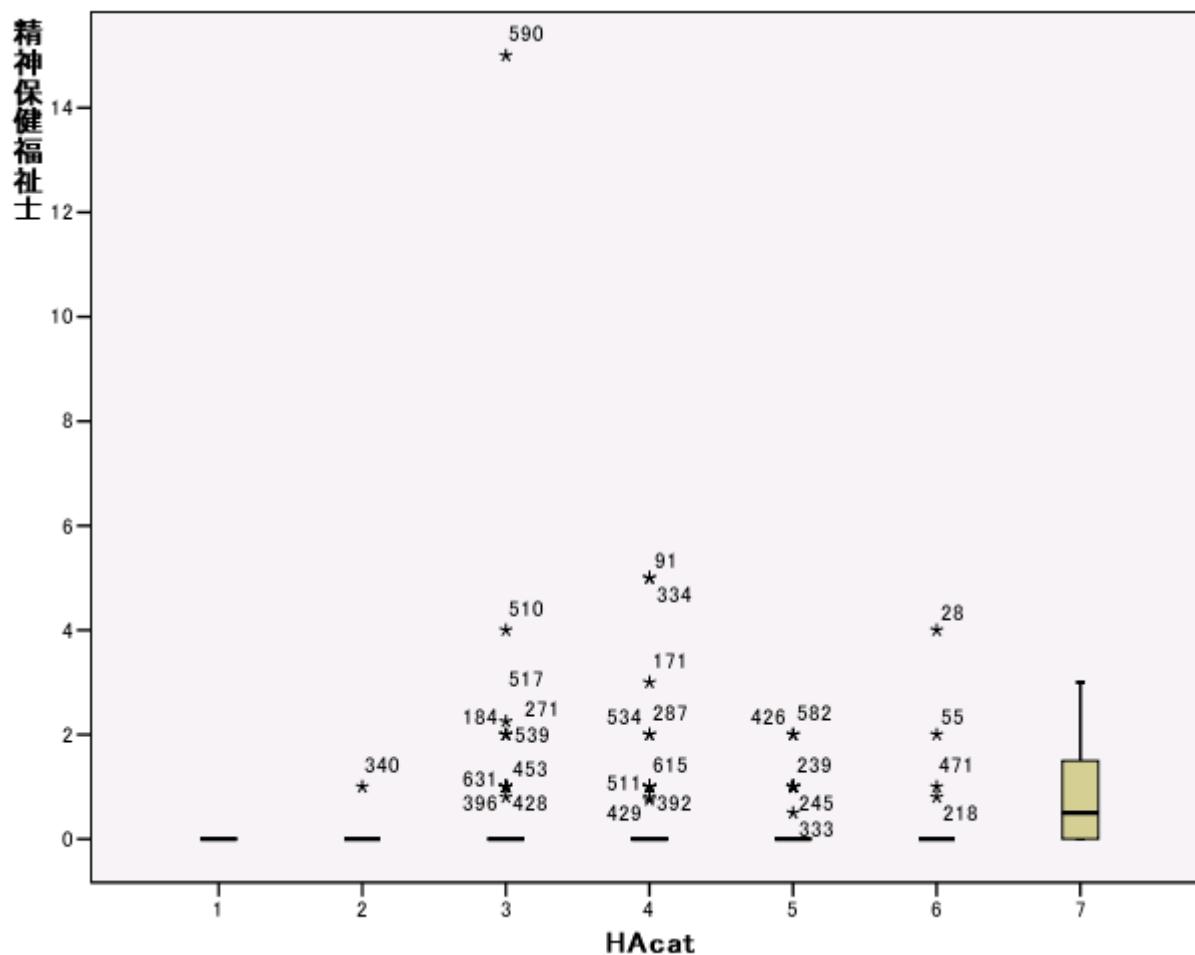
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



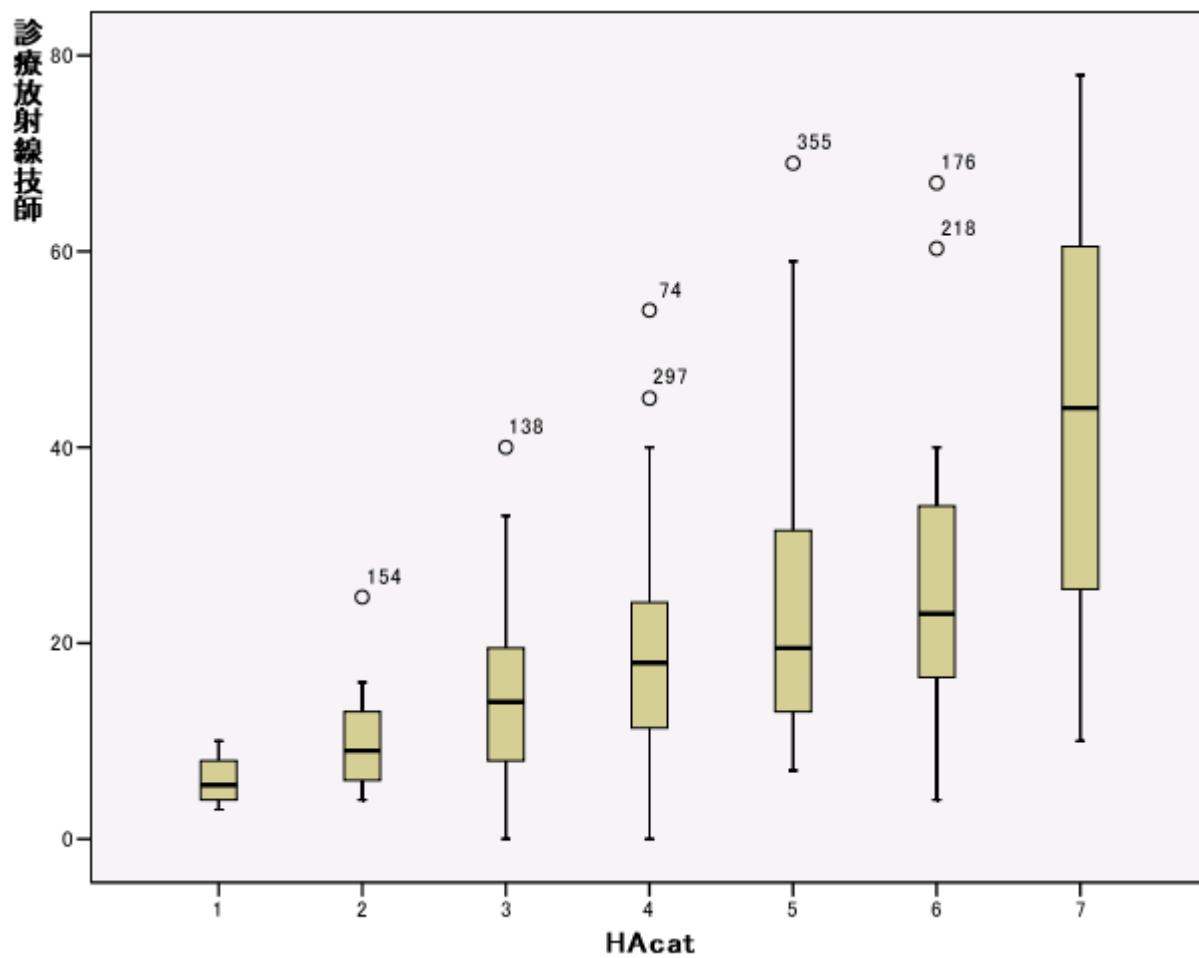
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



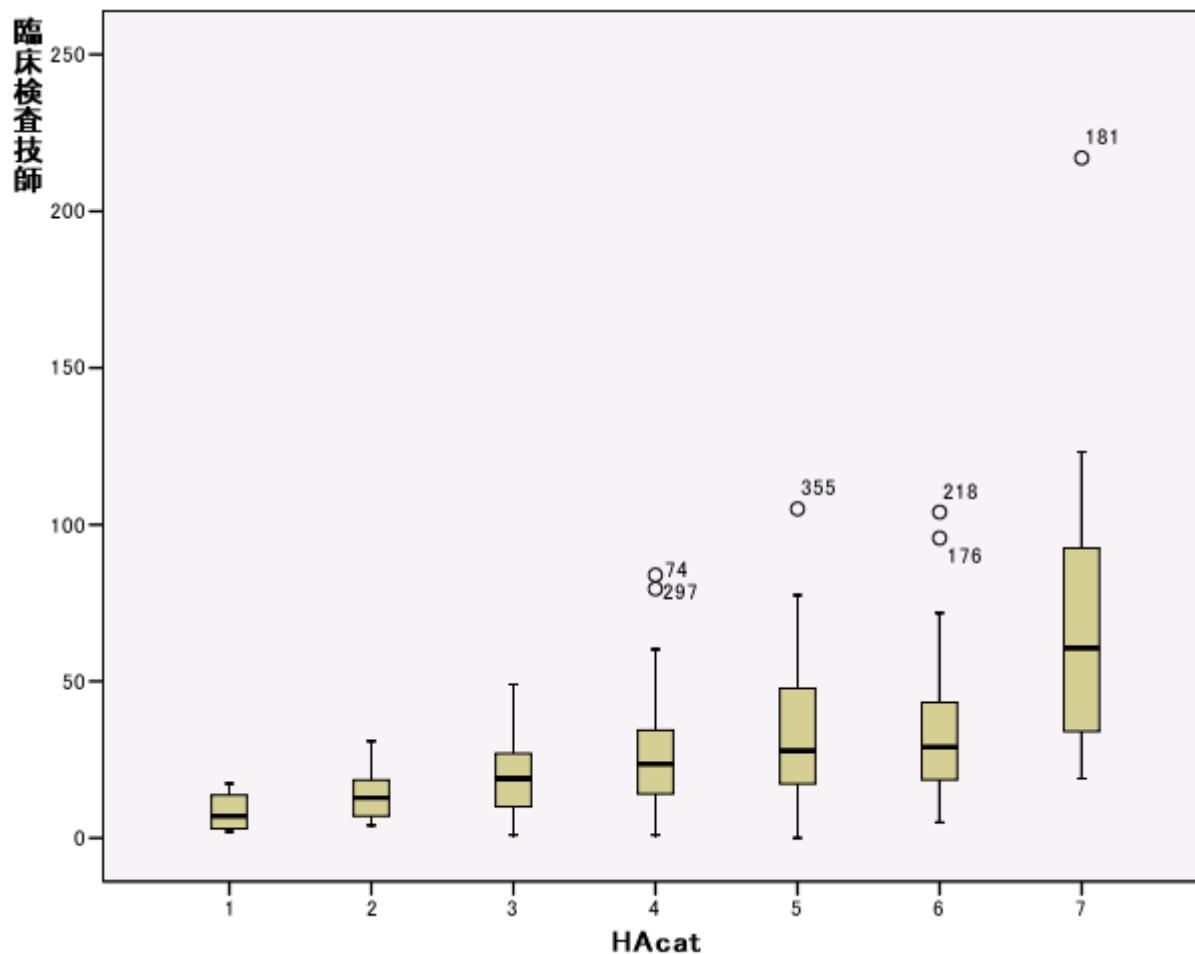
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



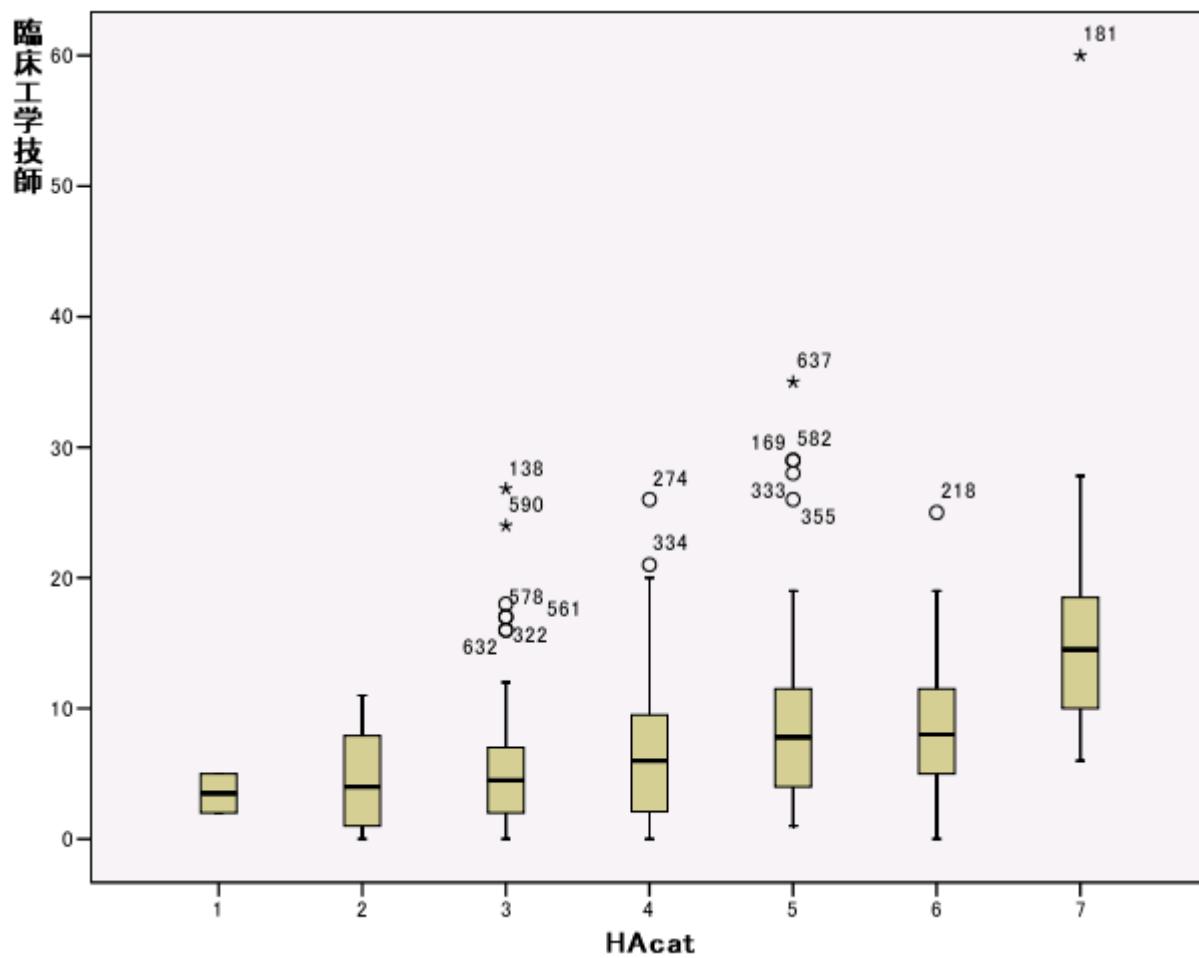
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



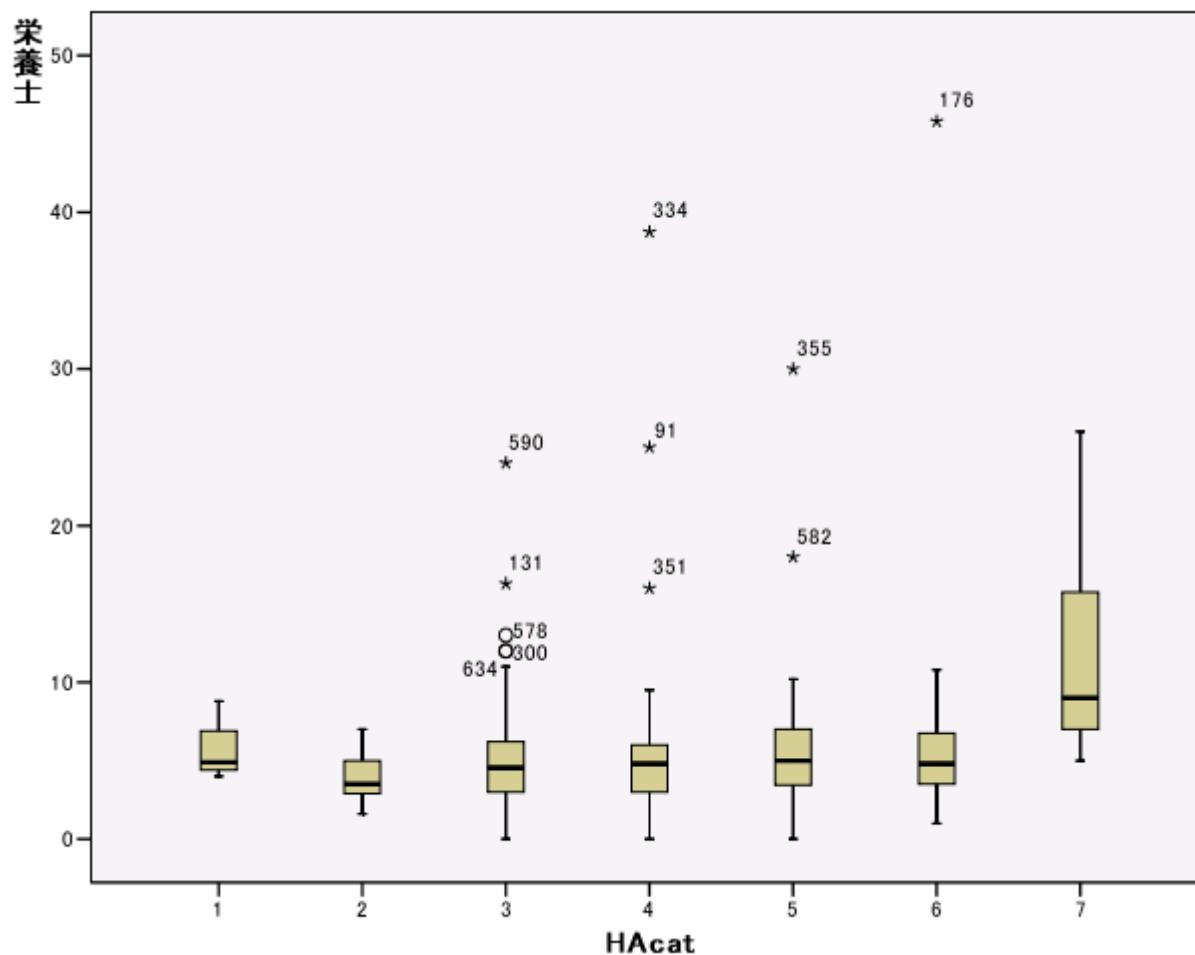
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



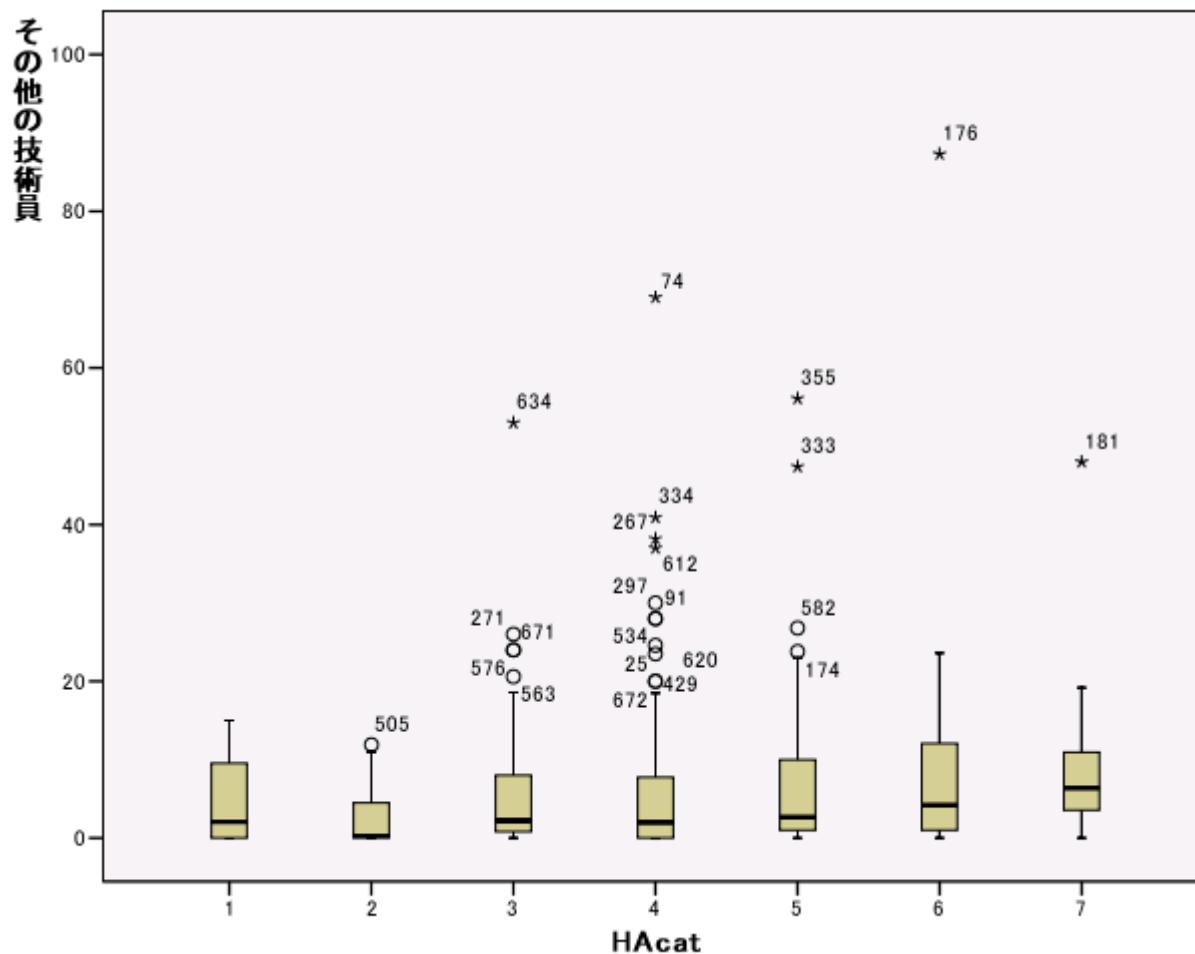
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



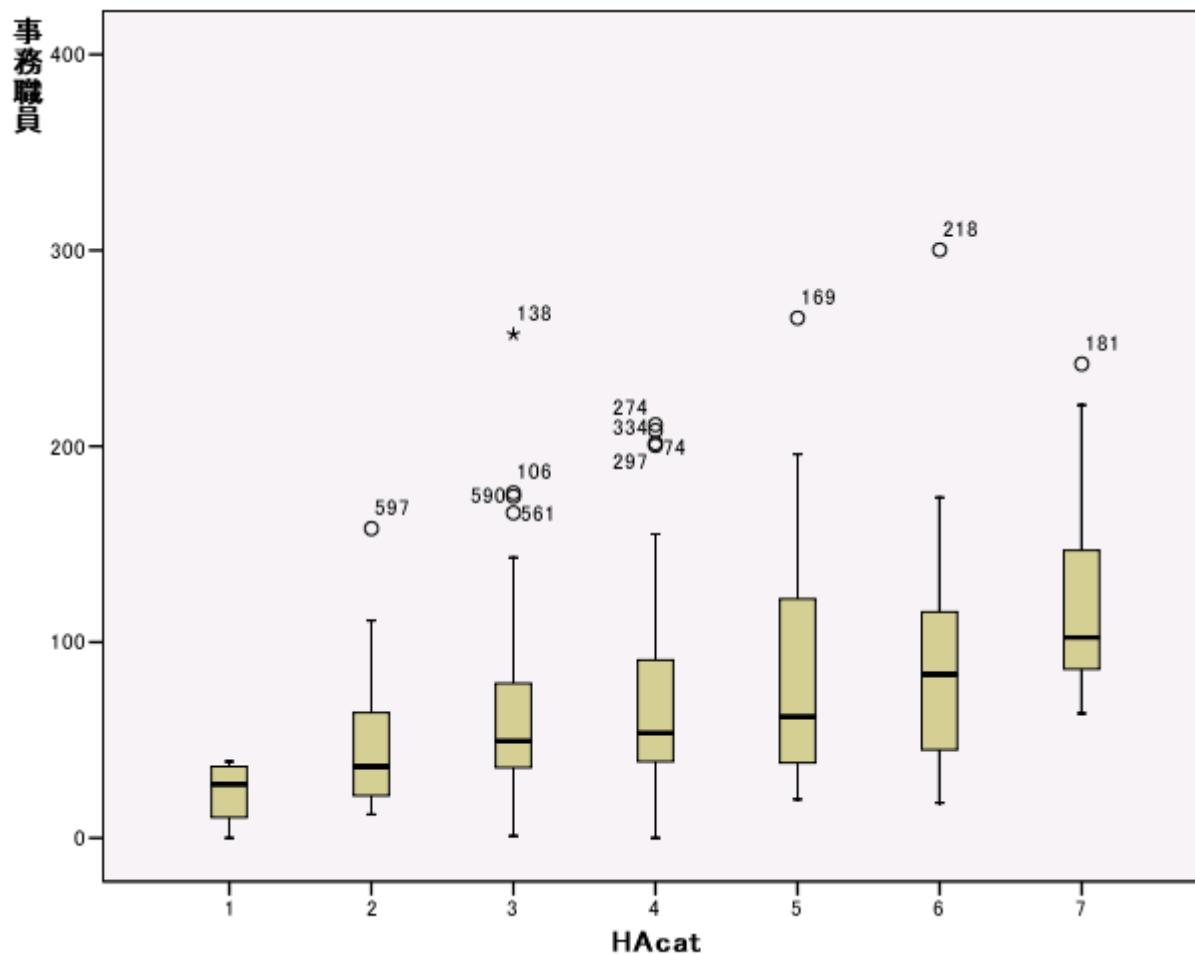
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



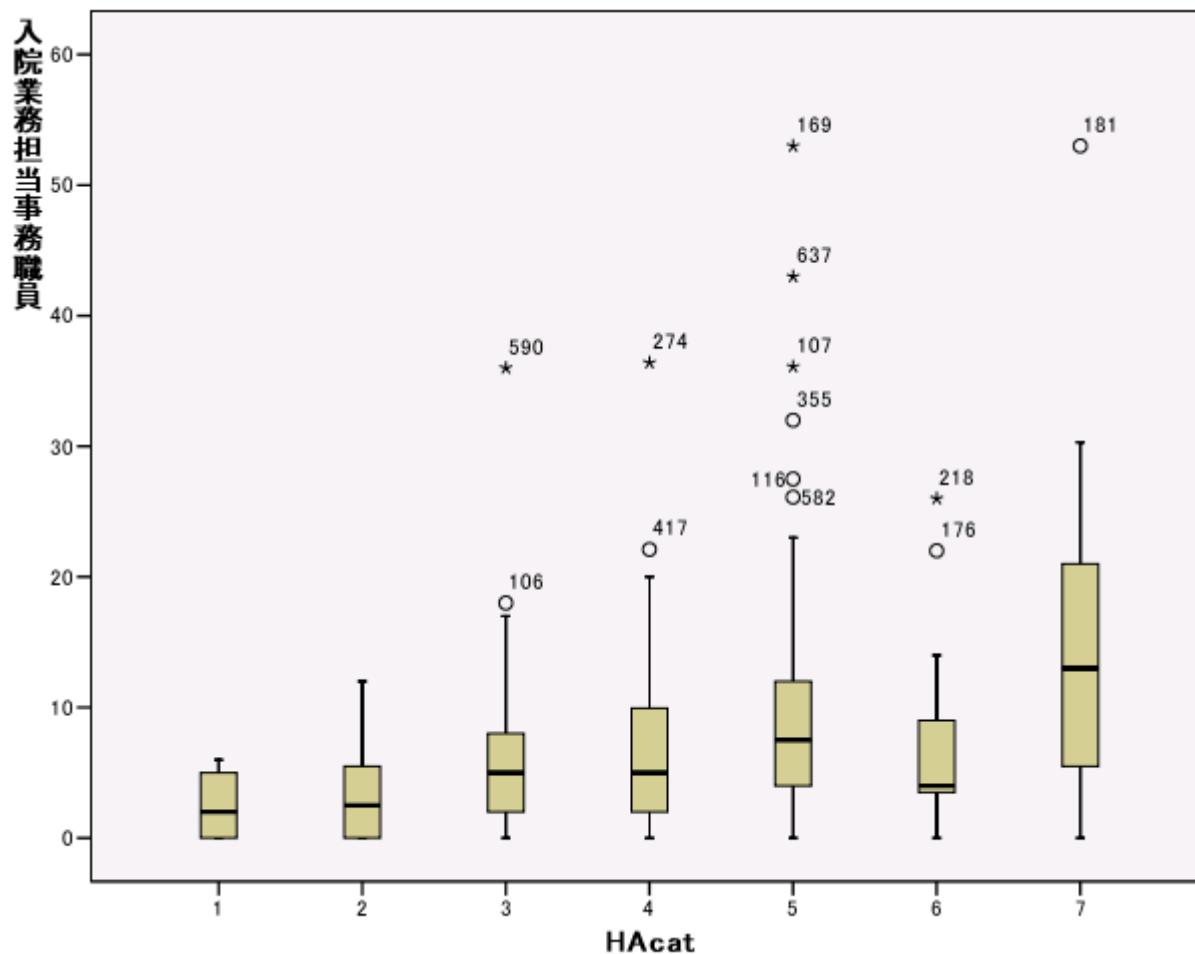
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



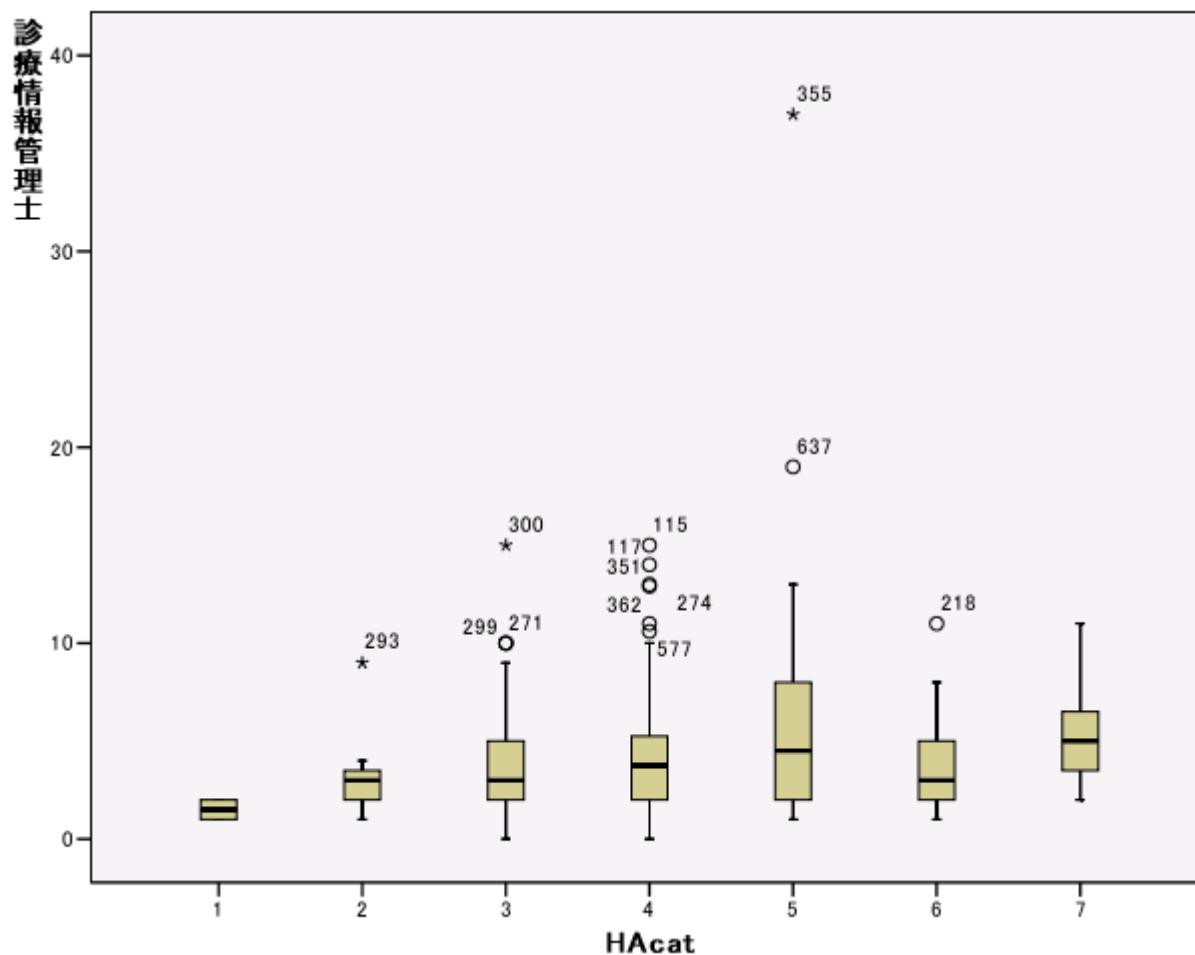
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



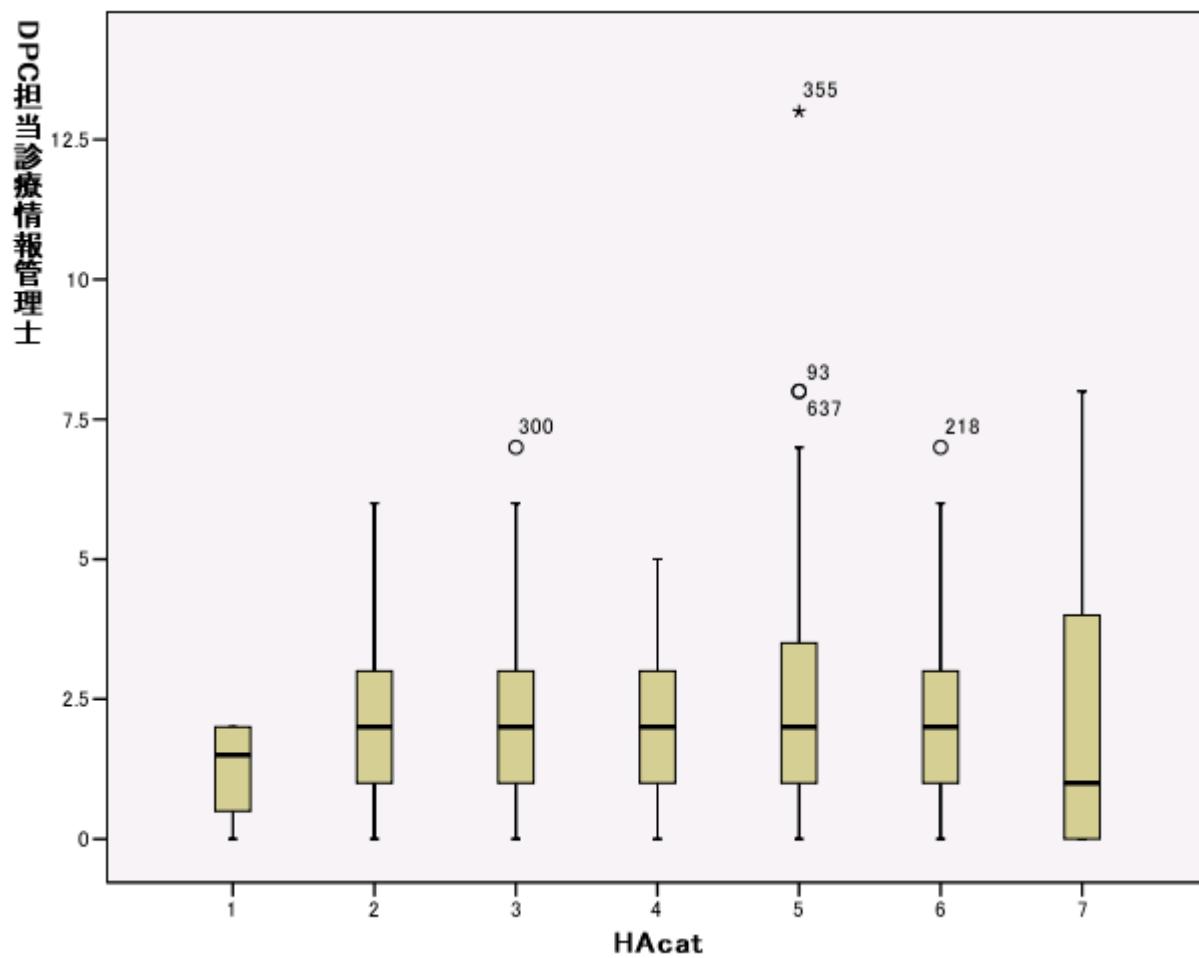
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



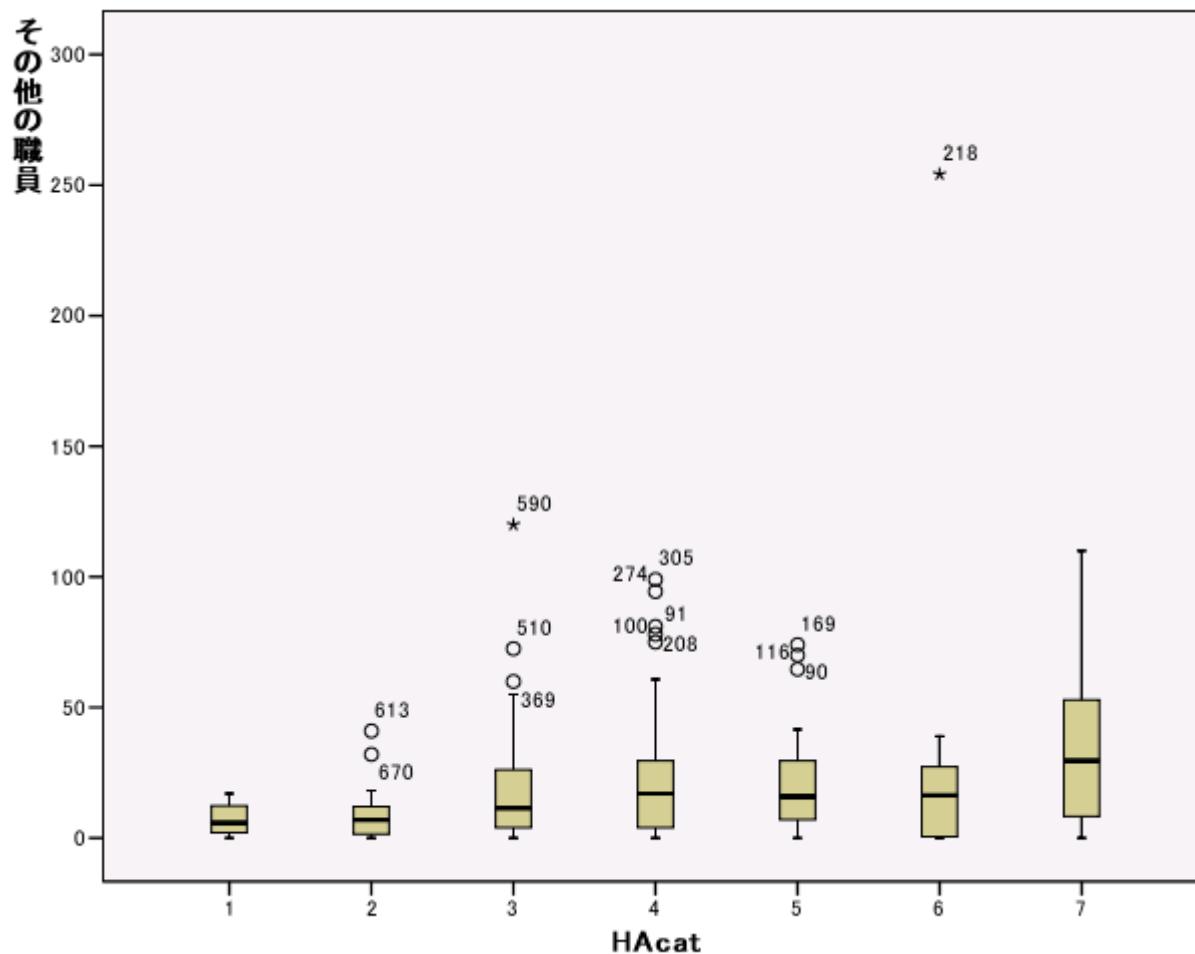
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



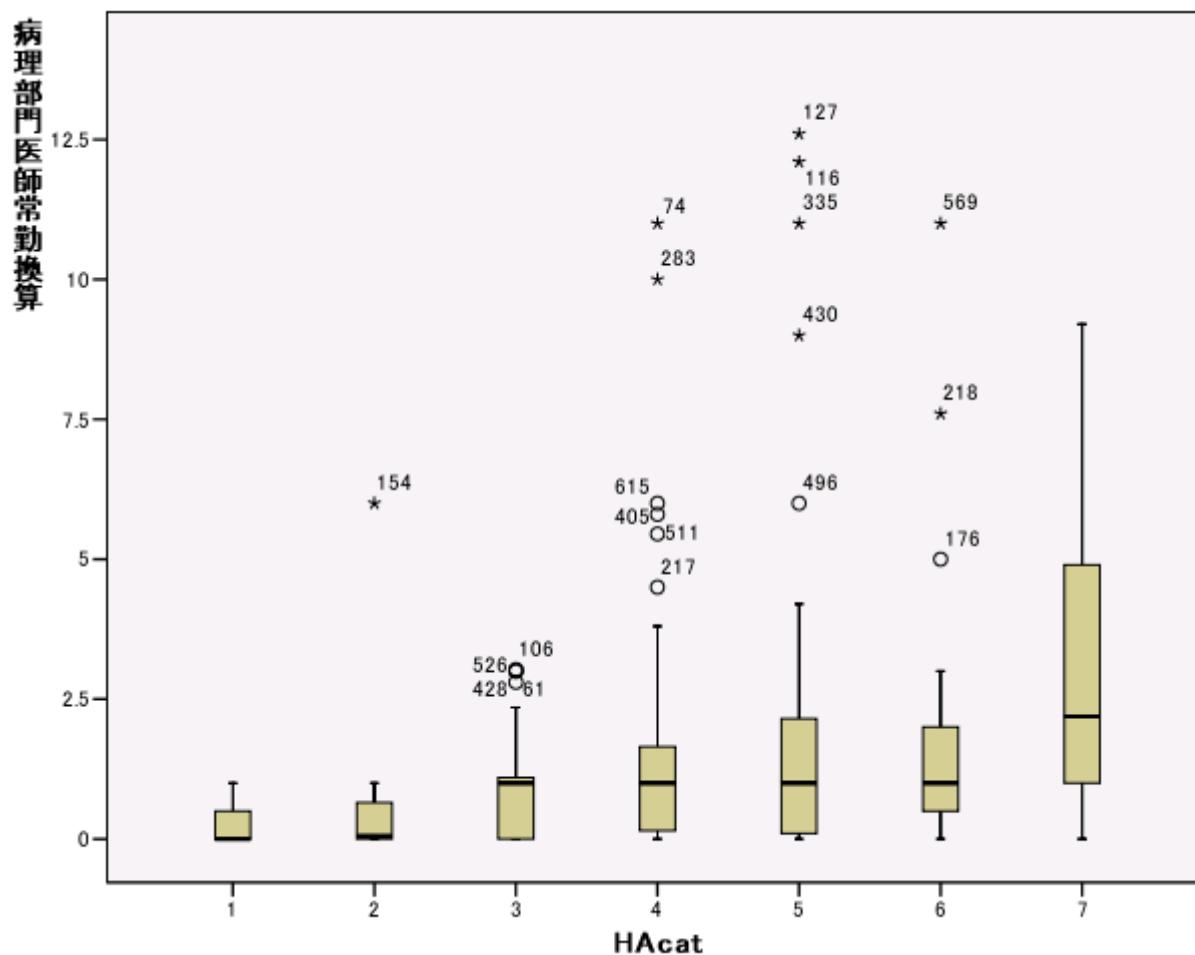
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



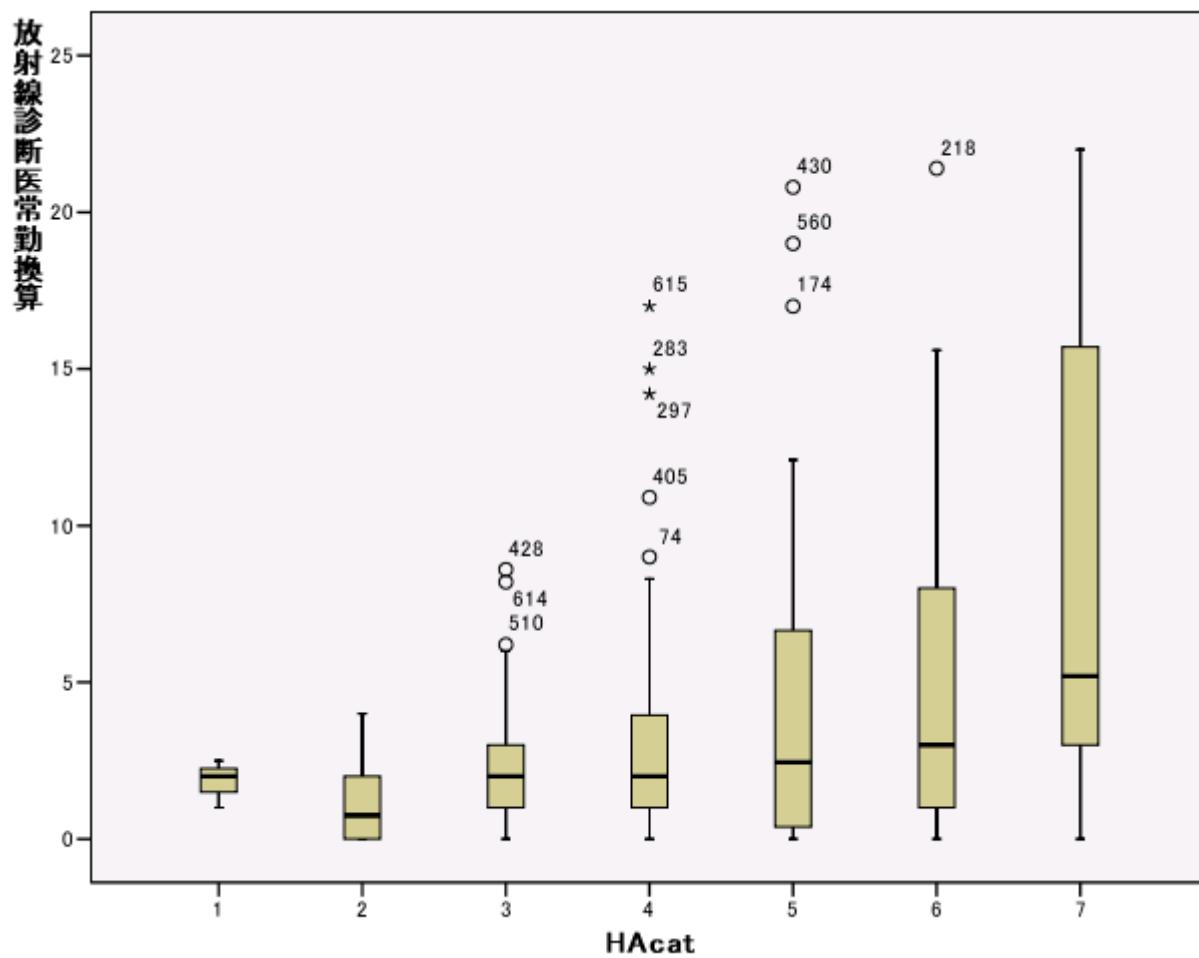
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



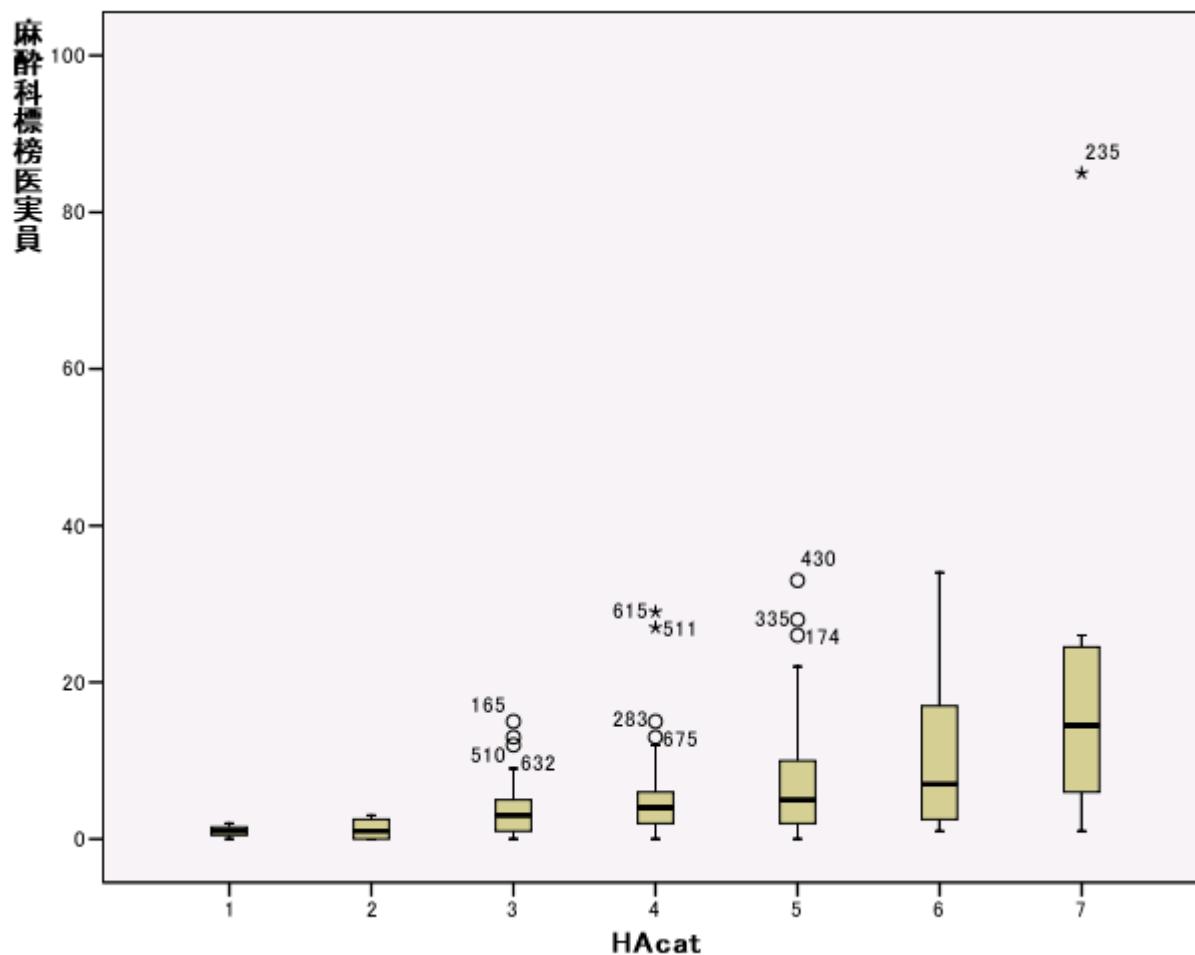
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



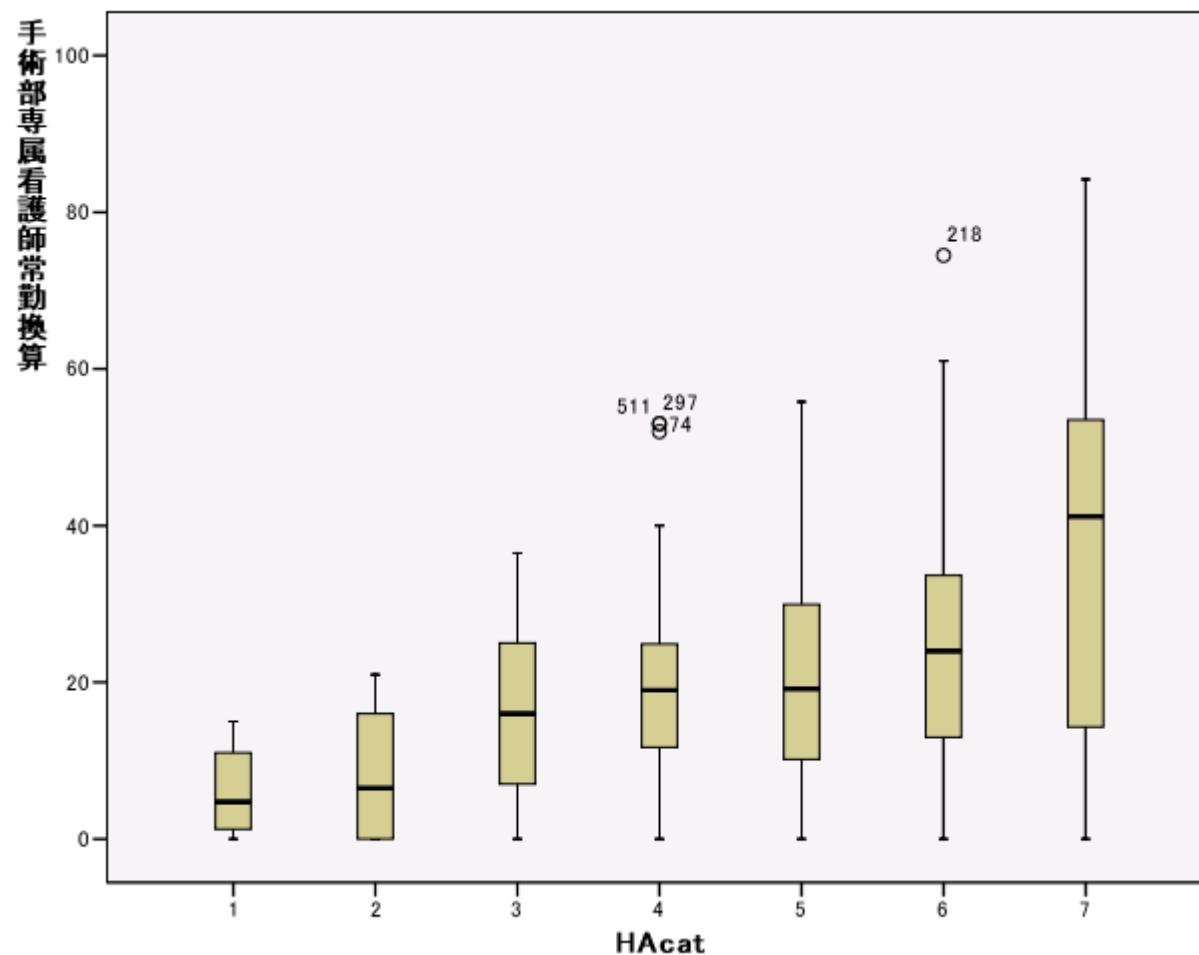
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



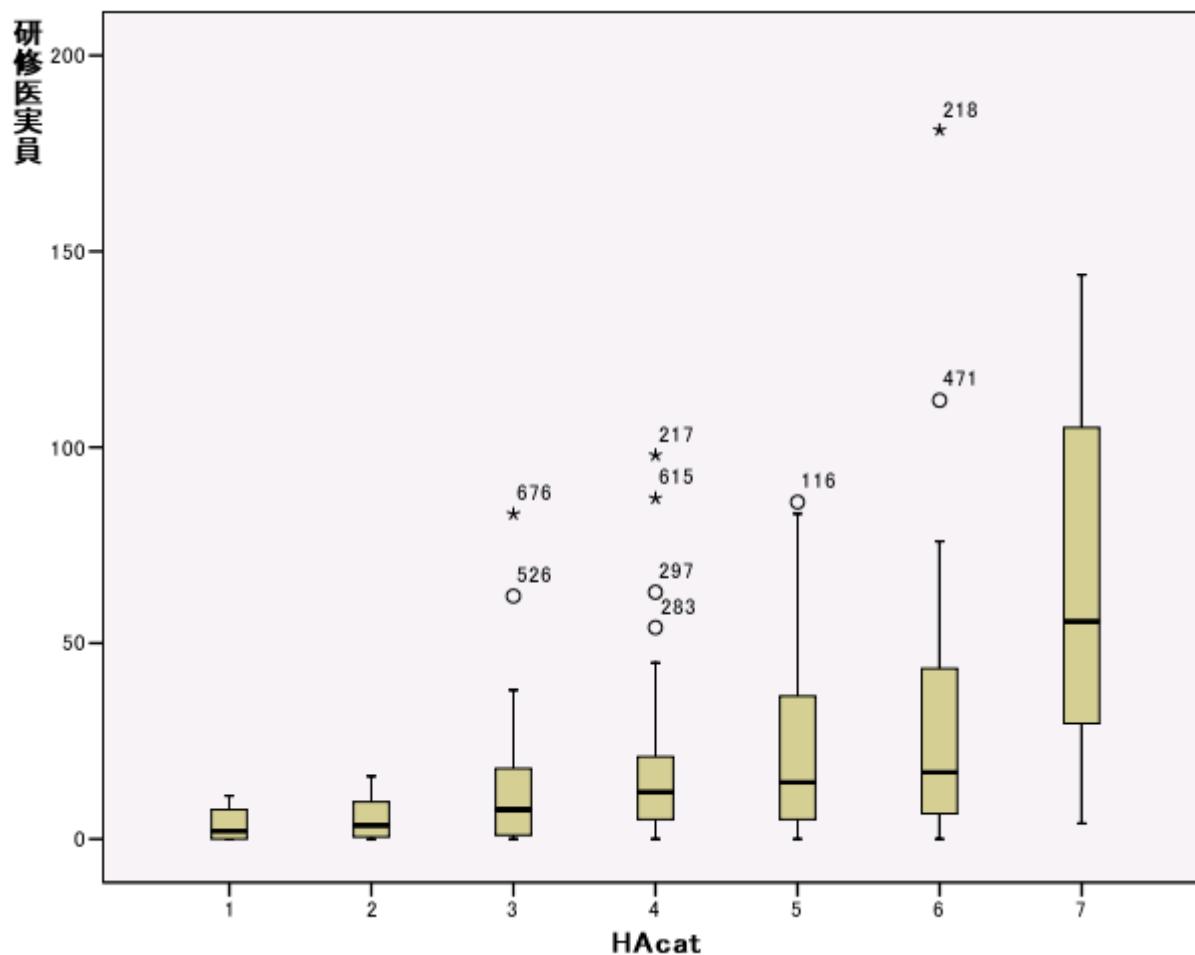
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



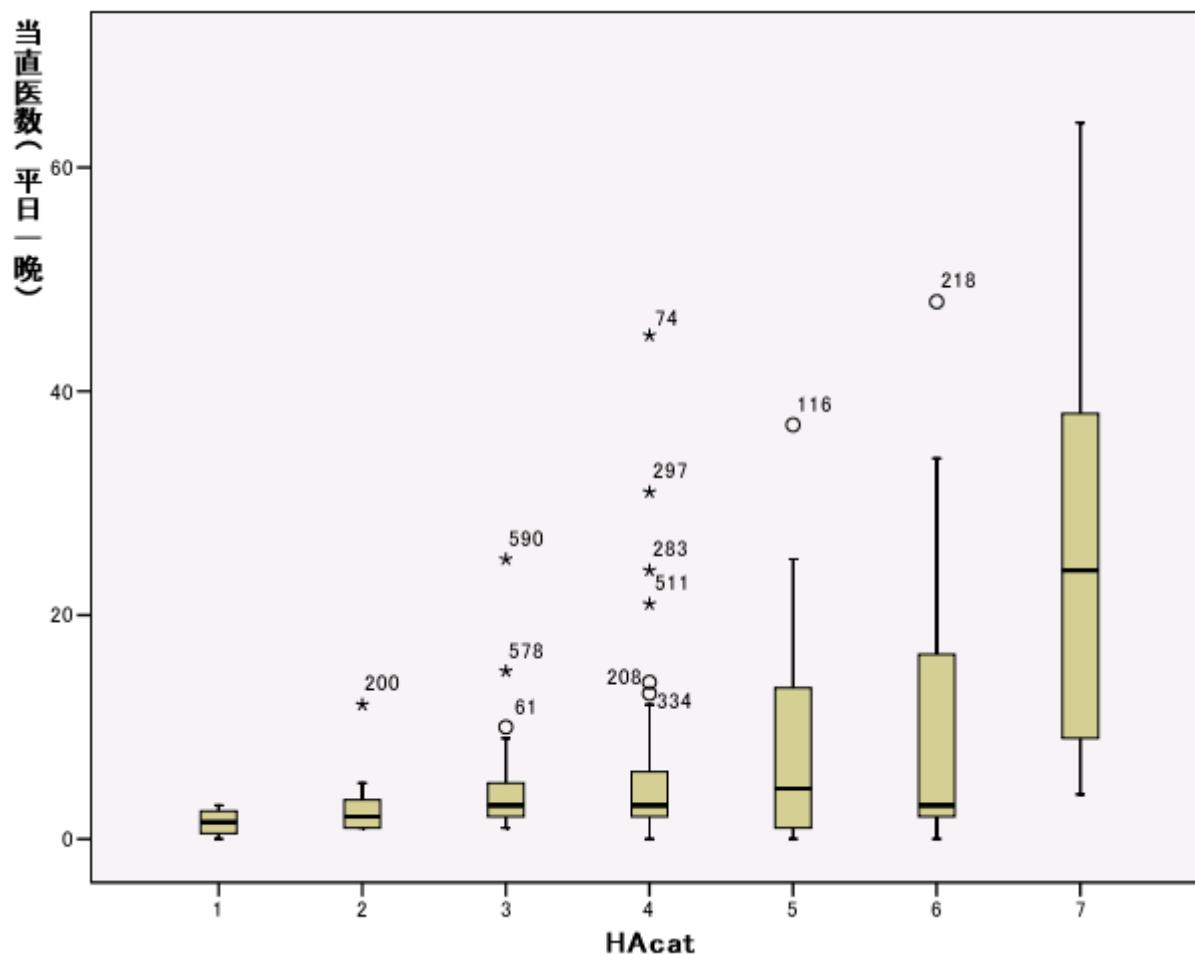
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



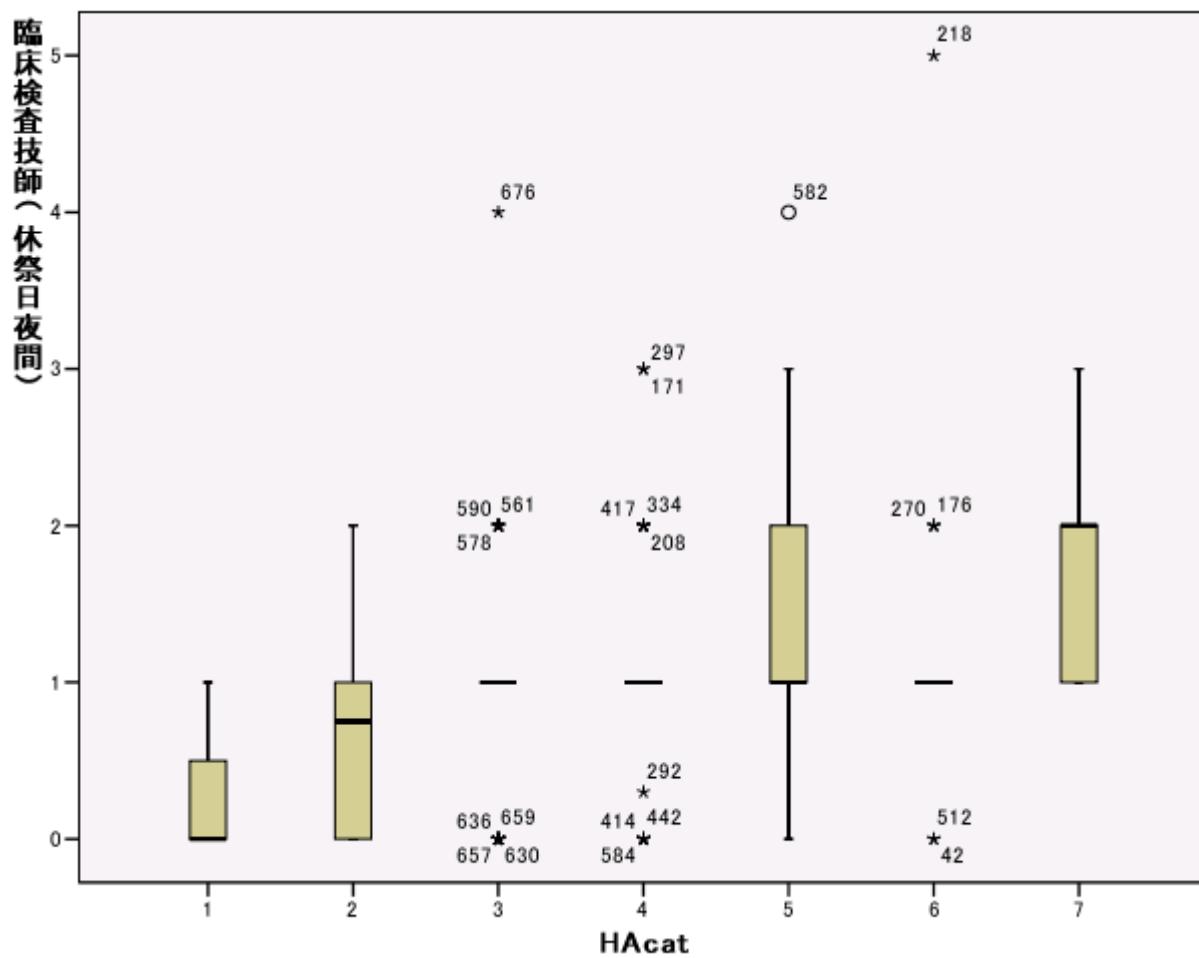
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



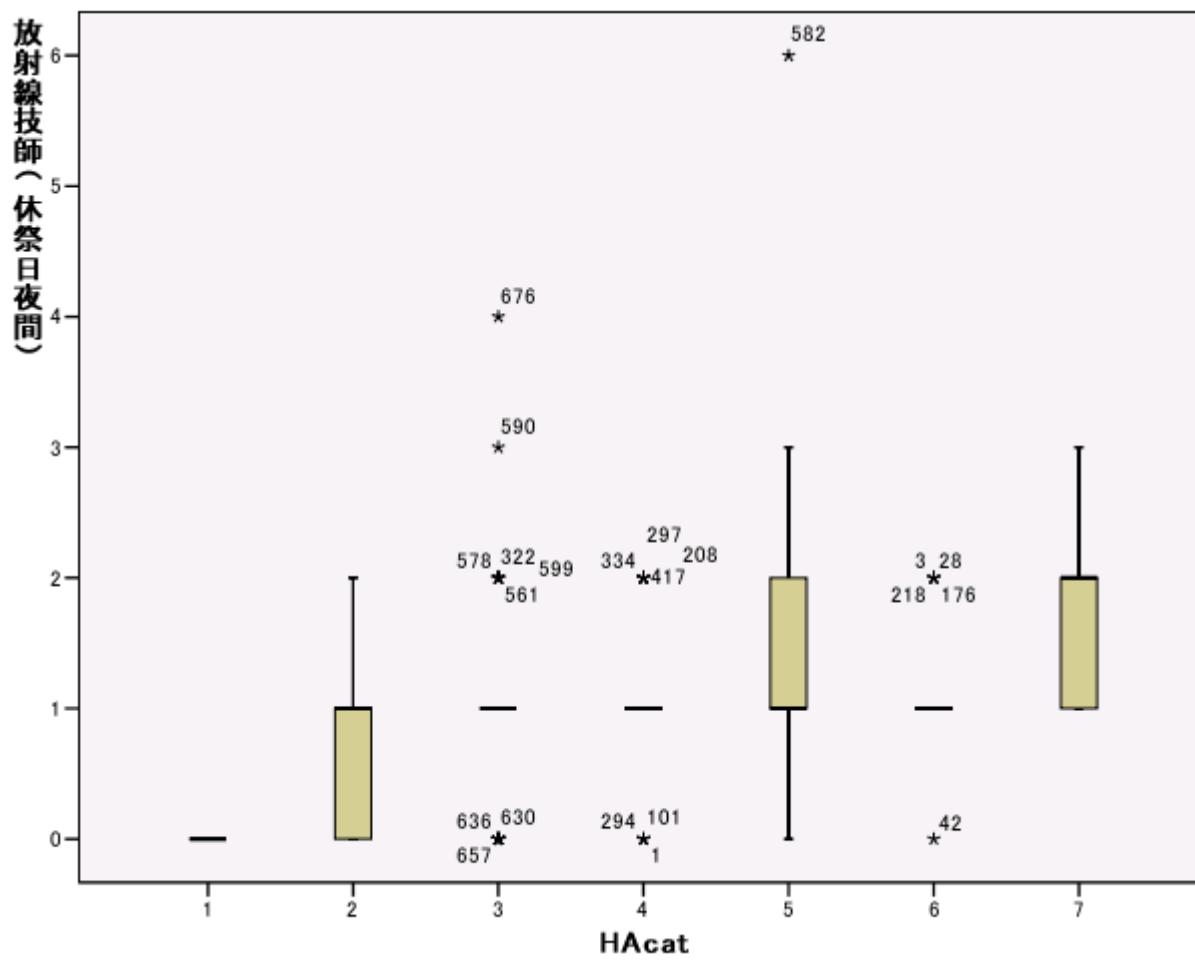
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



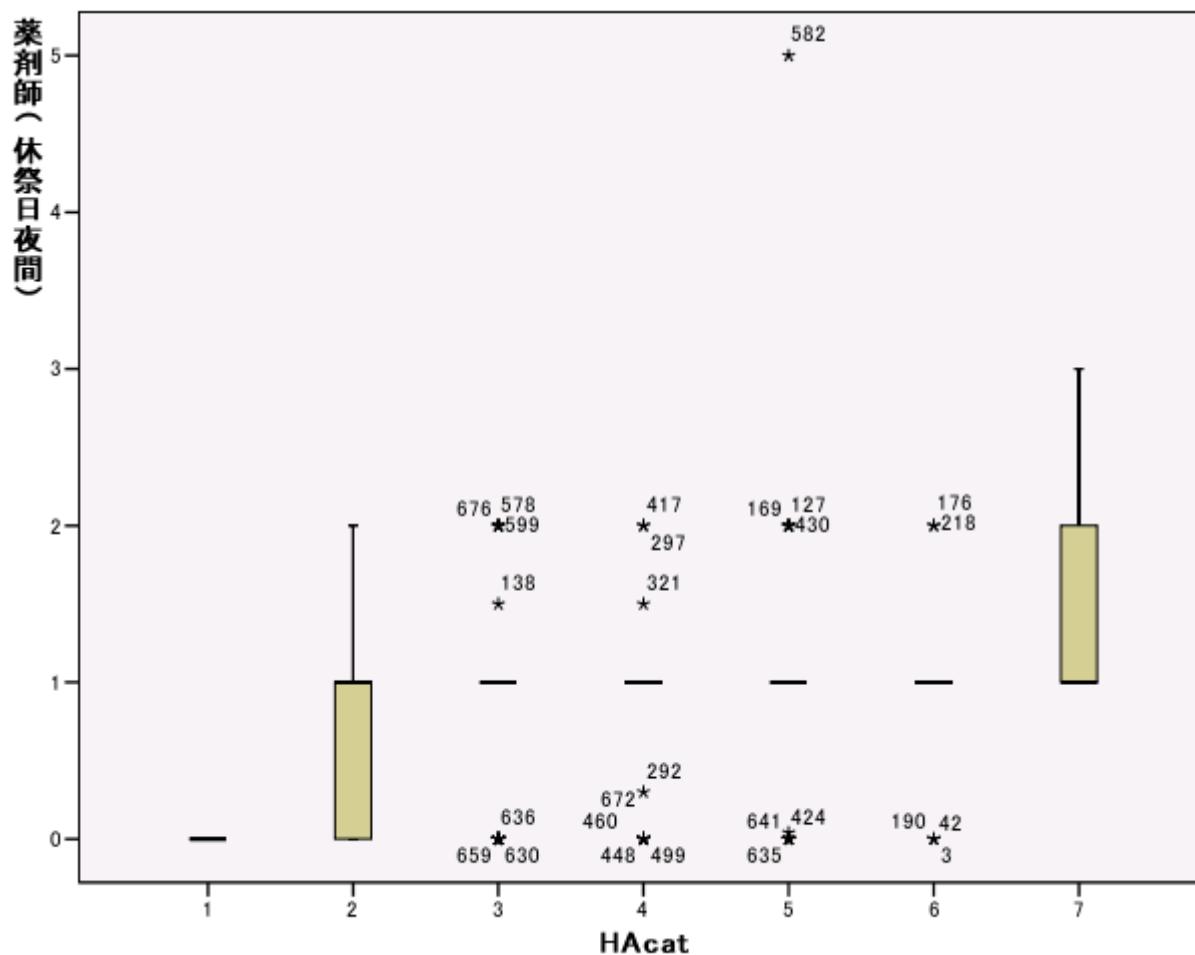
調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20



調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

調整係数のカテゴリー									
	1	2	3	4	5	6	7	合計	
臨床研修病院入院診療加算	N	2	16	83	79	52	26	15	273
	% 1	0.7	5.9	30.4	28.9	19.0	9.5	5.5	100.0
	% 2	50.0	72.7	80.6	88.8	86.7	86.7	75.0	83.2
超急性期脳卒中加算	N	0	7	54	52	33	21	15	182
	% 1	0.0	3.8	29.7	28.6	18.1	11.5	8.2	100.0
	% 2	0.0	31.8	52.4	58.4	55.0	70.0	75.0	55.5
妊産婦緊急搬送入院加算	N	0	5	58	59	35	20	15	192
	% 1	0.0	2.6	30.2	30.7	18.2	10.4	7.8	100.0
	% 2	0.0	22.7	56.3	66.3	58.3	66.7	75.0	58.5
診療録管理体制加算	N	4	21	100	86	58	27	17	313
	% 1	1.3	6.7	31.9	27.5	18.5	8.6	5.4	100.0
	% 2	100.0	95.5	97.1	96.6	96.7	90.0	85.0	95.4
医師事務作業補助体制加算	N	2	8	55	46	22	7	9	149
	% 1	1.3	5.4	36.9	30.9	14.8	4.7	6.0	100.0
	% 2	50.0	36.4	53.4	51.7	36.7	23.3	45.0	45.4
緩和ケア診療加算	N	0	0	8	10	10	5	6	39
	% 1	0.0	0.0	20.5	25.6	25.6	12.8	15.4	100.0
	% 2	0.0	0.0	7.8	11.2	16.7	16.7	30.0	11.9
精神科応急入院施設管理加算	N	0	0	1	7	3	4	0	15
	% 1	0.0	0.0	6.7	46.7	20.0	26.7	0.0	100.0
	% 2	0.0	0.0	1.0	7.9	5.0	13.3	0.0	4.6
がん診療連携拠点病院加算	N	1	3	30	34	19	14	7	108
	% 1	0.9	2.8	27.8	31.5	17.6	13.0	6.5	100.0
	% 2	25.0	13.6	29.1	38.2	31.7	46.7	35.0	32.9
ハイリスク妊娠管理加算	N	1	5	59	59	41	20	16	201
	% 1	0.5	2.5	29.4	29.4	20.4	10.0	8.0	100.0
	% 2	25.0	22.7	57.3	66.3	68.3	66.7	80.0	61.3
ハイリスク分娩管理加算	N	0	4	53	43	30	14	10	154
	% 1	0.0	2.6	34.4	27.9	19.5	9.1	6.5	100.0
	% 2	0.0	18.2	51.5	48.3	50.0	46.7	50.0	47.0
合計	N	4	22	103	89	60	30	20	328
	% 1	1.2	6.7	31.4	27.1	18.3	9.1	6.1	100.0
	% 2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、% 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

	調整係数のカテゴリー								
	1	2	3	4	5	6	7	合計	
救命救急管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	1 1.6 4.5	17 26.6 16.5	16 25.0 18.0	14 21.9 23.3	8 12.5 26.7	8 12.5 40.0	64 100.0 19.5
特定集中治療室管理料	N % 1 % 2	1 0.6 25.0	7 4.0 31.8	52 29.4 50.5	45 25.4 50.6	35 19.8 58.3	22 12.4 73.3	15 8.5 75.0	177 100.0 54.0
ハイケアユニット入院医療管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	2 6.9 9.1	11 37.9 10.7	6 20.7 6.7	8 27.6 13.3	0 0.0 0.0	2 6.9 10.0	29 100.0 8.8
脳卒中ケアユニット入院医療管理料	N % 1 % 2	1 5.9 25.0	0 0.0 0.0	2 11.8 1.9	7 41.2 7.9	4 23.5 6.7	2 11.8 6.7	1 5.9 5.0	17 100.0 5.2
新生児特定集中治療室管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	2 3.3 9.1	18 29.5 17.5	16 26.2 18.0	12 19.7 20.0	8 13.1 26.7	5 8.2 25.0	61 100.0 18.6
総合周産期特定集中治療室管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	6 19.4 5.8	4 12.9 4.5	11 35.5 18.3	4 12.9 13.3	6 19.4 30.0	31 100.0 9.5
広範囲熱傷特定集中治療室管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 16.7 1.1	2 33.3 3.3	0 0.0 0.0	3 50.0 15.0	6 100.0 1.8
一類感染症患者入院医療管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 16.7 1.0	3 50.0 3.4	2 33.3 3.3	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	6 100.0 1.8
特殊疾患入院医療管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 25.0 1.0	2 50.0 2.2	0 0.0 0.0	1 25.0 3.3	0 0.0 0.0	4 100.0 1.2
合計	N % 1 % 2	4 1.2 100.0	22 6.7 100.0	103 31.4 100.0	89 27.1 100.0	60 18.3 100.0	30 9.1 100.0	20 6.1 100.0	328 100.0 100.0

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、 % 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

調整係数のカテゴリー									
	1	2	3	4	5	6	7	合計	
小児入院医療管理料1	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 14.3 1.0	1 14.3 1.1	4 57.1 6.7	1 14.3 3.3	0 0.0 0.0	7 100.0 2.1
小児入院医療管理料2	N % 1 % 2	1 2.0 25.0	3 6.1 13.6	21 42.9 20.4	13 26.5 14.6	6 12.2 10.0	4 8.2 13.3	1 2.0 5.0	49 100.0 14.9
小児入院医療管理料3	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	2 3.3 9.1	23 38.3 22.3	16 26.7 18.0	14 23.3 23.3	4 6.7 13.3	1 1.7 5.0	60 100.0 18.3
小児入院医療管理料4	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	6 60.0 5.8	2 20.0 2.2	0 0.0 0.0	1 10.0 3.3	1 10.0 5.0	10 100.0 3.0
回復期リハビリテーション病棟入院料	N % 1 % 2	1 2.8 25.0	3 8.3 13.6	15 41.7 14.6	11 30.6 12.4	3 8.3 5.0	2 5.6 6.7	1 2.8 5.0	36 100.0 11.0
回復期リハビリテーション病棟入院料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	8 50.0 7.8	2 12.5 2.2	3 18.8 5.0	1 6.3 3.3	2 12.5 10.0	16 100.0 4.9
亜急性期入院管理料1	N % 1 % 2	2 2.7 50.0	5 6.8 22.7	32 43.2 31.1	24 32.4 27.0	6 8.1 10.0	4 5.4 13.3	1 1.4 5.0	74 100.0 22.6
亜急性期入院管理料2	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	1 50.0 4.5	1 50.0 1.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.6	2 100.0 0.6
緩和ケア病棟入院料	N % 1 % 2	1 2.9 25.0	5 14.3 22.7	13 37.1 12.6	9 25.7 10.1	5 14.3 8.3	1 2.9 3.3	1 2.9 5.0	35 100.0 10.7
合計	N % 1 % 2	4 1.2 100.0	22 6.7 100.0	103 31.4 100.0	89 27.1 100.0	60 18.3 100.0	30 9.1 100.0	20 6.1 100.0	328 100.0 100.0

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、 % 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

	調整係数のカテゴリー							
	1	2	3	4	5	6	7	合計
精神科救急入院料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 50.0 1.0	1 50.0 1.1	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	2 100.0 0.6
精神科急性期治療病棟入院料1	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 50.0 1.1	1 50.0 1.7	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	2 100.0 0.6
精神科急性期治療病棟入院料2	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 100.0 1.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 100.0 0.3
精神科救急・合併症入院料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 25.0 1.0	1 25.0 1.1	0 0.0 0.0	1 25.0 3.3	1 25.0 5.0
精神科療養病棟入院料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 50.0 1.0	1 50.0 1.1	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	2 100.0 0.6
合計	N % 1 % 2	4 1.2 100.0	22 6.7 100.0	103 31.4 100.0	89 27.1 100.0	60 18.3 100.0	30 9.1 100.0	20 6.1 100.0
								328

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、 % 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

調整係数のカテゴリー									
	1	2	3	4	5	6	7	合計	
在宅療養支援病院	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	2 50.0 1.9	1 25.0 1.1	1 25.0 1.7	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	4 100.0 1.2
長期継続頭蓋内脳波検査	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	1 1.4 4.5	15 21.4 14.6	17 24.3 19.1	17 24.3 28.3	12 17.1 40.0	8 11.4 40.0	70 100.0 21.3
光ポトグラフィー及び中枢神経磁気刺激による誘発筋電	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	2 28.6 2.2	3 42.9 5.0	1 14.3 3.3	1 14.3 5.0	7 100.0 2.1
神経磁気診断	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 12.5 1.1	2 25.0 3.3	3 37.5 10.0	2 25.0 10.0	8 100.0 2.4
神経学的検査	N % 1 % 2	1 0.6 25.0	9 5.1 40.9	50 28.1 48.5	44 24.7 49.4	36 20.2 60.0	22 12.4 73.3	16 9.0 80.0	178 100.0 54.3
補聴器適合検査	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	13 16.5 12.6	20 25.3 22.5	23 29.1 38.3	14 17.7 46.7	9 11.4 45.0	79 100.0 24.1
画像診断管理加算1	N % 1 % 2	3 1.5 75.0	10 5.1 45.5	58 29.3 56.3	52 26.3 58.4	41 20.7 68.3	23 11.6 76.7	11 5.6 55.0	198 100.0 60.4
画像診断管理加算2	N % 1 % 2	3 1.8 75.0	7 4.2 31.8	55 32.9 53.4	50 29.9 56.2	26 15.6 43.3	16 9.6 53.3	10 6.0 50.0	167 100.0 50.9
画像診断管理加算(歯科診療)	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	1 7.1 4.5	2 14.3 1.9	4 28.6 4.5	3 21.4 5.0	3 21.4 10.0	1 7.1 5.0	14 100.0 4.3
遠隔画像診断	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	1 3.1 4.5	12 37.5 11.7	4 12.5 4.5	8 25.0 13.3	5 15.6 16.7	2 6.3 10.0	32 100.0 9.8
合計	N % 1 % 2	4 1.2 100.0	22 6.7 100.0	103 31.4 100.0	89 27.1 100.0	60 18.3 100.0	30 9.1 100.0	20 6.1 100.0	328 100.0 100.0

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、 % 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

調整係数のカテゴリー									
	1	2	3	4	5	6	7	合計	
ポジトロン断層撮影またはポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	2 3.4 9.1	10 16.9 9.7	16 27.1 18.0	15 25.4 25.0	10 16.9 33.3	6 10.2 30.0	59 100.0 18.0
CT撮影及びMRI撮影	N % 1 % 2	4 1.3 100.0	19 6.2 86.4	96 31.2 93.2	85 27.6 95.5	58 18.8 96.7	28 9.1 93.3	18 5.8 90.0	308 100.0 93.9
冠動脈CT撮影加算	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	3 2.9 13.6	29 28.4 28.2	31 30.4 34.8	16 15.7 26.7	12 11.8 40.0	11 10.8 55.0	102 100.0 31.1
心臓MRI撮影加算	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	4 3.2 18.2	35 28.0 34.0	37 29.6 41.6	26 20.8 43.3	13 10.4 43.3	10 8.0 50.0	125 100.0 38.1
外来化学療法加算1	N % 1 % 2	3 1.4 75.0	10 4.8 45.5	64 30.9 62.1	60 29.0 67.4	34 16.4 56.7	22 10.6 73.3	14 6.8 70.0	207 100.0 63.1
外来化学療法加算2	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	7 10.4 31.8	18 26.9 17.5	19 28.4 21.3	14 20.9 23.3	5 7.5 16.7	4 6.0 20.0	67 100.0 20.4
心大血管疾患リハI	N % 1 % 2	1 1.1 25.0	7 7.9 31.8	32 36.0 31.1	16 18.0 18.0	18 20.2 30.0	8 9.0 26.7	7 7.9 35.0	89 100.0 27.1
心大血管疾患リハII	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	8 29.6 7.8	6 22.2 6.7	5 18.5 8.3	6 22.2 20.0	2 7.4 10.0	27 100.0 8.2
脳血管疾患等リハI	N % 1 % 2	1 0.5 25.0	12 5.9 54.5	63 30.7 61.2	52 25.4 58.4	43 21.0 71.7	20 9.8 66.7	14 6.8 70.0	205 100.0 62.5
脳血管疾患等リハII	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	3 7.5 13.6	15 37.5 14.6	9 22.5 10.1	8 20.0 13.3	3 7.5 10.0	2 5.0 10.0	40 100.0 12.2
脳血管疾患等リハIII	N % 1 % 2	2 2.9 50.0	6 8.6 27.3	23 32.9 22.3	22 31.4 24.7	9 12.9 15.0	5 7.1 16.7	3 4.3 15.0	70 100.0 21.3
合計	N % 1 % 2	4 1.2 100.0	22 6.7 100.0	103 31.4 100.0	89 27.1 100.0	60 18.3 100.0	30 9.1 100.0	20 6.1 100.0	328 100.0 100.0

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、 % 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

	調整係数のカテゴリー							合計	
	1	2	3	4	5	6	7		
救命救急管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	1 1.6 4.5	17 26.6 16.5	16 25.0 18.0	14 21.9 23.3	8 12.5 26.7	8 12.5 40.0	64 100.0 19.5
特定集中治療室管理料	N % 1 % 2	1 0.6 25.0	7 4.0 31.8	52 29.4 50.5	45 25.4 50.6	35 19.8 58.3	22 12.4 73.3	15 8.5 75.0	177 100.0 54.0
ハイケアユニット入院医療管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	2 6.9 9.1	11 37.9 10.7	6 20.7 6.7	8 27.6 13.3	0 0.0 0.0	2 6.9 10.0	29 100.0 8.8
脳卒中ケアユニット入院医療管理料	N % 1 % 2	1 5.9 25.0	0 0.0 0.0	2 11.8 1.9	7 41.2 7.9	4 23.5 6.7	2 11.8 6.7	1 5.9 5.0	17 100.0 5.2
新生児特定集中治療室管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	2 3.3 9.1	18 29.5 17.5	16 26.2 18.0	12 19.7 20.0	8 13.1 26.7	5 8.2 25.0	61 100.0 18.6
総合周産期特定集中治療室管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	6 19.4 5.8	4 12.9 4.5	11 35.5 18.3	4 12.9 13.3	6 19.4 30.0	31 100.0 9.5
広範囲熱傷特定集中治療室管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 16.7 1.1	2 33.3 3.3	0 0.0 0.0	3 50.0 15.0	6 100.0 1.8
一類感染症患者入院医療管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 16.7 1.0	3 50.0 3.4	2 33.3 3.3	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	6 100.0 1.8
特殊疾患入院医療管理料	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 25.0 1.0	2 50.0 2.2	0 0.0 0.0	1 25.0 3.3	0 0.0 0.0	4 100.0 1.2
合計	N % 1 % 2	4 1.2 100.0	22 6.7 100.0	103 31.4 100.0	89 27.1 100.0	60 18.3 100.0	30 9.1 100.0	20 6.1 100.0	328 100.0 100.0

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、 % 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

調整係数のカテゴリー									
	1	2	3	4	5	6	7	合計	
運動器リハ I	N	3	19	97	82	57	28	16	302
	% 1	1.0	6.3	32.1	27.2	18.9	9.3	5.3	100.0
	% 2	75.0	86.4	94.2	92.1	95.0	93.3	80.0	92.1
運動器リハ II	N	0	2	4	2	4	0	3	15
	% 1	0.0	13.3	26.7	13.3	26.7	0.0	20.0	100.0
	% 2	0.0	9.1	3.9	2.2	6.7	0.0	15.0	4.6
呼吸器リハ I	N	2	14	78	72	53	21	16	256
	% 1	0.8	5.5	30.5	28.1	20.7	8.2	6.3	100.0
	% 2	50.0	63.6	75.7	80.9	88.3	70.0	80.0	78.0
呼吸器リハ II	N	1	1	10	5	3	2	1	23
	% 1	4.3	4.3	43.5	21.7	13.0	8.7	4.3	100.0
	% 2	25.0	4.5	9.7	5.6	5.0	6.7	5.0	7.0
難病患者リハ	N	0	0	1	0	2	1	1	5
	% 1	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	100.0
	% 2	0.0	0.0	1.0	0.0	3.3	3.3	5.0	1.5
精神科作業療法料	N	0	0	3	5	2	6	3	19
	% 1	0.0	0.0	15.8	26.3	10.5	31.6	15.8	100.0
	% 2	0.0	0.0	2.9	5.6	3.3	20.0	15.0	5.8
内視鏡下椎弓切除術・内視鏡 下椎間板摘出(切除)術	N	0	0	7	8	4	7	7	33
	% 1	0.0	0.0	21.2	24.2	12.1	21.2	21.2	100.0
	% 2	0.0	0.0	6.8	9.0	6.7	23.3	35.0	10.1
内視鏡下椎間板摘出術・内視 鏡下脊椎固定術	N	0	0	2	3	1	2	1	9
	% 1	0.0	0.0	22.2	33.3	11.1	22.2	11.1	100.0
	% 2	0.0	0.0	1.9	3.4	1.7	6.7	5.0	2.7
頭蓋骨形成手術	N	0	0	3	5	4	4	3	19
	% 1	0.0	0.0	15.8	26.3	21.1	21.1	15.8	100.0
	% 2	0.0	0.0	2.9	5.6	6.7	13.3	15.0	5.8
脳(脊髄)刺激装置植込術及 び脳(脊髄)刺激装置交換術	N	1	5	39	39	31	19	15	149
	% 1	0.7	3.4	26.2	26.2	20.8	12.8	10.1	100.0
	% 2	25.0	22.7	37.9	43.8	51.7	63.3	75.0	45.4
合計	N	4	22	103	89	60	30	20	328
	% 1	1.2	6.7	31.4	27.1	18.3	9.1	6.1	100.0
	% 2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、 % 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

調整係数のカテゴリー									
	1	2	3	4	5	6	7	合計	
人工内耳埋込術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	3 6.8 2.9	8 18.2 9.0	14 31.8 23.3	10 22.7 33.3	9 20.5 45.0	44 100.0 13.4
上顎骨形成術・下顎骨形成術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	1 4.3 4.5	3 13.0 2.9	7 30.4 7.9	3 13.0 5.0	5 21.7 16.7	4 17.4 20.0	23 100.0 7.0
同種死体肺移植術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	3 60.0 3.4	1 20.0 1.7	1 20.0 3.3	0 0.0 0.0	5 100.0 1.5
生体部分肺移植術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	2 50.0 2.2	1 25.0 1.7	1 25.0 3.3	0 0.0 0.0	4 100.0 1.2
経皮的冠動脈形成術	N % 1 % 2	1 0.9 25.0	3 2.7 13.6	27 24.5 26.2	28 25.5 31.5	25 22.7 41.7	12 10.9 40.0	14 12.7 70.0	110 100.0 33.5
経皮的中隔心筋焼却術	N % 1 % 2	1 0.9 25.0	3 2.7 13.6	27 24.5 26.2	32 29.1 36.0	24 21.8 40.0	12 10.9 40.0	11 10.0 55.0	110 100.0 33.5
ペースメーカー移植術・ペース メーカー交換術	N % 1 % 2	2 0.7 50.0	17 5.8 77.3	93 32.0 90.3	80 27.5 89.9	54 18.6 90.0	27 9.3 90.0	18 6.2 90.0	291 100.0 88.7
両心室ペースメーカー移植 術・両心室ペースメーカー交	N % 1 % 2	1 0.9 25.0	2 1.7 9.1	28 23.9 27.2	26 22.2 29.2	29 24.8 48.3	16 13.7 53.3	15 12.8 75.0	117 100.0 35.7
両室ペーシン機能付埋込型除 細動器移植術・交換術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	1 1.3 4.5	10 12.8 9.7	21 26.9 23.6	18 23.1 30.0	13 16.7 43.3	15 19.2 75.0	78 100.0 23.8
大動脈バルーンパンピング法 (IABP)	N % 1 % 2	2 0.7 50.0	15 5.5 68.2	82 30.3 79.6	76 28.0 85.4	51 18.8 85.0	27 10.0 90.0	18 6.6 90.0	271 100.0 82.6
合計	N % 1 % 2	4 1.2 100.0	22 6.7 100.0	103 31.4 100.0	89 27.1 100.0	60 18.3 100.0	30 9.1 100.0	20 6.1 100.0	328 100.0 100.0

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、 % 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

調整係数のカテゴリー									
	1	2	3	4	5	6	7	合計	
補助人工心臓	N % 1 % 2	1 1.8 25.0	0 0.0 0.0	8 14.0 7.8	8 14.0 9.0	18 31.6 30.0	10 17.5 33.3	12 21.1 60.0	57 100.0 17.4
埋込型補助人工心臓	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 20.0 1.1	3 60.0 5.0	0 0.0 0.0	1 20.0 5.0	5 100.0 1.5
同種心移植術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 25.0 1.1	1 25.0 1.7	1 25.0 3.3	1 25.0 5.0	4 100.0 1.2
同種心肺移植術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 50.0 1.1	1 50.0 1.7	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	2 100.0 0.6
体外衝撃波胆石破碎術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	3 2.9 13.6	26 25.5 25.2	31 30.4 34.8	24 23.5 40.0	9 8.8 30.0	9 8.8 45.0	102 100.0 31.1
生体部分肝移植術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	2 5.7 1.9	4 11.4 4.5	11 31.4 18.3	9 25.7 30.0	9 25.7 45.0	35 100.0 10.7
同種死体肝移植術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 11.1 1.0	4 44.4 4.5	2 22.2 3.3	1 11.1 3.3	1 11.1 5.0	9 100.0 2.7
同種死体肺(腎)移植術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 20.0 1.1	1 20.0 1.7	1 20.0 3.3	2 40.0 10.0	5 100.0 1.5
腹腔鏡下小切開副腎摘出術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	2 33.3 3.3	1 16.7 3.3	3 50.0 15.0	6 100.0 1.8
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	12 6.3 54.5	56 29.3 54.4	54 28.3 60.7	39 20.4 65.0	16 8.4 53.3	14 7.3 70.0	191 100.0 58.2
合計	N % 1 % 2	4 1.2 100.0	22 6.7 100.0	103 31.4 100.0	89 27.1 100.0	60 18.3 100.0	30 9.1 100.0	20 6.1 100.0	328 100.0 100.0

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、 % 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

調整係数のカテゴリー									
	1	2	3	4	5	6	7	合計	
腹腔鏡下小切開腎部分切除 術・摘出術・腎(尿管)悪性腫 瘍手術	N % 1 % 2	1 1.8 25.0	0 0.0 0.0	8 14.0 7.8	8 14.0 9.0	18 31.6 30.0	10 17.5 33.3	12 21.1 60.0	57 100.0 17.4
同種死体腎移植術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	9 15.8 8.7	11 19.3 12.4	17 29.8 28.3	11 19.3 36.7	9 15.8 45.0	57 100.0 17.4
生体腎移植術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	11 17.5 10.7	11 17.5 12.4	20 31.7 33.3	13 20.6 43.3	8 12.7 40.0	63 100.0 19.2
焦点式高エネルギー超音波 療法	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 16.7 1.0	0 0.0 0.0	1 16.7 1.7	1 16.7 3.3	3 50.0 15.0	6 100.0 1.8
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	3 17.6 2.9	1 5.9 1.1	4 23.5 6.7	5 29.4 16.7	4 23.5 20.0	17 100.0 5.2
腹腔鏡下小切開前立腺悪性 腫瘍手術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 10.0 1.0	1 10.0 1.1	2 20.0 3.3	3 30.0 10.0	3 30.0 15.0	10 100.0 3.0
医科点数表第2章第10部通則 5・6手術	N % 1 % 2	3 1.0 75.0	17 5.7 77.3	97 32.4 94.2	77 25.8 86.5	57 19.1 95.0	29 9.7 96.7	19 6.4 95.0	299 100.0 91.2
輸血管理料 I	N % 1 % 2	1 1.4 25.0	3 4.3 13.6	22 31.4 21.4	14 20.0 15.7	22 31.4 36.7	4 5.7 13.3	4 5.7 20.0	70 100.0 21.3
輸血管理料 II	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	5 8.6 22.7	21 36.2 20.4	20 34.5 22.5	9 15.5 15.0	3 5.2 10.0	0 0.0 0.0	58 100.0 17.7
歯周組織再生誘導手術	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	2 4.3 9.1	9 19.1 8.7	11 23.4 12.4	13 27.7 21.7	8 17.0 26.7	4 8.5 20.0	47 100.0 14.3
合計	N % 1 % 2	4 1.2 100.0	22 6.7 100.0	103 31.4 100.0	89 27.1 100.0	60 18.3 100.0	30 9.1 100.0	20 6.1 100.0	328 100.0 100.0

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、 % 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20

調整係数のカテゴリー									
	1	2	3	4	5	6	7	合計	
麻酔管理料	N % 1 % 2	3 1.1 75.0	15 5.3 68.2	88 31.0 85.4	79 27.8 88.8	54 19.0 90.0	27 9.5 90.0	18 6.3 90.0	284 100.0 86.6
放射線治療専任加算	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	4 2.9 18.2	35 25.4 34.0	38 27.5 42.7	31 22.5 51.7	17 12.3 56.7	13 9.4 65.0	138 100.0 42.1
外来放射線治療加算	N % 1 % 2	1 0.8 25.0	2 1.5 9.1	36 27.7 35.0	35 26.9 39.3	27 20.8 45.0	16 12.3 53.3	13 10.0 65.0	130 100.0 39.6
高エネルギー放射線治療	N % 1 % 2	2 1.2 50.0	6 3.7 27.3	38 23.6 36.9	50 31.1 56.2	32 19.9 53.3	20 12.4 66.7	13 8.1 65.0	161 100.0 49.1
強度変調放射線治療(IMRT)	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	2 10.5 9.1	0 0.0 0.0	6 31.6 6.7	5 26.3 8.3	3 15.8 10.0	3 15.8 15.0	19 100.0 5.8
直線加速器による定位放射線治療	N % 1 % 2	1 1.4 25.0	1 1.4 4.5	18 25.4 17.5	13 18.3 14.6	16 22.5 26.7	14 19.7 46.7	8 11.3 40.0	71 100.0 21.6
テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作成	N % 1 % 2	1 3.0 25.0	1 3.0 4.5	10 30.3 9.7	9 27.3 10.1	4 12.1 6.7	6 18.2 20.0	2 6.1 10.0	33 100.0 10.1
後発医薬品調剤体制加算	N % 1 % 2	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 100.0 1.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	0 0.0 0.0	1 100.0 0.3
保険薬局の無菌製剤処理加算	N % 1 % 2	1 4.8 25.0	3 14.3 13.6	10 47.6 9.7	3 14.3 3.4	1 4.8 1.7	2 9.5 6.7	1 4.8 5.0	21 100.0 6.4
合計	N % 1 % 2	4 1.2 100.0	22 6.7 100.0	103 31.4 100.0	89 27.1 100.0	60 18.3 100.0	30 9.1 100.0	20 6.1 100.0	328 100.0 100.0

% 1: 当該項目を算定している施設の中での割合、% 2: 調整係数の各カテゴリーの施設内での割合

調整係数のカテゴリー

1: < 0.95 2: < 1.00 3: < 1.05 4: < 1.10 5: < 1.15 6: < 1.20 7: >=1.20